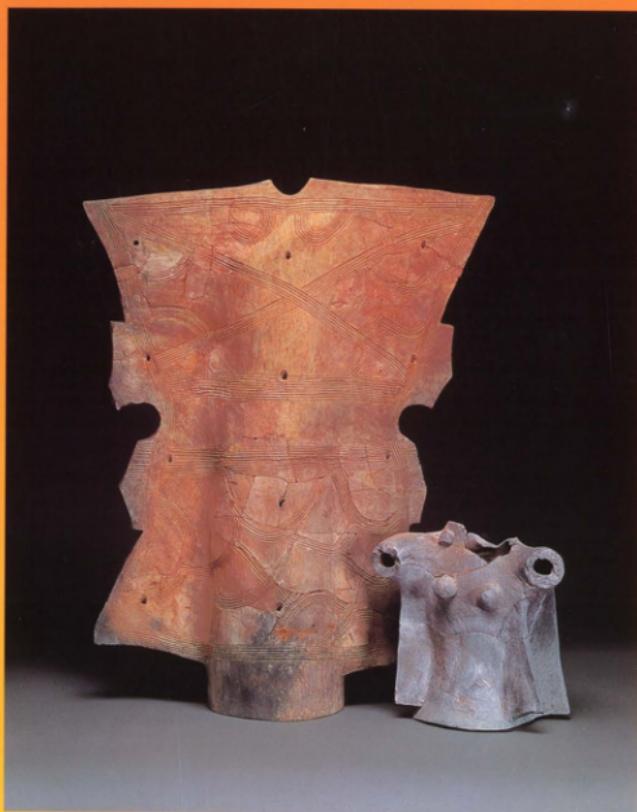


平成 8 年度  
神戸市埋蔵文化財年報



1999  
神戸市教育委員会

平成 8 年度  
神戸市埋蔵文化財年報

1 9 9 9

神戸市教育委員会



fig. 1 城ヶ谷遺跡（第9区）全景

権谷川中流域左岸の標高100~70mの丘陵上に立地する弥生時代中期末から後期前半の高地性集落である。

丘陵の頂部と斜面には、これまでの調査で33棟の竪穴住居が検出された。また、尾根を切断し、遺跡の東南限を画する壕状遺構の発見もあった。（本文279頁）



fig. 2 頭高山遺跡 標高117m前後の丘陵に築かれた中世山岳寺院



fig. 3 1号基壇（本堂）遠景 尾根斜面を切りくずし基壇を造りだしている。（本文249頁）



fig. 4 大開遺跡 第7次調査 環濠 SD301出土の木製品

弥生時代前期前半段階の環濠集落が検出された第1次調査地の東約100mの地点で幅3～4m、深さ1.5m前後の大溝が発見された。集落の周間に巡らされた環濠の可能性がある。溝内からは、弥生時代前期中頃～後半の土器や木製品（杓子・鍬・斧の柄等）が出土した。（本文141頁）



fig. 5 高津橋大塚古墳出土の青銅鏡と玉

西区玉津町高津橋に所在する高津橋大塚古墳は、5世紀後半頃の築造と考えられる直径約20mの円墳である。

埋葬施設は、棺を安定させるための粘土床が検出され、そこに残された痕跡から割竹形木棺が納められていたと考えられる。棺にはほぼ全面に朱が塗布されており、その中央東よりで擬文鏡（あるいは変形四獸鏡）1面、滑石製の勾玉、管玉、臼玉が副葬されていた。（本文301頁）

また、この古墳の東側にも古墳の痕跡が検出され、周辺から盾形埴輪（表紙写真）や巫女形埴輪、家形埴輪、円筒埴輪などが出土した。（本文307頁）

## 序

阪神・淡路大震災から5年目を迎えたが、復興事業に伴う発掘調査は今も継続して行われています。本書は、震災から2年目の平成8年度に実施しました遺跡の発掘調査の成果を載せておりますが、その8割が復興事業に伴う調査です。“復旧から創造的復興へ”、復興事業が本格化した平成8年度は、前年度にも増して全国各自治体からの支援を受け発掘調査を進めてまいりました。復興事業の推進との整合を図りながら、100件を越す発掘調査に対応できましたのも、多くの方々のご支援とご協力によるものと感謝いたしております。

さて、本書は平成8年度に実施した事業の概要と主な発掘調査の成果をまとめたものです。震災後の埋蔵文化財に係る状況は大きく変化しました。大災害等の非常時における遺跡調査の初めてのケースとして今回の調査の是非については将来の判断に委ねられますが、本書を通じて埋蔵文化財に対するご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後に、調査およびこの年報作成にご協力いただいた関係諸機関、関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成11年3月

神戸市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、神戸市教育委員会が平成8年度に実施した埋蔵文化財調査事業の概要である。事業に関する発掘調査は、神戸市文化財専門委員会の指導を得て、下記の調査組織によって実施した。

### 調査関係者組織表

#### 神戸市文化財専門委員会（埋蔵文化財部会委員）

権上 重光　　神戸女子短期大学教授

和田 瞬吾　　立命館大学文学部教授

山岸 常人　　神戸芸術工科大学助教授

#### 教育委員会事務局

（助）神戸市スポーツ教育公社

教　　育　　長	鞍本 昌男	理　　事　　長	福尾 重信
社会教育部長	矢野 栄一郎	専　務　理　事	田村 篤雄
文化財課長	杉田 年章	常　務　理　事	中野 洋二
社会教育部主幹	奥田 普通	事　業　課　主　幹	家根 康行
埋蔵文化財係長	渡辺 伸行	文化財調査係長	丹治 康明
文化財課主査	丹治 康明・丸山 蘭	事務担当学芸員	黒田 恒正
事務担当学芸員	菅本 宏明・松林 宏典	調査担当学芸員	口野 博史・黒田 恒正
	橋詰 清孝		谷 正俊・山本 雅和
調査担当学芸員	西岡 巧次・千種 浩		須藤 宏・山口 英正
	西岡 誠司・前田 佳久		富山 直人・佐伯 二郎
	安田 滋・斎木 巍		東 寛代秀・内藤 俊哉
	池田 穀・阿部 敬生		浅谷 誠吾・井尻 格
	藤井 太郎・関野 豊		川上 厚志・石島 三和
	阿部 功		中村 大介

#### 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所復興調査会班（神戸市調査担当職員）

工藤 忍	(青森県)	鎌田 勉	(岩手県)	菊地 逸夫	(宮城県)
山田 晃弘	(宮城県)	金森 安孝	(仙台市)	小野田義和	(福島県)
矢口 裕之	(群馬県)	岩田 明弘	(埼玉県)	伊藤 敏行	(東京都)
神野 信	(千葉県)	白根 義久	(千葉市)	中田 英	(神奈川県)
小林 公治	(山梨県)	菊地 吉修	(静岡県)	大川 勝宏	(三重県)
兼康 保明	(滋賀県)	大道 和人	(滋賀県)	石崎 喜久	(京都府)
岸岡 貴英	(京都府)	藤井 整	(京都府)	柳宜田佳男	(大阪府)
今村 道雄	(大阪府)	岡本 敏行	(大阪府)	大西 貴夫	(奈良県)
富加見康彦	(和歌山县)	吉田 宣夫	(和歌山县)	久保 弘幸	(兵庫県)
柏原 正民	(兵庫県)	弘田 和司	(岡山県)	石田 彰紀	(広島市)
家塙 英詞	(鳥取県)	日次 謙一	(鳥取県)	友岡 信彦	(大分県)
町田 利幸	(長崎県)	宮崎 敬士	(熊本県)	和田 理啓	(宮崎県)
東 和幸	(鹿児島県)				

2. 本書に掲載した位置図は、神戸私立中学校教育研究部編集（神戸市スポーツ教育公社発行）の5万分の1神戸市全国を、各遺跡の位置図は、神戸市発行2500分の1地形図を使用した。
3. 本書は、埋蔵文化財発掘調査一覧表に示した各調査担当者が執筆し、I. 平成8年度事業の概要については菅本宏明が執筆した。本書の編集については、橋詰清孝、浅谷誠吾が行った。
4. 大開道跡第7次調査、宅原遺跡宮之元地区的報告中の木製品の樹種同定については、(株)パレオ・ラボに依頼したもので松葉礼子の執筆によるものである。
5. 表紙写真は、高津橋大塚遺跡出土の盾形埴輪と巫女神埴輪で、裏表紙写真は、高津橋大塚古墳出土の青銅鏡と玉（本文301頁）である。

# 目 次

序

例 言

I. 平成8年度 事業の概要 .....	1
平成8年度 埋蔵文化財発掘調査一覧 .....	5
平成8年度 神戸市埋蔵文化財調査位置図 .....	13
II. 平成8年度の復興事業に伴う発掘調査 .....	19
1. 深江北町遺跡 第8次調査 .....	19
2. 本山遺跡 第20次調査 .....	23
3. 本山遺跡 第21次調査 .....	29
4. 本山遺跡 第22次調査 .....	31
5. 本山遺跡 第23次調査 .....	39
6. 本山遺跡 第24次調査 .....	41
7. 本山遺跡 第25次調査 .....	43
8. 本山遺跡 第26次調査 .....	45
9. 魚崎中町遺跡 第3次調査 .....	47
10. 魚崎中町遺跡 第4次調査 .....	53
11. 井戸田遺跡 第2次調査 .....	55
12. 小路大町遺跡 第2次調査 .....	57
13. 森北町遺跡 第17次調査 .....	59
14. 住吉宮町遺跡 第19次調査 .....	61
15. 住吉宮町遺跡 第20次調査 .....	71
16. 住吉宮町遺跡 第21次調査 .....	79
17. 住吉宮町遺跡 第22次調査 .....	81
18. 住吉宮町遺跡 第23次調査 .....	83
19. 郡家遺跡 御影中町地区 第6次調査 .....	89
20. 郡家遺跡 篠之坪地区 第14次調査 .....	91
21. 篠原遺跡 第15次調査 .....	95
22. 都賀遺跡 第7次調査 .....	97
23. 西郷古酒蔵群（沢の鶴大石蔵） .....	105
24. 西求女塚古墳 第8次調査 .....	115
25. 日暮遺跡 第13次調査 .....	117
26. 喜井遺跡 第8次調査 .....	121
27. 楠・荒出町遺跡 第14次調査 .....	127
28. 兵庫津遺跡 第6次調査 .....	129
29. 兵庫津遺跡 第7次調査 .....	131

30. 兵庫津遺跡 (工事立会調査).....	135
31. 祇園遺跡 第6次調査 .....	139
32. 大園遺跡 第7次調査 .....	141
33. 上沢遺跡 第3次調査 .....	161
34. 上沢遺跡 第4次調査 .....	169
35. 上沢遺跡 第5次調査 .....	171
36. 上沢遺跡 第6次調査 .....	175
37. 上沢遺跡 第7次調査 .....	177
38. 岡場遺跡 第2次調査 .....	179
39. 長田神社境内遺跡 第6次調査 .....	183
40. 長田神社境内遺跡 第7次調査 .....	189
41. 御船遺跡 第1次調査 .....	197
42. 松野遺跡 第4次調査 .....	201
43. 松野遺跡 第5次調査 .....	207
44. 二葉町遺跡 第3次調査 .....	209
45. 二葉町遺跡 第4次調査 .....	213
46. 戎町遺跡 第22次調査 .....	215
47. 戎町遺跡 第24次調査 .....	223
48. 大手町遺跡 第2・4次調査.....	231
49. 垂水・日向遺跡 第15次調査 .....	239
50. ニッ屋遺跡 第4次調査 .....	245
51. ニッ屋遺跡 第5次調査 .....	247
52. 頭高山遺跡 第7次調査 .....	249
53. 頭高山遺跡 第8次調査 .....	259
54. 白水遺跡 延命寺地区 第2次調査・北端地区 第5次調査 .....	263
55. 池上北遺跡 .....	271
56. 城ヶ谷遺跡 第2次調査 .....	279
57. 比金山如意寺三重塔 .....	289
58. 水谷遺跡 第5次調査 .....	293
59. 水谷大東古墳 .....	297
60. 高津橋大塚古墳・高津橋大塚遺跡 .....	301
61. 高津橋大塚遺跡 第2次調査 .....	309
62. 丸塚遺跡 .....	315
63. 新方遺跡 丁の坪地区 第6次調査 .....	321
64. 新方遺跡 東方地区 第5次調査 .....	327
65. 新方遺跡 七反田地区 第2次調査 .....	331
66. 新方遺跡 西方地区 第3次調査 .....	333
67. 出合遺跡 第35次調査 .....	339

III. 平成 8 年度の通常事業に伴う発掘調査 .....	341
1. 本庄町遺跡 第 5 次調査 .....	341
2. 吉尾遺跡 第 3 次調査・附物遺跡 第 3 次調査 .....	345
3. 屏風遺跡 第10次調査 .....	351
4. 屏風遺跡 第11次調査 .....	357
5. 宅原遺跡 .....	359
6. 勝姫遺跡 第 1 次調査 .....	367
7. 田中家住宅 .....	371
8. 長田神社境内遺跡 第8次調査 .....	377
9. 戸町遺跡 第15次調査 .....	381
10. 戸町遺跡 第23次調査 .....	389
11. 宮鳳遺跡 第 2 次調査 .....	393
12. 長谷遺跡 .....	401
13. 柳木遺跡 第12次調査 .....	403
14. 菖野遺跡 第 2 次調査 .....	405
15. 西挿ニュータウン内第62地点遺跡 第 7 次調査 .....	411
16. 高津橋岡遺跡 第 5 次調査 .....	419
17. 玉津田中遺跡 第12次調査 .....	423
IV. 平成 8 年度の大規模試掘調査 .....	427
V. 平成 8 年度の保存科学調査・作業の概要 .....	441

## 挿図目次

fig. 1	城ヶ谷遺跡 9区全景	卷頭	fig. 48	調査位置図	43
fig. 2	頭高山遺跡全景	卷頭	fig. 49	調査位置図	43
fig. 3	1号墓塚遠景	卷頭	fig. 50	遺構面平面図・断面図	44
fig. 4	大開遺跡環濠SD3001出土木製品	卷頭	fig. 51	調査位置図	45
fig. 5	高津橋大塚古墳出土の青銅鏡と土器	卷頭	fig. 52	調査位置図	45
fig. 6	調査位置図	19	fig. 53	調査区平面図・断面図	46
fig. 7	調査区配置図	19	fig. 54	調査位置図	47
fig. 8	遺構平面図	20	fig. 55	第1遺構面平面図	48
fig. 9	SK01平面図・立面図	21	fig. 56	出土遺物実測図	48
fig. 10	1A区～1B区遺構検出状況〔写真〕	21	fig. 57	第2・3遺構面平面図	49
fig. 11	4区遺構検出状況〔写真〕	21	fig. 58	南側部分水田〔写真〕	49
fig. 12	SK01須恵器双耳壺出土状況〔写真〕	21	fig. 59	第1号周溝墓〔写真〕	50
fig. 13	SK02遺物出土状況〔写真〕	21	fig. 60	第1号周溝墓出土遺物実測図	50
fig. 14	SK01須恵器双耳壺実測図	22	fig. 61	第3遺構面全景〔写真〕	51
fig. 15	調査位置図	23	fig. 62	第3号周溝墓〔写真〕	51
fig. 16	第1遺構面平面図	24	fig. 63	第2・3号周溝墓出土遺物実測図	51
fig. 17	SK11出土骨製品〔写真〕	25	fig. 64	第3号土坑出土遺物実測図	52
fig. 18	第1遺構面全景〔写真〕	25	fig. 65	第3号土坑検出状況〔写真〕	52
fig. 19	土坑群検出状況〔写真〕	26	fig. 66	第3号土坑完掘状況〔写真〕	52
fig. 20	土器棺1平面図・断面図	26	fig. 67	調査位置図	53
fig. 21	土器棺1検出状況〔写真〕	26	fig. 68	調査区東半部断面図	53
fig. 22	土器棺2検出状況〔写真〕	26	fig. 69	調査区平面図	54
fig. 23	土器棺墓検出状況〔写真〕	26	fig. 70	調査位置図	55
fig. 24	第2遺構面平面図	27	fig. 71	第2遺構面水田畦畔〔写真〕	55
fig. 25	土器群201出土状況〔写真〕	27	fig. 72	第3遺構面〔写真〕	55
fig. 26	南上空からの調査地〔写真〕	28	fig. 73	第3遺構面平面図	56
fig. 27	調査位置図	29	fig. 74	調査位置図	57
fig. 28	遺構平面図	30	fig. 75	遺構平面図	58
fig. 29	第20次調査地との位置関係図	30	fig. 76	15層上面繩文土器出土状況	58
fig. 30	調査位置図	31	fig. 77	15層上面出土繩文土器実測図	58
fig. 31	第1遺構面平面図	32	fig. 78	調査位置図	59
fig. 32	第1遺構面水田平面図	32	fig. 79	溝検出状況〔写真〕	60
fig. 33	第1遺構面大畦畔と水路〔写真〕	32	fig. 80	調査区平面図・断面図	60
fig. 34	第2遺構面平面図	33	fig. 81	調査位置図	61
fig. 35	第2遺構面第3号掘立柱建物〔写真〕	33	fig. 82	第1遺構面平面図	62
fig. 36	第2遺構面第4号溝〔写真〕	33	fig. 83	第1遺構面全景〔写真〕	62
fig. 37	第1号住居平面図・断面図	34	fig. 84	第1遺構面石組遺構〔写真〕	62
fig. 38	第2号住居平面図	34	fig. 85	第2遺構面平面図	63
fig. 39	第1号住居遺物出土状況〔写真〕	35	fig. 86	第2遺構面全景〔写真〕	63
fig. 40	第1・2号住居〔写真〕	35	fig. 87	掘立柱建物〔写真〕	63
fig. 41	掘立柱建物平面図・断面図	36	fig. 88	第3遺構面平面図	64
fig. 42	第1号住居遺物出土状況	37	fig. 89	第3遺構面全景〔写真〕	64
fig. 43	第1号住居出土遺物実測図	38	fig. 90	2号埴全景〔写真〕	64
fig. 44	調査位置図	39	fig. 91	1号埴平面図・断面図及び出土遺物	65
fig. 45	遺構平面図	40	fig. 92	小石郭平面図・断面図	65
fig. 46	調査位置図	41	fig. 93	3号埴北側周溝遺物出土状況〔写真〕	66
fig. 47	調査区平面図・断面図	42	fig. 94	3号埴北側周溝内出土須恵器〔写真〕	66

fig. 95	3号墳周溝内遺物出土状況図	66	fig. 144	調査区断面図	96
fig. 96	3号墳周溝内出土遺物実測図	67	fig. 145	調査地位置図	97
fig. 97	第4遺構面平面図	68	fig. 146	I区第1遺構面平面図	97
fig. 98	V層遺物出土状況図	68	fig. 147	I区第2遺構面平面図	98
fig. 99	V層出土遺物実測図	69	fig. 148	豊穴住居SB01平面図	98
fig. 100	V層出土遺物実測図	70	fig. 149	豊穴住居SB01〔写真〕	98
fig. 101	調査地位置図	71	fig. 150	I区第3遺構面平面図	99
fig. 102	土層断面図	72	fig. 151	方形周溝墓平面図	99
fig. 103	第1遺構面全景〔写真〕	72	fig. 152	I区第3遺構面方形周溝墓	99
fig. 104	第2遺構面全景〔写真〕	72	fig. 153	II・IV区遺構面平面図	100
fig. 105	第1遺構面半面図	73	fig. 154	IV区第1遺構面全景〔写真〕	100
fig. 106	第2遺構面半面図	73	fig. 155	IV区第2遺構面全景〔写真〕	100
fig. 107	石組遺構SX25検査状況〔写真〕	74	fig. 156	IV区第2遺構面SD102〔写真〕	101
fig. 108	石組遺構SX25遺物出土状況〔写真〕	74	fig. 157	IV区第2遺構面SD105〔写真〕	101
fig. 109	石組遺構SX25平面図・立面図及び 出土遺物実測図	74	fig. 158	SD102遺物出土状況〔写真〕	101
	出土遺物実測図	74	fig. 159	SD105遺物出土状況〔写真〕	101
fig. 110	第3遺構面平面図	75	fig. 160	II区第3遺構面全景〔写真〕	102
fig. 111	第3遺構面全景〔写真〕	75	fig. 161	IV区第3遺構面全景〔写真〕	102
fig. 112	旧河道木製品出土状況〔写真〕	75	fig. 162	III区第2遺構面半面図	103
fig. 113	旧河道出土木製品実測図	76	fig. 163	III区第2遺構面全景〔写真〕	103
fig. 114	旧河道1出土遺物実測図	77	fig. 164	出土遺物実測図	104
fig. 115	旧河道1出土遺物実測図	78	fig. 165	調査地位置図	105
fig. 116	調査地位置図	79	fig. 166	昭和50年頃の建物配置と調査区	105
fig. 117	第1遺構面平面図	79	fig. 167	調査区平面図	106
fig. 118	第2遺構面全景〔写真〕	80	fig. 168	前蔵構場平面図	107
fig. 119	SB301〔写真〕	80	fig. 169	前蔵構場〔写真〕	108
fig. 120	第2遺構面半面図	80	fig. 170	前蔵地下室〔写真〕	108
fig. 121	第3遺構面平面図	80	fig. 171	大蔵南構場半面図	109
fig. 122	調査地位置図	81	fig. 172	大蔵全景〔写真〕	109
fig. 123	第2遺構面全景〔写真〕	81	fig. 173	大蔵構場〔写真〕	109
fig. 124	調査区平面図	82	fig. 174	沢の鶴大石蔵全景〔写真〕	111
fig. 125	調査地位置図	83	fig. 175	建物変遷図	112
fig. 126	SE06半面図・断面図	84	fig. 176	前蔵全景〔写真〕	112
fig. 127	第2遺構面平面図	84	fig. 177	調査地位置図	115
fig. 128	SE06〔写真〕	85	fig. 178	調査地遠景〔写真〕	116
fig. 129	SE06出土墨書き土師器〔写真〕	86	fig. 179	調査地位置図	117
fig. 130	出土遺物実測図	87	fig. 180	第1遺構面平面図	117
fig. 131	I・II層出土遺物実測図	88	fig. 181	第2遺構面平面図	118
fig. 132	調査地位置図	89	fig. 182	SB01平面図・断面図	118
fig. 133	第1遺構面半面図	89	fig. 183	第2遺構面掘立柱建物群〔写真〕	119
fig. 134	第2遺構面平面図	90	fig. 184	第2遺構面全景〔写真〕	119
fig. 135	調査地位置図	91	fig. 185	第2遺構面SB01・02〔写真〕	119
fig. 136	遺構平面図	93	fig. 186	SX01出土遺物実測図	120
fig. 137	調査区全景〔写真〕	93	fig. 187	第11次調査地との位置関係図	120
fig. 138	I区豊穴住居〔写真〕	93	fig. 188	調査地位置図	120
fig. 139	I区豊穴住居〔写真〕	93	fig. 189	第2遺構面平面図	122
fig. 140	SB04〔写真〕	93	fig. 190	第3遺構面半面図	122
fig. 141	出土遺物実測図	94	fig. 191	第3遺構面全景〔写真〕	123
fig. 142	調査地位置図	95	fig. 192	周溝墓出土土器実測図	124
fig. 143	遺構平面図	95	fig. 193	周溝墓出土土器実測図	125

fig. 194	周溝墓 2 [写真] .....	126
fig. 195	調査位置図 .....	127
fig. 196	調査区断面図 .....	127
fig. 197	調査区平面図 .....	128
fig. 198	調査位置図 .....	129
fig. 199	調査範囲図 .....	129
fig. 200	調査区断面図 .....	130
fig. 201	第 5 層灰茶色細繊～中砂（整地層） 出土軒平瓦実測図 .....	130
fig. 202	調査位置図 .....	131
fig. 203	調査区平面図 .....	132
fig. 204	鍛冶工房作業場 [写真] .....	132
fig. 205	炉壁縫取付き穴 [写真] .....	132
fig. 206	調査区全景 [写真] .....	133
fig. 207	調査区西半炭化物除去後状況 [写真] .....	133
fig. 208	鍛冶工房作業場と礎石 .....	134
fig. 209	調査位置図 .....	135
fig. 210	出土遺物実測図 (1) .....	137
fig. 211	出土遺物実測図 (2) .....	138
fig. 212	調査位置図 .....	139
fig. 213	調査区平面図 .....	140
fig. 214	調査位置図 .....	141
fig. 215	第 1・2 遺構面平面図 .....	142
fig. 216	第 1 遺構面全景 [写真] .....	142
fig. 217	第 2 遺構面全景 [写真] .....	143
fig. 218	第 3 遺構面平面図 .....	143
fig. 219	環濠SD301 土層断面図 .....	143
fig. 220	第 3 遺構面全景 [写真] .....	144
fig. 221	環濠SD301 [写真] .....	144
fig. 222	環濠SD301 木製品出土状況 [写真] .....	144
fig. 223	環濠SD301 土層堆積状況 [写真] .....	144
fig. 224	環濠SD301 出土木製品実測図 .....	145
fig. 225	大開遺跡（第 7 次） 出土木材組織顕微鏡写真 .....	155
fig. 226	大開遺跡（第 7 次） 出土木材組織顕微鏡写真 .....	156
fig. 227	大開遺跡（第 7 次） 出土木材組織顕微鏡写真 .....	157
fig. 228	大開遺跡（第 7 次） 出土木材組織顕微鏡写真 .....	158
fig. 229	大開遺跡（第 7 次） 出土木材組織顕微鏡写真 .....	159
fig. 230	大開遺跡（第 7 次） 出土木材組織顕微鏡写真 .....	160
fig. 231	調査位置図 .....	161
fig. 232	第 2 調査区全景 [写真] .....	161
fig. 233	第 2 調査区遺構面平面図 .....	162
fig. 234	第 3 調査区第 1 遺構面平面図 .....	163
fig. 235	第 2 調査区SD01 [写真] .....	163
fig. 236	SD01 遺物出土状況 [写真] .....	163
fig. 237	第 3 調査区第 2 遺構面平面図 .....	164
fig. 238	第 3 調査区第 2 遺構面井戸SE201 [写真] .....	164
fig. 239	同左の断面 [写真] .....	164
fig. 240	SE201 出土遺物実測図 .....	165
fig. 241	第 3 調査区第 2 遺構面全景 [写真] .....	166
fig. 242	同左の掘立柱建物 [写真] .....	166
fig. 243	掘立柱建物平面図・断面図 .....	166
fig. 244	第 3 調査区第 3 遺構面平面図 .....	167
fig. 245	第 3 調査区第 4 遺構面平面図 .....	168
fig. 246	調査位置図 .....	169
fig. 247	調査区断面図 .....	169
fig. 248	遺構平面図 .....	70
fig. 249	調査区全景 [写真] .....	170
fig. 250	SP22出土の銅製帶金具 [写真] .....	170
fig. 251	調査位置図 .....	171
fig. 252	第 1 遺構面平面図 .....	172
fig. 253	第 1 遺構面全景 [写真] .....	172
fig. 254	第 2 遺構面全景 [写真] .....	173
fig. 255	調査位置図 .....	175
fig. 256	調査区全景 [写真] .....	175
fig. 257	調査区平面図 .....	176
fig. 258	調査位置図 .....	177
fig. 259	調査区平面図 .....	178
fig. 260	調査位置図 .....	179
fig. 261	遺構平面図 .....	180
fig. 262	調査地遠景 [写真] .....	180
fig. 263	掘立柱建物SB01 [写真] .....	180
fig. 264	調査区南東部の遺構 [写真] .....	181
fig. 265	掘立柱塀SA01 [写真] .....	181
fig. 266	土坑SK03 [写真] .....	181
fig. 267	落ち込みSX01 [写真] .....	181
fig. 268	調査位置図 .....	183
fig. 269	第 1 遺構面平面図 .....	184
fig. 270	調査区遠景 [写真] .....	184
fig. 271	第 1 遺構面全景 [写真] .....	184
fig. 272	土坑SK01 [写真] .....	185
fig. 273	井戸SK05 [写真] .....	185
fig. 274	落ち込みSX04 [写真] .....	185
fig. 275	土坑SK04 [写真] .....	185
fig. 276	第 2 遺構面平面図 .....	186
fig. 277	調査区全景（第 2 遺構面） [写真] .....	186
fig. 278	井戸SE01 [写真] .....	187
fig. 279	土坑SK47 [写真] .....	187
fig. 280	井戸SE02 [写真] .....	187
fig. 281	SX10 [写真] .....	187
fig. 282	調査位置図 .....	189
fig. 283	調査区設定図 .....	189
fig. 284	第 I 期遺構面平面図 .....	190
fig. 285	第 II 期遺構面平面図 .....	191
fig. 286	C 地区第 1 遺構面全景 [写真] .....	192

fig.287	A・B地区第1遺構面全景〔写真〕	192
fig.288	C・8区全景〔写真〕	192
fig.289	C・2区全景〔写真〕	192
fig.290	D地区第2遺構面全景〔写真〕	192
fig.291	E地区全景〔写真〕	192
fig.292	第Ⅱ期〔17世紀以降〕遺構面 平面図	193
fig.293	C地区第1遺構面全景〔写真〕	194
fig.294	C地区第2遺構面全景〔写真〕	194
fig.295	D地区第1遺構面全景〔写真〕	194
fig.296	D地区第1遺構面石組井戸〔写真〕	194
fig.297	C地区推定神官屋敷跡〔写真〕	195
fig.298	同左の園池〔写真〕	195
fig.299	同左建築物基礎部の石組み〔写真〕	195
fig.300	出土遺物（かんざしと鉄貨）〔写真〕	196
fig.301	調査地位図	197
fig.302	調査区平面図	198
fig.303	調査区全景〔写真〕	198
fig.304	掘立柱建物検出状況〔写真〕	198
fig.305	井戸SE01・02平・断面図	199
fig.306	井戸SE01〔写真〕	199
fig.307	井戸SE02〔写真〕	199
fig.308	井戸SE03〔写真〕	200
fig.309	井戸SE04〔写真〕	200
fig.310	調査地全景〔写真〕	200
fig.311	調査地位図	201
fig.312	調査区平面図	202
fig.313	SP109出土瓦拓影	203
fig.314	I区調査区全景〔写真〕	203
fig.315	掘立柱建物SB1004〔写真〕	203
fig.316	SE1001平面図・断面図	204
fig.317	SE1001上層歯骨出土状況〔写真〕	204
fig.318	SE1001完掘状況〔写真〕	204
fig.319	堅穴住居SB1003〔写真〕	205
fig.320	掘立柱建物SB3001〔写真〕	205
fig.321	SD3001〔写真〕	206
fig.322	SD3001遺物出土状況〔写真〕	206
fig.323	出土遺物実測図	206
fig.324	調査地位図	207
fig.325	調査区平面図	208
fig.326	調査区全景〔写真〕	208
fig.327	土坑SK01〔写真〕	208
fig.328	調査地位図	209
fig.329	遺構平面図	210
fig.330	調査区西半部全景〔写真〕	210
fig.331	掘立柱建物〔写真〕	210
fig.332	井戸SE02断面図	211
fig.333	井戸SE02〔写真〕	211
fig.334	井戸SE02下部作組み〔写真〕	211
fig.335	出土遺物実測図	212
fig.336	調査地東部〔写真〕	212
fig.337	調査地位図	213
fig.338	調査区平面図・断面図	214
fig.339	調査地位図	215
fig.340	第1遺構面平面図	216
fig.341	第2遺構面平面図	216
fig.342	第2遺構面全景〔写真〕	216
fig.343	掘立柱建物SB202〔写真〕	216
fig.344	SX201遺物出土状況〔写真〕	217
fig.345	堅穴住居SB201〔写真〕	217
fig.346	堅穴住居SB203遺物出土状況〔写真〕	217
fig.347	堅穴住居SB203〔写真〕	217
fig.348	堅穴住居SB204〔写真〕	218
fig.349	堅穴住居SB205〔写真〕	218
fig.350	土坑SK209遺物出土状況〔写真〕	218
fig.351	土坑SK209〔写真〕	218
fig.352	第3遺構面平面図	219
fig.353	第4遺構面平面図	219
fig.354	第3遺構面SB301〔写真〕	219
fig.355	第3遺構面SD301〔写真〕	219
fig.356	第5遺構面平面図	220
fig.357	第6遺構面平面図	220
fig.358	第5遺構面北半部全景〔写真〕	221
fig.359	第5遺構面南半部全景〔写真〕	221
fig.360	第5遺構面SB501〔写真〕	221
fig.361	第5遺構面SD501出土遺物	221
fig.362	東上空からみた戎町遺跡〔写真〕	222
fig.363	調査地位図	223
fig.364	第1遺構面平面図	224
fig.365	第1遺構面全景〔写真〕	225
fig.366	第1遺構面〔写真〕	225
fig.367	第1遺構面〔写真〕	225
fig.368	SX01〔写真〕	225
fig.369	SX06〔写真〕	226
fig.370	SX06とSE01間の竹製導水管〔写真〕	226
fig.371	SX06藁状植物編物出土状況〔写真〕	226
fig.372	SX06梳檢出状況〔写真〕	226
fig.373	SE01平面図・断面図	227
fig.374	井戸SE01〔写真〕	227
fig.375	SE01出土人形・木札実測図	227
fig.376	井戸SE02〔写真〕	227
fig.377	弥生時代第1遺構面平面図	228
fig.378	弥生時代第2遺構面平面図	228
fig.379	弥生時代第3・第4遺構面平面図	229
fig.380	調査地位図	231
fig.381	第2次調査地遺構平面図	232
fig.382	調査区西半部全景〔写真〕	232
fig.383	調査区東半部全景〔写真〕	232
fig.384	水琴窟SK09周辺〔写真〕	233
fig.385	井戸SE01〔写真〕	233

fig.384	水琴窟SK09周辺〔写真〕	233
fig.385	戸戸SE01〔写真〕	233
fig.386	水琴窟SK09〔写真〕	233
fig.387	水琴窟SK09断ち割り状況〔写真〕	233
fig.388	第4次調査地平面図	234
fig.389	圓池遺構SX15〔写真〕	234
fig.390	土坑SX03出土状況〔写真〕	234
fig.391	堅穴住居SB01平面図	235
fig.392	堅穴住居SB01〔写真〕	235
fig.393	出土遺物実測図（1）	237
fig.394	出土遺物実測図（2）	238
fig.395	調査位置図	239
fig.396	中世遺構面（B区）〔写真〕	239
fig.397	中世遺構面平面図	240
fig.398	縄文時代遺構面平面図	241
fig.399	A区謙底検出状況〔写真〕	241
fig.400	A区縄文時代河道〔写真〕	242
fig.401	A区汀箱検出状況〔写真〕	242
fig.402	B区縄文時代遺構面全景〔写真〕	243
fig.403	B区縄文人の足跡〔写真〕	243
fig.404	C区縄文時代遺構面〔写真〕	244
fig.405	調査位置図	245
fig.406	調査区平面図	246
fig.407	調査位置図	247
fig.408	第1遺構面平面図	247
fig.409	SD101出土瓦拓影	248
fig.410	第2遺構面平面図	248
fig.411	調査位置図	249
fig.412	4号・5号基壇〔写真〕	250
fig.413	画面1〔写真〕	250
fig.414	第1遺構面 遺構配置図	251
fig.415	1・2号基壇・区画1平面図	252
fig.416	1号基壇全景〔写真〕	252
fig.417	1号基壇開口正面中央突出部〔写真〕	253
fig.418	1号基壇硬石と溝〔写真〕	253
fig.419	参道全景〔写真〕	254
fig.420	一石五輪塔〔写真〕	254
fig.421	一石五輪塔下の埋甕〔写真〕	255
fig.422	1号基壇出土遺物	256
fig.423	SB10〔写真〕	257
fig.424	SB11〔写真〕	257
fig.425	1区～6区出土弥生土器実測図	258
fig.426	調査位置図	259
fig.427	調査地測量図	260
fig.428	平坦面実測図	261
fig.429	平坦面全景〔写真〕	262
fig.430	調査位置図	263
fig.431	遺物包含層出土遺物実測図	263
fig.432	延命寺地区I区遺構平面図	264
fig.433	掘立柱建物平面図	265
fig.434	I区2・2地区掘立柱建物〔写真〕	265
fig.435	I区2・3地区古墳周溝SD08〔写真〕	265
fig.436	北端地区第1・2・3遺構平面図	266
fig.437	北端地区第4遺構平面図	267
fig.438	延命寺地区調査区遠景〔写真〕	268
fig.439	北端地区第4遺構面SD09〔写真〕	268
fig.440	北端地区SD09護岸施設〔写真〕	268
fig.441	出土遺物実測図	269
fig.442	出土遺物実測図	270
fig.443	調査位置図	271
fig.444	遺構平面図	272
fig.445	1号堅穴住居平面図・断面図	273
fig.446	2区全景〔写真〕	273
fig.447	1号堅穴住居〔写真〕	273
fig.448	1号堅穴住居中央土坑〔写真〕	273
fig.449	2号堅穴住居平面図・断面図	274
fig.450	堅穴住居出土石器〔写真〕	274
fig.451	3号堅穴住居平面図・断面図	276
fig.452	5号堅穴住居平面図・断面図	276
fig.453	5号堅穴住居出土石器〔写真〕	276
fig.454	7号堅穴住居平面図・断面図	277
fig.455	調査位置図	279
fig.456	9区遺構平面図	281
fig.457	調査地遠景〔写真〕	282
fig.458	丘陵頂部検出HS13平面図・断面図	283
fig.459	丘陵頂部検出の堅穴住居SB01〔写真〕	283
fig.460	丘陵斜面部検出SB20平面図・断面図	283
fig.461	丘陵斜面部検出堅穴住居SB13〔写真〕	283
fig.462	9・4区丘陵斜面の堅穴住居群〔写真〕	283
fig.463	9・4区頂上部及び斜面の堅穴住居群〔写真〕	283
fig.464	壕状遺構SD01〔写真〕	284
fig.465	同左の上位部〔写真〕	284
fig.466	出土土器実測図	284
fig.467	藏骨器ST01平面図・断面図	285
fig.468	藏骨器ST02平面図・断面図	285
fig.469	藏骨器ST01〔写真〕	285
fig.470	藏骨器ST02〔写真〕	285
fig.471	10区遺構平面図	286
fig.472	10区ST1003平面図・断面図	287
fig.473	藏骨器ST1003〔写真〕	287
fig.474	ST1003上部器表に光沢された火葬骨〔写真〕	287
fig.475	調査位置図	289
fig.476	調査区配置図	290
fig.477	第1遺構面遺物実測図	290
fig.478	第2遺構面平面図	290
fig.479	第3遺構面平面図	291
fig.480	SD301出土瓦実測図	291
fig.481	調査位置図	293

fig.482	9・10トレンチ第3遺構面平面図	294	fig.530	掘立柱建物SB13検出状況〔写真〕	318
fig.483	10トレンチ断面図	295	fig.531	掘立柱建物柱穴内の柱材〔写真〕	318
fig.484	9トレンチ第3遺構面全景〔写真〕	295	fig.532-1	土坑SX26〔写真〕	318
fig.485	10トレンチ第3遺構面全景〔写真〕	295	fig.532-2	土坑SX26遺物出土状況〔写真〕	318
fig.486	9・10トレンチ第3遺構面出土土器 実測図	296	fig.533	古墳時代初頭遺構面平面図	319
fig.487	調査位置図	297	fig.534	古墳時代初頭遺構面全景〔写真〕	320
fig.488	周溝内地区割り図	298	fig.535	古墳時代初頭遺構面水田〔写真〕	320
fig.489	水谷大東古墳平面実測図	298	fig.536	調査位置図	321
fig.490	埴輪の樹立状況と周溝内の遺物出土状況 〔写真〕	298	fig.537	第1遺構面平面図	321
fig.491	周溝外側冠部の埴輪〔写真〕	298	fig.538	第3遺構面平面図	322
fig.492	水谷大東古墳全景〔写真〕	299	fig.539	掘立柱建物SB0106平面図・断面図	322
fig.493	出土遺物実測図	300	fig.540	第1遺構面全景〔写真〕	322
fig.494	調査位置図	301	fig.541	第3遺構面掘立柱建物SB106〔写真〕	322
fig.495	高津橋大塚古墳平面図	301	fig.542	第4遺構面平面図	323
fig.496	埴丘断面図	302	fig.543	第4遺構面SB01平面図・断面図	323
fig.497	高津橋大塚古墳遠景〔写真〕	303	fig.544	第4遺構面SB01〔写真〕	323
fig.498	高津橋大塚古墳埴丘全景〔写真〕	303	fig.545	SB02平面図	324
fig.499	高津橋大塚古墳と周辺の調査溝図	303	fig.546	SB02〔写真〕	324
fig.500	主体部平面図	304	fig.547	第4遺構面全景〔写真〕	324
fig.501	木棺粘土床〔写真〕	304	fig.548	SB03平面図	325
fig.502	同左の礎敷〔写真〕	304	fig.549	SB03〔写真〕	325
fig.503	主体部平面図・断面図	305	fig.550	第5遺構面〔写真〕	326
fig.504	礎敷（部分）〔写真〕	305	fig.551	第5遺構面SK124〔写真〕	326
fig.505	墓壙完掘状況〔写真〕	305	fig.552	出土石器〔写真〕	326
fig.506	遺物出土状況図	306	fig.553	出土弥生土器〔写真〕	326
fig.507	D地区平面図	307	fig.554	調査位置図	327
fig.508	D地区出土遺物実測図	308	fig.555	調査区全景〔写真〕	328
fig.509	調査位置図	309	fig.556	豊穴住居SB01〔写真〕	328
fig.510	調査区平面図	310	fig.557	調査区遺構平面図	328
fig.511	調査区全景〔写真〕	311	fig.558	豊穴住居SB02〔写真〕	329
fig.512	SB01平面図・断面図	311	fig.559	SX01〔写真〕	329
fig.513	SB01〔写真〕	311	fig.560	SX02上層遺物出土状況〔写真〕	329
fig.514	SB02平面図・断面図	311	fig.561	SX02下層遺物出土状況〔写真〕	329
fig.515	SB03平面図・断面図	311	fig.562	調査区北半部河道SR01〔写真〕	329
fig.516	SB04平面図・断面図	312	fig.563	河道SR01木製品出土状況〔写真〕	330
fig.517	SB04〔写真〕	312	fig.564	調査位置図	331
fig.518	SB05平面図・断面図	312	fig.565	調査地平面図	331
fig.519	SB05炭化材検出状況〔写真〕	312	fig.566	調査区断面図	331
fig.520	SB06平面図・断面図	313	fig.567	第15層出土遺物と調査区堆積状況 〔写真〕	332
fig.521	SB06〔写真〕	313	fig.568	第15層遺物出土状況〔写真〕	332
fig.522	SB07平面図・断面図	313	fig.569	出土遺物実測図	332
fig.523	SB07〔写真〕	313	fig.570	調査位置図	333
fig.524	SB08平面図・断面図	314	fig.571	第1遺構面平面図	334
fig.525	SB08〔写真〕	314	fig.572	SB01・02・03・04平面図	335
fig.526	調査地遠景〔写真〕	314	fig.573	掘立柱建物SB01・02〔写真〕	335
fig.527	調査位置図	315	fig.574	掘立柱建物SB02〔写真〕	335
fig.528	調査地土層断面図	316	fig.575	掘立柱建物SB01〔写真〕	336
fig.529	中世遺構面平面図	317	fig.576	掘立柱建物SB03〔写真〕	336
			fig.577	土坑SK08遺物出土状況〔写真〕	336

fig. 578 ピット内遺物出土状況〔写真〕	336
fig. 579 第2遺構面平面図	337
fig. 580 挿立柱建物SB201〔写真〕	338
fig. 581 SB201・202 平面図	338
fig. 582 調査地全景（北上空から）〔写真〕	338
fig. 583 調査位置図	339
fig. 584 第1遺構面柱列〔写真〕	339
fig. 585 第1遺構面全景〔写真〕	339
fig. 586 遺構平面図	340
fig. 587 調査位置図	341
fig. 588 トレンチ配置図	342
fig. 589 第1トレンチ北壁断面図	342
fig. 590 第2トレンチ全景〔写真〕	343
fig. 591 第2トレンチ木製品出土状況〔写真〕	343
fig. 592 第2トレンチ1区東壁断面図	343
fig. 593 出土木製品実測図	344
fig. 594 調査位置図	345
fig. 595 第1遺構面平面図	346
fig. 596 揿立柱建物SB01〔写真〕	346
fig. 597 揿立柱建物SB01平・断面図	346
fig. 598 第2遺構面遺構平面図	347
fig. 599 第2遺構面全景〔写真〕	347
fig. 600 SD02出土土器実測図	347
fig. 601 調査位置図	348
fig. 602 第3トレンチA区遺構平面図	349
fig. 603 第3トレンチA区全景〔写真〕	350
fig. 604 第3トレンチA区挿立柱建物・楕〔写真〕	350
fig. 605 第3トレンチA区出土土器実測図	350
fig. 606 調査位置図	351
fig. 607 東-2トレンチSK01・03平面図・断面図	352
fig. 608 東-2トレンチSB01平面図	352
fig. 609 東-2トレンチ拡張部全景〔写真〕	352
fig. 610 東地区2-5トレンチ平面図	353
fig. 611 東-2トレンチ拡張部SK03〔写真〕	353
fig. 612 東-5トレンチ遺構検出状況〔写真〕	353
fig. 613 西-1トレンチ近世墓地跡全景〔写真〕	354
fig. 614 西-1トレンチ近世墓地跡〔写真〕	355
fig. 615 西-1トレンチ近世墓平面図・断面図	355
fig. 616 調査位置図	357
fig. 617 調査区平面図	358
fig. 618 SX01山上遺物実測図	358
fig. 619 西豈浦地区調査位置図	359
fig. 620 宮之元地区調査位置図	360
fig. 621 宮之元地区井戸SE01〔写真〕	360
fig. 622 同左の井戸枠構造の状況〔写真〕	360
fig. 623 宮之元地区井戸SE01実測図及び 出土土器実測図	361
fig. 624 宅原遺跡（宮之元地区）の木材組織 顕微鏡写真〔写真図版1〕	365
fig. 625 宅原遺跡（宮之元地区）の木材組織 顕微鏡写真〔写真図版2〕	366
fig. 626 調査位置図	367
fig. 627 第1トレンチ遺構平面図	368
fig. 628 第1トレンチ1区全景〔写真〕	368
fig. 629 第1トレンチ4区SX01〔写真〕	368
fig. 630 第2・3トレンチ遺構平面図	369
fig. 631 第2トレンチ全景〔写真〕	370
fig. 632 第2トレンチ中央部ピット群〔写真〕	370
fig. 633 調査位置図	371
fig. 634 開取平面図	372
fig. 635 建物平面図（解体）	373
fig. 636 火災建物平面図	374
fig. 637 柱「ち六」地鎮土器群出土状況図	375
fig. 638 火災建物築造時の地鎮〔写真〕	375
fig. 639 解体前の田中家住宅〔写真〕	376
fig. 640 火災建物全景〔写真〕	376
fig. 641 柱「つ六」地鎮〔写真〕	376
fig. 642 小壺（漸戸焼）埋納状況〔写真〕	376
fig. 643 調査位置図	377
fig. 644 遺構平面図	378
fig. 645 II区南全景〔写真〕	379
fig. 646 SX12〔写真〕	379
fig. 647 SX16〔写真〕	379
fig. 648 SX16先掘状況〔写真〕	379
fig. 649 SX16遺構平面図	380
fig. 650 調査位置図	381
fig. 651 調査区位置図	381
fig. 652 第1遺構面全景〔写真〕	382
fig. 653 第2遺構面全景〔写真〕	382
fig. 654 第5遺構面全景〔写真〕	383
fig. 655 第5遺構面遺構検出状況〔写真〕	383
fig. 656 第6遺構面全景〔写真〕	383
fig. 657 第6遺構面SK601・602〔写真〕	383
fig. 658 第8遺構面平面図	384
fig. 659 木棺墓ST802 平面図	385
fig. 660 木棺墓ST802 周辺〔写真〕	385
fig. 661 木棺墓ST802〔写真〕	385
fig. 662 第1遺構面平面図	386
fig. 663 第2遺構面平面図	386
fig. 664 第3遺構面平面図	387
fig. 665 第5遺構面平面図	387
fig. 666 第6～第9遺構面平面図	388
fig. 667 調査位置図	389
fig. 668 第1遺構面SE105〔写真〕	389
fig. 669 第1遺構面平面図	389
fig. 670 SX101 検出状況〔写真〕	390
fig. 671 SX101 遺物出土状況〔写真〕	390
fig. 672 SE105 土層堆積断面図	390
fig. 673 SE105 出土呂木筒実測図	390
fig. 674 第2遺構面平面図	391

fig. 675	第3遺構面平面図	391	fig. 722	掘立柱建物SB13〔写真〕	416
fig. 676	第4遺構面平面図	391	fig. 723	調査地全景〔写真〕	418
fig. 677	第5遺構面平面図	391	fig. 724	調査地位置図	419
fig. 678	調査地遠景〔写真〕	392	fig. 725	3区遺構平面図	420
fig. 679	調査地位置図	393	fig. 726	3区企張〔写真〕	421
fig. 680	I区遺構平面図	394	fig. 727	3区東半部全景〔写真〕	421
fig. 681	I区堅穴住居時期別分布模式図	395	fig. 728	3区埋甕遺構検出状況〔写真〕	421
fig. 682	大壁造り建物平面図	396	fig. 729	3区埋甕遺構SI11〔写真〕	421
fig. 683	大壁造り建物〔写真〕	396	fig. 730	3区檢山埋甕遺構平面図・断面図	422
fig. 684	I区全景〔写真〕	397	fig. 731	調査地全景〔写真〕	422
fig. 685	I区全景〔写真〕	397	fig. 732	調査地位置図	423
fig. 686	II区遺構平面図	398	fig. 733	第1遺構面全景〔写真〕	424
fig. 687	II区全景〔写真〕	398	fig. 734	第2遺構面全景〔写真〕	424
fig. 688	III区掘立柱建物・櫛〔写真〕	398	fig. 735	遺構平面図	425
fig. 689	III区遺構平面図	399	fig. 736	SX301〔写真〕	426
fig. 690	出土遺物実測図	400	fig. 737	SX301 梆検出状況〔写真〕	426
fig. 691	調査地位置図	401	fig. 738	北区試掘地域全体図(1)	427
fig. 692	G地点出土遺物実測図	402	fig. 739	淡河本町地区試掘調査地点	429
fig. 693	調査地位置図	403	fig. 740	勝雄地区試掘調査地点(1)	430
fig. 694	遺構平面図	404	fig. 741	勝雄地区試掘調査地点(2)	431
fig. 695	調査地位置図	405	fig. 742	北僧尾地区掘調査地点(1)	432
fig. 696	II・III区遺構平面図	405	fig. 743	北僧尾地区掘調査地点(2)	433
fig. 697	II区全景〔写真〕	406	fig. 744	野瀬地区試掘調査地点(1)	434
fig. 698	II区全景〔写真〕	406	fig. 745	野瀬地区試掘調査地点(2)	435
fig. 699	SB04平面図	407	fig. 746	北区試掘地域全体図(2)	436
fig. 700	SB05-06-07-08平面図	407	fig. 747	八多地区試掘調査地点(1)	437
fig. 701	SB04中央土坑平廻図・立面図	407	fig. 748	八多地区試掘調査地点(2)	437
fig. 702	SB01平面図・断面図	407	fig. 749	西区試掘地域全体図(1)	439
fig. 703	SB02平面図	408	fig. 750	九塚地区試掘調査地点	440
fig. 704	SB03平廻図・断面図	408	fig. 751	大開遺跡上層転写〔写真〕	441
fig. 705	SB04〔写真〕	409	fig. 752	垂水・日向遺跡上層転写〔写真〕	441
fig. 706	SB06-07-08〔写真〕	409	fig. 753	高津橋大塚古墳上層転写〔写真〕	441
fig. 707	SB04壇棺検出状況〔写真〕	409	fig. 754	同左完成バヘル〔写真〕	441
fig. 708	同左の壇棺〔写真〕	409	fig. 755	垂水・日向遺跡〔写真〕	442
fig. 709	SB02〔写真〕	409	fig. 756	同左〔写真〕	442
fig. 710	SB03〔写真〕	409	fig. 757	同上〔写真〕	442
fig. 711	I区全景〔写真〕	410	fig. 758	同左〔写真〕	442
fig. 712	II・III区全景〔写真〕	410	fig. 759	上沢遺跡削製雷金具〔写真〕	443
fig. 713	調査地位置図	411	fig. 760	同左X線透過像(×1)〔写真〕	443
fig. 714	遺構平面図	412	fig. 761	高津橋大塚古墳青銅鏡〔処理前〕〔写真〕	443
fig. 715	A区東半部〔写真〕	414	fig. 762	同左X線透過像(×1)〔写真〕	443
fig. 716	A区西半部〔写真〕	414	fig. 763	長田神社境内遺跡 錫金削かんざし 〔写真〕	444
fig. 717	B区全景〔写真〕	415	fig. 764	同左X線透過像(×1)〔写真〕	444
fig. 718	B区掘立柱建物SB26〔写真〕	415	fig. 765	垂水・日向遺跡出土木製品X線透過像(×1) 〔写真〕	444
fig. 719	堅穴住居SB24〔写真〕	416	fig. 766	同左顯微鏡写真拡目(×1)	444
fig. 720	堅穴住居SB36〔写真〕	415			
fig. 721	C区北半部〔写真〕	415			

## I. 平成8年度 事業の概要

### 1. はじめに

平成8年度は阪神・淡路大震災から2年目を迎え、「復旧から復興」へと震災復興事業が本格的に始動した。この間の埋蔵文化財をとりまく様々な状況の変化は、震災前からは想像も出来ないほど大きなものでもあった。昨年度は、復旧・復興事業が何よりも最優先されるなかで、復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の保護との整合を図る、言い換えれば復興事業に支障を来すことなく、それと密接な関係にある発掘調査をはじめとする埋蔵文化財行政をいかに行うか、「基本方針」と「適用要領」に基づき試行した年であった（詳細は平成7年度年報「文化財調査事業」を参照されたい）。

1年余りを経た今年度はその軌道を基に、これまでになく増大する埋蔵文化財調査事業量に対応し、より円滑に進めることが課題とされた。このため、今年度新たに埋蔵文化財震災調整担当の主幹を設け、兵庫県教育委員会からの支援職員の受け入れや調整を円滑に進めるための体制の充実を図った。一方、普及啓発活動についても昨年度は震災の影響により実施できないものもあったが、今年度は埋蔵文化財センターの事業を中心に、復興調査の円滑な推進の一助となるべく現地説明会の開催を含め従前同様に実施することができた。

### 2. 普及啓発事業

〔神戸市埋蔵文化財センター〕

出土資料の整理・収蔵・保存・公開の拠点として開館して6年度目となる埋蔵文化財センターでは常設展示室のほか収蔵庫・遺物整理室の一部を公開している。また、特別展示や企画展示を開館以来毎年度開催している。

本年度は特別展示と速報展示を各1回開催し、一昨年度より行っている『こどもたちの考古学講座』を8回、新たに『女性のための考古学講座』を1回開催した。本年度の入館者数は、28,257名であった。また、館外展示として市内の6か所において展示を開催した。

本年度の特別展示は『福原京とその時代』を10月12日から11月17日まで開催し、4,556人の入館者があった。この展示は福原京との関連が考えられる祇園遺跡の最新の調査成果を中心に、同時代に栄華を誇った博多・京都・平泉からの出土遺物をあわせて展示した。この展示期間中の10月26日に京都大学教授上原真久氏の講演会「瓦からみた四都物語」、11月2日には大手前女子大学教授熱田公氏の講演会「平清盛とその時代」を開催した。

### 特別展示 〔福原京と その時代〕

平成9年2月12日から6月1日にかけて、速報展示として本年度調査成果を中心とした。弥生時代高地性集落の『城ヶ谷遺跡速報展』を開催し、この期間中に14,032人が参観した。

### 速報展示

地域活動への参加として、下表のとおり館外展示をおこなった。

### 館外展示 (地域活動 への参加)

展示名称	期間	場所	見学者数
淡河の埋蔵文化財展	H 8.4/28~5/6	淡河町地域福祉センター	1,500人
白水遺跡展	H 8.5/25~5/30	玉津南公民館	225人
「兵庫津遺跡展」	H 8.5/18~10/3	兵庫図書館	
「大開遺跡展」	H 8.10/4~H 9.2/25	兵庫図書館	
都賀遺跡展	H 8.11/8~11/10	都文化会館	321人
櫛谷の遺跡展	H 9.3/8	櫛谷地域福祉センター	500人

## こどもたちの考古学講座

『こどもたちの考古学講座』は学校の休日である第2・第4土曜日の催しとして、体験を通じて先人の生活や技術に学ぼうという趣旨から、小学校4年生以上高校生までを対象にしたものである。また、今年度新たに大人を対象にした『女性のための考古学講座』を開催した。各講座の内容、参加者数は下表のとおりである。

### こどもたちの考古学講座

開講日	講 座 名	内 容	参加者数
4／27	第1回 石器をつくろう	滋賀県産高島石で、石包丁などの磨製石器をつくる。	81人
5／25	第2回 発掘体験・遺跡を掘る	発掘調査中の遺跡で、主として遺物包含層を発掘する。	165人
6／22	第3回 縄文時代の葉っぱを探す	垂水・日向遺跡出土の縄文時代の木の葉を水洗選別して、フィルムに封入し、現世のものと比較、同定する。	90人
7／27	第4回 勾玉をつくろう	印材の青田石や寿山石で、勾玉などをつくる。	170人
8／10	(追加) 勾玉をつくろう	同上	85人
10／12	第5回 土器・埴輪をつくろう	焼かずに硬化する粘土で、土器・埴輪などをつくる。	129人
11／9	第6回 古代人の生活体験	大歳山遺跡公園で、火おこし・脱穀・料理などをおこなう。	86人
12／14	第7回 縄文クッキーをつくろう	ドングリ(シイの実)を粉にして、クッキーをつくる。	79人

### 女性のための考古学講座

3／1	勾玉をつくろう	印材の青田石や寿山石で、勾玉などをつくる。	68人
-----	---------	-----------------------	-----

### 〔文化財保護強調週間の催し〕

大歳山遺跡公園では、11月1日から7日までの期間、復元した竪穴住居の内部を公開するとともに、古代人の生活の一部を体験できるように、舞錘による火おこしや臼・杵による米の脱穀などをおこなった。また、火おこしができた参加者には「古代人認定書」を配付した。7日間の参加者は、1,123人であった。

### 〔発掘調査現地説明会の開催と資料配付〕

本年度は、震災復興事業に伴う発掘調査を中心に9遺跡で現地説明会を開催した。また広報の一貫として、市政記者クラブを通じて、これらを含め10件の資料配付を行った。

- (1)水谷大東古墳 帆立貝式古墳が確認され、その造出部から多くの形象埴輪（8年5月19日現地説明会）が出土したなかでも雛形埴輪の出土は市内で初めてである。
- (2)郡家遺跡 墓葬時代の集落址の調査。全国からの派遣職員の支援を受け（8年6月15日現地説明会）けて行った復興調査のひとつ。
- (3)本山遺跡第22次調査 弥生時代中期の住居跡から畿内でも最古級の鉄製品が出土（8年10月10日現地説明会）した。全国からの派遣職員の支援を受けて行った復興調査。

- (4)須高山遺跡第5次調査  
(8年11月10日現地説明会) 弥生時代の高地性集落と中世山岳寺院の調査。特に中世山岳寺院は伽藍全般(15,000m<sup>2</sup>)が明らかになり、焼失した本堂跡は仏堂様式の特徴をそなえる。
- (5)寒風遺跡  
(8年11月16日現地説明会) 古墳時代の集落址の調査で、県下で初めて大型造りの建物が発見された。
- (6)沢の鶴大石蔵  
(9年1月15日現地説明会) 市内で初めての酒蔵の本格的な発掘調査で、酒造の作業場である船場を確認した。
- (7)佐古宮町遺跡  
(9年1月25日現地説明会) 長慶の大震による液状化現象に伴う地滑りにより、奈良時代の井戸の上半部が2mずれ動いているのが発見された。
- (8)松野遺跡  
(9年2月2日現地説明会) 震災復興再開発事業に伴う調査で、かつての調査で発見された豪族居館の南に近接して古墳時代中期末から後期初頭の集落址が検出された。
- (9)城ヶ谷遺跡展示会  
(9年2月10日資料配付) 埼蔵文化財センターで開催の『城ヶ谷遺跡速報展』について、展示内容等のお知らせを行った。
- (10)有馬極楽寺(伝太閤湯殿跡) 豊臣秀吉の湯山御殿・湯殿があったと伝えられる場所で、(9年3月16日現地説明会) 湯ぶねの遺構と当時の瓦・輸入陶磁器などが出土した。

#### 〔資料等の貸出し〕

平成8年度に各機関等へ貸し出した資料は、写真資料106点、遺物等213点であった。

#### 〔刊行物〕

平成8年度の刊行物は、以下の3点である。

- (1)平成6年度神戸市埋蔵文化財年報  
(2)神戸市埋蔵文化財分布図 平成8年度版  
(3)福原京とその時代—対外交流の門戸博多・平安京・北の都奥州平泉

(展示解説書)

### 3. 文化財調査事業

阪神・淡路大震災以後、調査原因となる開発事業は、従前から計画されていた通常事業と震災に起因する復興事業に区別される。復興事業に伴う埋蔵文化財調査については、発掘調査量の減少を図るために、取り扱いの緩和・弾力化の特例措置が採られている。(復興事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いに関しては、経緯、内容について『平成7年度神戸市埋蔵文化財年報』を参照。)

平成8年度は震災から2年目を迎え、震災復興事業の本格化とともに、発掘調査も件数の内訳では、復興関連事業に伴うものが通常事業に伴うものの約3.6倍と大きな比重を占めている。発掘調査件数は110件、発掘調査面積(底地面積)は106,428m<sup>2</sup>、複数遺構面での延べ面積は163,486m<sup>2</sup>で、件数、面積とも昨年度とはほぼ同じであったが、延べ面積は約15%増加している。これらの調査に要した費用は、およそ2,042,000千円であった。このうち、復興事業に伴う調査は86件、調査面積は87,913m<sup>2</sup>で、約8割を占めている。

本年度の各届出・通知・依頼の件数は次のとおりである。

	保護法 57-1	保護法 57-2	保護法 57-3	保護法 57-5	保護法 57-6	保護法 98-2	開発行為& 事前調査等	試 掘 類
通常	3件	40件	15件	0件	2件	39件	一 件	33件
復興	2件	275件	29件	0件	1件	196件	一 件	185件
計	5件	315件	44件	0件	3件	235件	242件	218件

なお、保護法57条の1による届出は、すべて民間発掘調査組織から出された開発事前調査で、学術調査に伴うものはない。また、98条の2の通知には上記の発掘調査件数110件のほか、発掘調査件数に含めていない、小規模な試掘調査に伴うものがある。

#### 復興事業に 伴う調査

震災から2年目を迎えた復興調査は、件数で昨年度より約4割増加した86件であった。このうち73%にあたる63件が個人および中小企業者を対象にした国庫補助事業で、大企業および公共の事業者の経費負担による受託事業は23件である。調査原因となった事業別内訳は、民間共同住宅建設29件、個人住宅建設13件、公営住宅建設6件、店舗・社屋等の再建6件、公共施設再建6件、市街地再開発・土地区画整理事業および宅地造成24件、その他5件となっている。これらの調査に要した費用は、全体で1,870,400千円であった。このうち、国庫補助事業は628,500千円で、事前確認の試掘調査が約86,420千円、個人・中小企業者の事業にかかる発掘調査が約542,080千円である。

昨年度に比べ、件数、面積とも大きく増した発掘調査に対応するため、28都府県・3政令指定都市から兵庫県教育委員会に派遣された計37名の埋蔵文化財専門職員に本市の発掘調査を支援いただき、最大時では25名に発掘調査を担当していただいた。今年度からは、本市職員との共同調査の方法を取り入れ、県からの支援を受けた調査現場33件のうち13件は共同調査の方法をとった。また、土地区画整理事業では、県教育委員会が直接受託した支援調査が4件あった。

#### 4. 市内発掘 調査の概要

本年度の調査においては、復興事業に伴う調査により、これまで発掘調査例の比較的少なかった地域や市街地における調査が増加したため、新たな発見や新資料の追加など注目されるものが多い。

そのなかのひとつには、有馬温泉における寺院の再建に伴う調査がある。この調査は次年度に継続されているが、太閤秀吉の御殿と湯殿跡と伝承される所から、当時の遺物と共に湯ぶねと見られる造構や庭園跡が検出され、出土した瓦には大坂城出土のものと同様の可能性があるものも含まれていた。これらにより、伝承のとおり安土桃山時代の御殿・湯殿があったと確認された。

住吉宮町遺跡においては、400年前の慶長元年（1596年）の慶長・伏見地震による液状化現象に伴う地滑りにより、奈良時代の井戸の板枠が上半部と下半部で約2mもずれているのが見つかった。また、井戸内からは「橘東家」・「兎」と墨書きされた土器が出土し、菟原郡衙との関連が注目される。この住吉宮町遺跡では、他に5地点で発掘調査が行われた。このように、特に復興事業に伴う市街地の遺跡での発掘調査は、この1年間で広範な地点で過去の調査量の数倍の面積におよび、遺跡を解明する上で貴重な資料が得られた。

平成 8 年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(1)

No.	場所名	所在地	委託主	調査担当者 延べ面積 延べ面積	調査期間	調査内容	調査年数
1	浜江道跡第8次調査	東灘区浜江北町 1丁目44	神戸市教育委員会	西岡 誠司 185m <sup>2</sup> 185m <sup>2</sup>	9.2.17～9.3.19	平安～鎌倉土坑、溝、柱穴、ピット多数、弥生土器、灰窓器・上部器、黑色十字、綠釉陶器、陶瓶等	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
2	本山道跡第20次調査	東灘区本山中町 3丁目	神戸市教育委員会	安田 達 猪井 錠 (係支援) 1,500m <sup>2</sup> 2,530m <sup>2</sup>	8.4.22～8.8.31	平安中期、弥生前期～中期、古墳焼削土器發見、ピット、印疊文、二坑、溝、灰窓器・十字、弥生土器、灰窓器、土師器等	店舗兼共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
3	本山道跡第21次調査	東灘区本山中町 3丁目	神戸市教育委員会	西岡 誠司 60m <sup>2</sup> 60m <sup>2</sup>	8.7.1～8.7.11	撫文、弥生～中世発生中期～後期の自然路、灰窓器、土器器、灰窓器、土師器、サメカイト片等	事務所兼個別住宅建設 〔国庫補助事業〕
4	本山道跡第22次調査	東灘区本山中町 4丁目	神戸市教育委員会	石田 彰紀 若田 明弘 百崎 雅久 (係支援) 1,160m <sup>2</sup> 2,320m <sup>2</sup>	8.7.15～8.11.15	弥生時代の墓落跡、墓穴住居、弥生土器、石器	店舗兼共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
5	本山道跡第22～2次調査	東灘区本山中町 4丁目	神戸市教育委員会	石田 明弘 (係支援) 52m <sup>2</sup> 52m <sup>2</sup>	9.1.27～9.1.30	弥生 ピット 弥生土器 サメカイト片	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
6	本山道跡第23次調査	東灘区本山中町 3丁目	神戸市教委員会	升井 格 280m <sup>2</sup> 560m <sup>2</sup>	8.8.6～8.9.25	平安中期土坑、ピット、溝 古墳焼跡 近畿諸國出土器（中、夷隅、古墳、中世の須恵器）	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
7	本山道跡第24次調査	東灘区本山中町 3丁目	神戸市教育委員会	岡野 翠 40m <sup>2</sup> 40m <sup>2</sup>	8.9.9～8.9.27	弥生窯灰～中野	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
8	本山道跡第25次調査	東灘区本山中町 5丁目	神戸市教育委員会	須藤 宏 30m <sup>2</sup> 30m <sup>2</sup>	8.10.29～8.11.7	弥生、中世柱穴 漢 弥生土器、土師器、須恵器	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
9	本山道跡第26次調査	東灘区本山中町 4丁目	神戸市教育委員会	佐伯 二郎 30m <sup>2</sup> 30m <sup>2</sup>	9.3.24～9.3.26	中世土坑、溝・柱・須恵器、瓦器、陶器、弥生土器、石器、サメカイト片	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
10	魚崎町河底跡第3次調査	東灘区魚崎中町 2丁目	神戸市教育委員会	石田 彰紀 若田 明弘 (係支援) 195m <sup>2</sup> 365m <sup>2</sup>	8.5.13～8.6.26	中世、弥生末 水田跡、湖岸墓 灰窓器、土師器、弥生土器	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
11	魚崎中町河底跡第4次調査	東灘区魚崎北町 2丁目500-2	神戸市教育委員会	阿部 徹生 220m <sup>2</sup> 220m <sup>2</sup>	8.6.12～8.7.16	中世溝・土坑（ともに遺物なし）須恵器・土師器（いづれも繩引）陶	共同住宅建設
12	井戸出遺跡	東灘区本山中町 1丁目2-35	神戸市教育委員会	池田 敦 河原 政生 700m <sup>2</sup> 2,900m <sup>2</sup>	8.7.26～8.9.9	弥生後期鉄器、水出跡牛糞土、木板段、流路内より平安文土器、包帯繩より古墳・中世の土器片	松竹建設
13	井戸田遺跡	東灘区本山中町 1丁目2-35	神戸市教育委員会	池田 敦 600m <sup>2</sup> 2,400m <sup>2</sup>	8.6.4～8.7.25	弥生中期鉄器、水田跡、弥生土器（後期が大半）、朽木晚期土器、木製軸古墳・中世の土器片	松竹建設 〔国庫補助事業〕
14	小路大町遺跡第2次調査	東灘区本山南町 2丁目	神戸市教育委員会	吉田 宣美 木暮 実孝 (係支援) 212m <sup>2</sup> 424m <sup>2</sup>	8.11.11～8.12.13	撫文、古墳～中世柱穴、溝路、礪文土器、須恵器、土師器	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
15	森北町道跡第16次調査	東灘区森北町21-3	神戸市教育委員会	西岡 誠司 41m <sup>2</sup> 41m <sup>2</sup>	8.12.16～8.12.19	弥生時代～中世遺構なし 遺物包装器、須恵器、土加器	山香院建設 〔国庫補助事業〕
16	森北町道跡第17次調査	東灘区森北町4丁目70	神戸市教育委員会	横路 清平 55m <sup>2</sup> 55m <sup>2</sup>	9.2.20～9.2.21	弥生後期 潟 弥生土器 石瓶	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
17	住吉町道跡第19次調査	東灘区住吉町4丁目	神戸市教育委員会	小野田英和 日暮 伸一 (係支援) 500m <sup>2</sup> 2,000m <sup>2</sup>	8.4.9～8.5.15	弥生後期、平安・中世初期、古墳後期の六稜柱・柱社物、弥生土器・須恵器、土師器、陶瓶等	月岡豪志建設 〔国庫補助事業〕

平成 8 年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(2)

番	調査路名	所在地	調査主体	調査出土地	探査面積		調査期間	調査内容	調査原因
					延調査面積	規制面積			
18	住吉宮町道跡第10次調査	東灘区住吉宮町 6丁目	神戸市教育委員会	岸岡 貴美 人西 黄夫 (辰文編)	280㎡ 840㎡	8. 5.14~8. 6.26	古墳中期・飛鳥・奈良旧河原・石器状 遺物・環状器・土器等・木製品・漆器 部材	共同住宅施設 (田舎地的事業)	
19	住吉宮町道跡第21次調査	東灘区住吉宮町 7丁目	神戸市教育委員会	川上 厚志	200㎡ 200㎡	8. 5.16~8. 6.20	奈良・古墳末期後段 銅立打鏡物・ 盤座・須恵器・土器等	共同住宅施設 (田舎地的事業)	
20	住吉宮町道跡第22次調査	東灘区住吉宮町 4丁目	神戸市教育委員会	川上 厚志	100㎡ 200㎡	8. 6.17~8. 7.19	奈良・古墳末期の集落跡? ピット群・需 恵器・土器等	共同住宅施設 (田舎地的事業)	
21	住吉宮町道跡第23次調査	東灘区住吉宮町 6丁目	神戸市教育委員会	菊池 透夫 神野 信 (辰文編)	350㎡ 700㎡	8.11.1~9.2.5	奈良 條列・唐・弁口・須恵器・十脚 器・馬具等・鏡・瓦・瓦	共同住宅施設 (田舎地的事業)	
22	住吉宮町洗跡第24次調査	東灘区住吉宮町 5丁目	神戸市教育委員会	安田 伸	400㎡ 400㎡	9.2.4~9月9日続	古墳 (方墳) 4・土師桶 1・シスト 加湿・土器等・铁斧、刀子・滑石製筋 縫革	共同住宅施設 (田舎地的事業)	
23	郡家遺跡中町地区 第6次調査	東灘区御影中町 2丁目128番地	神戸市教育委員会	関野 勲	310㎡ 620㎡	8.7.8~8.9.4	小堀~汽吹ピット・土坑・須恵器・土 器等・土縫	社屋建設 (田舎地的事業)	
24	郡家遺跡ノ坪 第11次調査	東灘区御影下坪 ノ坪	神戸市教育委員会	猪宜田 隆昌 宮崎 敏十 (辰文編)	770㎡ 770㎡	8.5.10~8.7.26	古墳時代の墓穴化基・須恵器・土器等・ 出生土器	共同住宅施設 (田舎地的事業)	
25	伯母野跡跡	灘区篠原伯母山 (灰堆)	神戸市教育委員会	西岡 誠司	50㎡ 50㎡	8.4.1~8.4.	弥生中期~後期	宅地造成 (田舎地的事業)	
26	猪原遺跡第15次調査	灘区猪原本町3 丁目	神戸市教育委員会	池田 繁	160㎡ 160㎡	8.4.1~8.4.26	弥生中期至晩基 1燃・溝渠遺構・ピッ ト・出生土器・石器 (石器)・含金量 より奈良~中世の土器類	共同住宅施設 (田舎地的事業)	
27	御前遺跡第7次調査	灘区御前町3丁 110, 4丁目4、 5	神戸市スポーツ 教育公社	佐野 一郎	1,218㎡ 4,092㎡	8.4.15~9.3.12	達文早刷の押留文・石器・出生中期の 方墳及腰壙・古墳南側の横穴式巣・草 良・糠食の土坑・ピット	市営賃貸住宅建設	
28	西跡古窯復元 (引の船大 石窯)	西区大石町1 丁目29-1	神戸市教育委員会	岸野 勲 岸岡 賢司 猪田 明 (辰文編)	700㎡ 700㎡	8.10.7~9.1.17	江戸時代~昭和の酒造施設・地下冰庫 器・陶磁器・瓦等	酒販販売所の再建 (田舎地的事業)	
29	西水谷塚古墳	灘区篠原4丁目	神戸市教育委員会	池田 繁 宮崎 敏十 (辰文編)	1,500㎡ 1,500㎡	9.1.6~9.2.24	古墳 (古墳時代前期)・赤堀~辺貝の土 器片	共同住宅施設 (田舎地的事業)	
30	日暮遺跡第13次調査	中央区若宮通1 丁目B	神戸市教育委員会	猪口 朝 和田 連寿 (辰文編)	200㎡ 400㎡	8.10.17~8.12.25	奈良~平安 錦立柱建物・須恵器・土 器等	共同住宅施設 (田舎地的事業)	
31	東部新都心地区	中央区臨浜海岸 通	神戸市教育委員会	西岡 英次	233㎡ 235㎡	8.11.11~8.11.21	小畠2条・土坑2条・柱穴2条・土 器等・紙型器・錦等	東部新都心地上地区 整備	
32	雲井遺跡第7次調査	中央区鳴尾3丁 目	神戸市教育委員会	山水 勇剛	230㎡ 250㎡	8.4.1~8.4.8	織文後期出生中期~中期・古墳初期遺 構・土坑・土坑・注家・落ち込み・織文 土器・出生土器・土器等	共同住宅施設 (田舎地的事業)	
33	雲井遺跡第9次調査	中央区鳴尾3丁 目38-3, 7	神戸市教育委員会	猪川 仁久	150㎡ 600㎡	9.2.27~11.9.継続	織文小窓・粘土と中世の器・武生中期 の土器・出生中期の器・羅文の器 (鐵 鏡)・落ち込み・織文土器	個人作成施設 (田舎地的事業)	
34	雪舟遺跡第8次調査	中央区鳴尾3丁 目	神戸市教育委員会	西岡 英次 猪口 仁秀 (辰文編)	170㎡ 350㎡	8.12.10~9.1.20	第1面~中盤・第2面~奈良・古墳・ 井戸・井戸・出生中期後半 墓山塗・周塗基3基・出生土器	会社ビル建設 (田舎地的事業)	

平成8年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(3)

No.	遺跡名	所在地	所有者	調査担当者	範囲(面積) 延調査面積	露立時間	調査内容	備考用
35	芦井遺跡第10次調査	中央区旭通2丁目	神戸市教育委員会	富山 直人	740m <sup>2</sup> 2,230m <sup>2</sup>	9.3.17～H.9.既統	古墳時代～古代	公園住宅建設
36	猪・荒町遺跡 第14次調査	兵庫区荒町5丁目83	神戸市教育委員会	中田 美也子 荒木 邦夫 (原支権)	140m <sup>2</sup> 140m <sup>2</sup>	9.2.17～9.3.7	弥生、弥生土器	共同住宅建設 (国庫補助事業)
37	兵庫津遺跡第6次調査 門町	兵庫区門町5丁目	神戸市教育委員会	田川 威	200m <sup>2</sup> 200m <sup>2</sup>	8.5.10～8.5.21	中世末～近世 聖地碑より中世末の土器發見、中世末～近世の瓦が出土	共同住宅建設 (国庫補助事業)
38	兵庫津遺跡第7次調査	兵庫区御治町	神戸市教育委員会	富山 直人	50m <sup>2</sup> 50m <sup>2</sup>	8.6.10～8.7.3	近世の生糞跡 挿引柱 荘園跡	個人住宅建設 (国庫補助事業)
39	兵庫津遺跡 (工事立会調査)	兵庫区内御園町～兵庫町1丁目	神戸市教育委員会	河野 功 飯塚 宏	430m <sup>2</sup> 430m <sup>2</sup>	8.9.18～8.10.25	鎌倉～室町、近畿ビット、滑、土器 土器盤、青磁器、瓦	汚水坑移設
40	祇園遺跡第6次調査	兵庫区上机町	神戸市教育委員会	富山 直人	100m <sup>2</sup> 100m <sup>2</sup>	8.5.17～8.5.28	弥生、土器、滑、弥生土器	共同住宅建設 (国庫補助事業)
41	大瀬遺跡第7次調査	兵庫区大瀬町3丁目1番25	神戸市教育委員会	澤田 純 支岡 順郎 (原支権)	220m <sup>2</sup> 220m <sup>2</sup>	9.1.16～9.3.27	弥生、環濠、弥生土器、木製品	会社ビル建設 (国庫補助事業)
42	上沢遺跡第3次調査	兵庫区上沢通8丁目	神戸市教育委員会	森木 重 利風 正民 森重 伸明 弘田 和司 (原支権)	340m <sup>2</sup> 940m <sup>2</sup>	8.11.13～9.2.25	弥生、古墳、奈良、中世、中世、弥生(後期) の土坑、古墳、奈良の埋立柱跡物、奈良の井戸、中世	山手幹線道路拡張 (国庫補助事業)
43	上沢遺跡第4次調査	兵庫区上沢通8丁目13-21	神戸市教育委員会	森木 重	31m <sup>2</sup> 31m <sup>2</sup>	9.2.24～9.3.8	弥生、古墳、奈良(前期)の土坑、奈 良の埋立柱跡物、古墳のビット、弥生 土器、須恵器、土師器	店舗業者住宅建設 (国庫補助事業)
44	上沢遺跡第5次調査	兵庫区上沢通8丁目10番	神戸市教育委員会	高山 直人 森木 重	29m <sup>2</sup> 29m <sup>2</sup>	9.3.10～9.3.15	弥生前、後期、古墳前期、中世、十 字架、ビット、滑、弥生土器、石碑、十輪塔、 灰燼窯跡	個人住宅建設 (国庫補助事業)
45	上沢遺跡第6次調査	兵庫区上沢通8丁目10番	神戸市教育委員会	高山 直人 森木 重	27m <sup>2</sup> 27m <sup>2</sup>	9.3.10～9.3.14	平安～鎌倉 ビット、滑、土坑 十輪 塔	個人住宅建設 (国庫補助事業)
46	上沢遺跡第7次調査	兵庫区上沢通8丁目10-5	神戸市教育委員会	森木 重	25m <sup>2</sup> 25m <sup>2</sup>	9.3.11～9.3.12	弥生後期、奈良～平安 集落	個人住宅建設 (国庫補助事業)
47	上沢遺跡第8次調査	兵庫区上沢通7丁目1-8丁目	神戸市教育委員会	森木 重	340m <sup>2</sup> 1,100m <sup>2</sup>	9.3.24～H.9.既統	平安～中世 遺物包括層 須恵器、十 輪塔、瓦器	山手幹線道路拡張
48	湯山南駅跡	北区有野町	神戸市教育委員会	栗原 - 飯谷 西岡誠、貴 代	340m <sup>2</sup> 1,080m <sup>2</sup>	8.12.20～H.9.既統	安土桃山～秀吉の湯山街道、江戸 植 家跡物、内坂、奈良、平安、空町の 遺物 上細器、須恵器	寺茨建設 (国庫補助事業)
49	九沢遺跡第2次調査	北区有野町二部 宇根山61-1 1.5	神戸市教育委員会	佐伯 二郎	70m <sup>2</sup> 70m <sup>2</sup>	9.1.13～9.1.20	中世、土坑、落ち込み 上細器小 口、須恵器碗、鉢、瓦器、白瓶、陶器	宅地造成 (国庫補助事業)
50	岡崎遺跡	北区有野町有野 宇根山1-1 1.5	神戸市教育委員会	岡野 勝	810m <sup>2</sup> 810m <sup>2</sup>	8.5.20～8.7.16	中世、櫛立柱柱物、横列、土坑 須恵 器、上細器	共同住宅建設

平成 8 年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(4)

No.	調査名	所在地	調査主体	調査担当者 監視責任者	施工作業種 監視責任者	調査期間	調査内容	原因
51	八多申・口下部道路 (試掘調査)	北区八多町中、 豊島町口下部	神戸市教育委員会	久保・小野 田・伊藤・上 原(試掘)	500m <sup>2</sup> 500m <sup>2</sup>	8.10.28～8.11.8	中世 ピット・溝	土地区域整理 (困難補助事業)
52	八多申・口下部道路 (試掘調査)	北区豊島町口下 部、八多町中	神戸市教育委員会	小林 公治 大川 雅宏 (危険支援)	316m <sup>2</sup> 316m <sup>2</sup>	8.7.26～8.8.23	中世 ピット・溝・土坑 梯壠器、土 器等	土地区域整理 (困難補助事業)
53	辰巳社境内遺跡第 6 次 調査	兵庫区辰巳町 4 丁目 1	神戸市教育委員会	前田 伸久 舟尾 稔	950m <sup>2</sup> 1,750m <sup>2</sup>	8.4.11～8.7.2	古墳中期後半の自然河槽、縄文～室町 井戸 3、小便 捨立柱跡物、ピット、 土坑、陶器(鏡)、土器等	松舎建設
54	辰巳社境内遺跡第 7 次 調査	兵庫区辰巳町 4 丁目 8～1 他	神戸市教育委員会	岡本・矢口 大窓・菊池 (危険支援)	1,550m <sup>2</sup> 4,650m <sup>2</sup>	8.6.17～9.2.28	弥生・古墳 捨立柱跡物・方形石周溝、 河岸跡 弥生土器・筑出器、土器等、 陶器等(漆器)	共同住宅建設 (困難補助事業)
55	辰巳社境内遺跡第 9 次 調査	兵庫区辰巳町 1 丁目 3～8、3 ～18	神戸市教育委員会	西岡 誠司	100m <sup>2</sup> 100m <sup>2</sup>	9.1.27～9.2.3	縄文、弥生～古墳、中世 遺物包含層 弥生土器・原恵器、土器等	市営秦川町住宅建設 (困難補助事業)
56	御船遺跡第 1 次調査	兵庫区西宮通 3 丁目	神戸市教育委員会	東 喜代秀	280m <sup>2</sup> 280m <sup>2</sup>	8.8.22～8.9.25	縄文時代 捨立柱跡物・井戸 4、ピット 多數、土坑 5、自然流路 梯壠器、 土器等、井戸 4、動物	市営住宅建設
57	松野遺跡第 4 次調査	兵庫区吉吉町 2 丁目	神戸市教育委員会	川上・阿部 弘、大窓・ 大内・小林 (危険支援)	2,500m <sup>2</sup> 2,500m <sup>2</sup>	8.7.29～9.3.13	古墳後期 捨立柱跡物 15、聖穴住居 3、 平安末鎌倉初期 捨立柱跡物 2、井戸 4、木棺墓 1、井戸枠材	市街地再開発
58	松野遺跡第 5 次調査	兵庫区吉吉町 2 丁目 3～10	神戸市教育委員会	前田 伸久	90m <sup>2</sup> 90m <sup>2</sup>	8.12.3～8.12.26	古墳時代後期 土坑・溝もみ込み・溝、 ピット 梯壠器、土器等	市街地再開発
59	二郷町遺跡第 3 次調査	兵庫区久保町 6 丁目	御神戸市立スポーツ 教育公社	川上・厚原 大内・斎太 (危険支援)	1,200m <sup>2</sup> 1,200m <sup>2</sup>	8.11.11～9.2.28	平安末 捨立柱跡物 3、不明大型土坑 2、井戸 2、東棲系平瓦、原恵器、土 器等、瓦器	市街地再開発
60	二郷町遺跡第 4 次調査	兵庫区久保町 7 丁目 5～10,11	神戸市教育委員会	今村 遼彦 前田 利幸 (危険支援)	35m <sup>2</sup> 35m <sup>2</sup>	8.11.25～8.12.13	中世 水田耕作痕 梯壠器、土器等	個人住宅建設 (困難補助事業)
61	吹柳遺跡第 22・1 次調査	須磨区吹柳町 3 丁目 1～19	神戸市教育委員会	宍戸・白根 岸岡・小林 (危険支援)	450m <sup>2</sup> 2,700m <sup>2</sup>	8.9.3～8.11.25	弥生前期後期、弥生中期後期、古墳 古墳後期成形、土坑梯壠器上器、石塚 1、 土塚 1、石器等	市営住宅建設
62	吹柳遺跡第 22・2 次調査	須磨区吹柳町 3 丁目 1～19	神戸市教育委員会	安田 由美 岸岡 飛英 (危険支援)	250m <sup>2</sup> 1,500m <sup>2</sup>	8.11.30～9.1.24	弥生前期～古墳後期 弥生中期後期、土 坑、ピット、溝、流路 宗生土器、砾石、 石器、瓦器等、土器等	市営寺山住宅建設 (困難補助事業)
63	武可道遺跡第 24 次調査	須磨区吹柳町 3 丁目 2	神戸市教育委員会	富山 久人 青山 道 伊藤 繁行 (危険支援)	600m <sup>2</sup> 1,200m <sup>2</sup>	8.12.9～9.2.21	弥生・土坑、溝 中世ピット・溝、井 戸、落込み 弥生土器、梯壠器、土 器等	共同住宅建設 (困難補助事業)
64	人手町遺跡第 2・4 次調 査	須磨区人手町 5 丁目	神戸市立スポーツ 教育公社	須磨 空	1,350m <sup>2</sup> 1,600m <sup>2</sup>	8.5.14～8.12.25	縄文、弥生・古墳、飛鳥、平安、室町 伏見跡、溝、土坑、江戸庄重屋敷 水 琴座 碑文、宗生土器	道路建設
65	垂水・日向遺跡第 15 次調 査	垂水区日向 1丁 目 H	神戸市立スポーツ 教育公社	谷 正隆 高瀬 直人	1,490m <sup>2</sup> 6,630m <sup>2</sup>	8.7.24～9.2.27	縄文汀積、足跡弥生～古墳湿地、唐平 窓、縄文斜作乳状ピット・溝、古墳 上 器、陶器等	市街地再開発
66	二ツ郷遺跡第 4 次調査	内区卡津町二ツ 郷池ノ上	神戸市教育委員会	山口 美正	1,010m <sup>2</sup> 1,010m <sup>2</sup>	8.7.1～8.8.23	平安 溝、ピット 丸、梯壠器、土 器等	土地活用整理

平成 8 年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(5)

No	施設名	所在地	調査主体	調査担当者 調査監査官	測量面積 測量面積	調査期間	調査内容	調査原因
67	須山山道跡第7次調査	西区伊丹町4丁目	神戸市スポーツ教育公社	内藤 徹哉 石鳥 三和	16,000m <sup>2</sup> 17,600m <sup>2</sup>	7. 4. 6 ~ 8. 3. 14	中世祭祀・革鞣石造物・獨立柱造物、土器等、瓦器、弥生土器	宇治市造成
68	須山山道跡第8次調査	西区伊丹町4丁目	神戸市教育委員会	東・透秀 和田 道勝 (原文雅)	550m <sup>2</sup> 550m <sup>2</sup>	9. 1. 7 ~ 9. 2. 28	廻廊下の寺院跡・平坦面・礎石建物1棟・排水溝1条・水洗め1基・敷石1平瓦・供應器	宇治市造成 (国庫補助事業)
69	白衣谷跡延命寺地区第2次調査 北端地区第5次調査	西区伊丹町真和字延命寺5号	神戸市スポーツ教育公社	11野 博史 越田 級 小村 大介	1,290m <sup>2</sup> 2,650m <sup>2</sup>	8. 7. 24 ~ 9. 3. 27	延命寺地区 中世 獨立柱建物・堆・古墳夷磧・北端地区 中世 覆瓦建物・窓・洗面施設・水田	上池尻町整理 (国庫補助事業)
70	白衣谷跡延命寺地区	西区伊丹町真和	神戸市スポーツ教育公社	11野 博史 弘出 駿司	48m <sup>2</sup> 48m <sup>2</sup>	8. 9. 9 ~ 8. 9. 20	古墳時代・古墳夷磧・土器類・埴輪	上池尻町整理 (国庫補助事業)
71	池上北道路	西区池上5丁目	神戸市教育委員会	山田 麗弘 (原文雅)	320m <sup>2</sup> 320m <sup>2</sup>	8. 6. 10 ~ 8. 7. 24	弥生 窑穴住居・溝・堆土石器・石器	共同住宅建設 (国庫補助事業)
72	城ヶ谷道跡第2次調査	西区城ヶ谷町菅原字城ヶ谷生	神戸市スポーツ教育公社	山本 - 淳 井尻 友岡 家原	21,000m <sup>2</sup> 21,000m <sup>2</sup>	8. 6. 17 ~ 9. 3. 7	弥生中期 - 独立柱半・向洋式集落・豈穴住居・段状遺構・塙など 突角前彌音器・弥生土器	ニュータウン造成
73	城ヶ谷道跡（試掘調査）	西区城ヶ谷町城ヶ谷	神戸市教育委員会	浅谷 誠吾	1,230m <sup>2</sup> 1,230m <sup>2</sup>	8. 10. 21 ~ 9. 1. 10	弥生中期 高台式集落・段状遺構・窓穴住居・弥生土器	ニュータウン造成 (国庫補助事業)
74	北金山如意寺	西区城ヶ谷町各門	神戸市教育委員会	浅谷 誠吾	120m <sup>2</sup> 120m <sup>2</sup>	8. 7. 10 ~ 8. 7. 26	中世 - 近世 三重塔・ビット・瓦備溝	排水設備 (国庫補助事業)
75	二ツ屋遺跡	西区玉津町二ツ屋字海參塚内512	神戸市教育委員会	関野 伸	1,500m <sup>2</sup> 1,500m <sup>2</sup>	8. 4. 2 ~ 8. 5. 15	中世 溝・傾斜器・土器等	屯地造成
76	水谷灘跡第5次調査	西区玉津町水谷字大東	神戸市スポーツ教育公社	山本 稔和 浅谷 誠吾	650m <sup>2</sup> 1,130m <sup>2</sup>	8. 4. 2 ~ 8. 6. 28	弥生後期末 - 古墳時代・粘土建物・古墳後期 瓢箪貝具式須周溝・灰土器・埴輪・猪頭器	北区南整備 (国庫補助事業)
77	水谷灘跡第5次調査	西区玉津町水谷字大東	神戸市教育委員会	山本 稔和 浅谷 誠吾	570m <sup>2</sup> 570m <sup>2</sup>	8. 4. 4 ~ 8. 6. 14	古墳時代 瓢箪貝具式古墳・古墳周溝・外周埴輪列（形象あり）・須周溝	北区南整備 (国庫補助事業)
78	水谷灘跡第6次調査	西区玉津町水谷	神戸市教育委員会	井尻 格	70m <sup>2</sup> 70m <sup>2</sup>	8. 4. 11 ~ 8. 4. 18	中世 ビット3 中世の須周溝・土器 器・灰灰	個人住宅建設 (国庫補助事業)
79	高津駅大堤跡	西区玉津町高津橋	神戸市教育委員会	山野 尚史	707m <sup>2</sup> 707m <sup>2</sup>	8. 4. 1 ~ 8. 7. 25	△高区 古墳・土器類・瓦形小壇 D壇区 収葬・埴輪・伏造備・A式文鏡・透石製鏡片・白玉	北区南整備 (国庫補助事業)
80	森洋就大堤跡第2次調査	西区玉津町高津橋	神戸市教育委員会	山口 美和	5,400m <sup>2</sup> 5,400m <sup>2</sup>	8. 4. 8 ~ 8. 6. 19	弥生後期・古墳式斜面・堅穴住居・溝・ビット・弥生土器・土器等	上池尻町整理 (国庫補助事業)
81	丸塚遺跡	西区玉津町丸塚	神戸市教育委員会	東 利孝 藤井 雅 石船 審久 (原文雅)	2,500m <sup>2</sup> 5,000m <sup>2</sup>	9. 1. 20 ~ 9. 3. 19	古墳 田跡跡・中量 覆瓦・柱建物・土器等、須周溝、木製品	上池尻町整理
82	丸塚遺跡（試掘調査）	西区玉津町丸塚	神戸市教育委員会	木 喜和 藤井 雅 (原文雅)	133m <sup>2</sup> 133m <sup>2</sup>	8. 12. 2 ~ 8. 12. 20	中世の水田跡・須周溝・土器等	上池尻町整理 (国庫補助事業)
83	新方遺跡丁ノ坪地区第6次調査	西区玉津町高津橋字丁の坪	神戸市教育委員会	喜加見泰彦 利山 道勝 (原文雅)	650m <sup>2</sup> 3,250m <sup>2</sup>	8. 7. 9 ~ 8. 9. 20	弥生・独立柱建物・堅穴住居・弥生土器・石器	共同住宅建設 (国庫補助事業)

平成 8 年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(6)

No.	道路名	所在地	調査主体	調査担当者 監視委員会	調査面積 延べ面積	調査期間	調査内容	調査原因
84	新方道路東方地区第5次 調査	西区玉津町新方 半東方	神戸市教育委員会	浦口 優久 工事 総 (仮文様)	700m <sup>2</sup> 700m <sup>2</sup>	8. 7. 8～8. 9. 25	弥生前中期～古墳前期 河遺、弥生時代小屋、後期・住居跡、高岡、土坑、溝、須恵土器、須恵器	市営住宅建設 (因應補助事業)
85	新方道路七夕田地区	西区玉津町表原 字七夕田	神戸市教育委員会	栗 重代 阿部 功 (仮文様)	260m <sup>2</sup> 260m <sup>2</sup>	8. 7. 23～8. 8. 7	弥生前中期～小堀、墳丘みどり 墓塚土器、須恵器、土器等	社宅建設 (因應補助事業)
86	新方道路西方地区	西区玉津町新方 字西方	神戸市教育委員会	栗 重代 阿部 功 (仮文様)	1,800m <sup>2</sup> 3,600m <sup>2</sup>	8. 4. 1～8. 7. 15	平安～鎌倉 桁立柱遺物、土坑、礫、ピット 多数 須恵器、土器等、青磁、白磁	市営住宅建設
87	新方道路新手沢地区	西区玉津町新方 手沢・西方	神戸市教育委員会	山口 美正 阿部 功 工藤 总 (仮文様)	2,300m <sup>2</sup> 13,200m <sup>2</sup>	8. 10. 21～9. 3. 31	弥生中期～近世 構穴柱遺物、柱立柱遺物、土坑、ピット、近世墓 墓塚土器、須恵器、土器等	市地区風景整備 (因應補助事業)
88	出合道路兼35次調査	西区大坂台5丁 目60-1、玉津 町他	神戸市教育委員会	西岡 巧次 (仮文様)	128m <sup>2</sup> 256m <sup>2</sup>	8. 9. 9～8. 10. 16	中近世の水辺址、中世の住穴跡 中世土器群、須恵器、磁器、壺 瓦質～平安 後醍醐	共同住宅建設 (因應補助事業)
89	兵庫津道路	兵庫区西出町	兵庫県教育委員会	瀬端 俊明 中山 進彦 (仮文様)	738m <sup>2</sup> 738m <sup>2</sup>	9. 1. 7～9. 2. 27	江戸時代後期の町家、石垣、片戸、石組み遺構、水路状遺構、遺物、土坑	一般国道2号改 共同風景整備事業
90	兵庫津道路	兵庫区川口町 ～内宮内町	兵庫県教育委員会	鍛 茂栄 神野 半洋 大川 重政 (仮文様)	582m <sup>2</sup> 582m <sup>2</sup>	8. 11. 20～8. 11. 30 9. 2. 17～9. 3. 19	中後の窓沿井戸、柱穴、土坑、瓦器、土器群、須恵器、陶器 石灰の墓跡土器、道路状遺構等	一般国道2号改 共同風景整備事業
91	口下部道路	北区通町町口下 部、八多町中	兵庫県教育委員会	古賀 中田 谷谷 朝穂 鈴木 那原 青山 稲葉 大川 重政 (仮文様)	8,208m <sup>2</sup> 8,208m <sup>2</sup>	8. 6. 10～8. 11. 15	弥生時代～中世の墓落跡 墓穴住居、櫛立柱遺物、埴輪瓦(遺物含む等)	土地区画整理
92	口下部道路	北区通町町口下 部	兵庫県教育委員会	古賀 久保 三輪 小野 吉田 古田 (仮文様)	2,565m <sup>2</sup> 2,565m <sup>2</sup>	8. 11. 18～8. 2. 28	弥生時代～中世の墓落跡 墓穴住居、櫛立柱遺物	上地区画整理
93	口下部道路	北区通町町口下 部、八多町中	兵庫県教育委員会	鈴木 久保 三輪 小野 吉田 古田 (仮文様)	1,897m <sup>2</sup> 1,897m <sup>2</sup>	8. 12. 27～9. 3. 26	弥生時代～中世の墓落跡 墓穴住居、櫛立柱遺物	上地区画整理
94	八多中道跡	北区八多町中	兵庫県教育委員会	中口 青山 吉典 奈良 福島 順典 (仮文様)	3,283m <sup>2</sup> 3,283m <sup>2</sup>	8. 6. 10～8. 11. 15	平安時代～鎌倉時代の集落 桁立柱遺物、石垣、須恵器等 跡	土地区画整理
95	八多小造跡	北区八多町中	兵庫県教育委員会	吉典 麻理 古田 古田 (仮文様)	550m <sup>2</sup> 550m <sup>2</sup>	8. 11. 18～9. 2. 28	平安時代～鎌倉時代の集落 桁立柱遺物、舟形、須恵器等 跡	土地区画整理
96	丸堀跡	西区玉津町丸堀 字地ノド	兵庫県教育委員会	久保 弘幸 谷口 哲 (仮文様)	1,538m <sup>2</sup> 1,538m <sup>2</sup>	8. 5. 13～8. 8. 26	弥生時代の集落 墓穴住居、土坑中の集落 桁立柱遺物、罐、漆、池状遺構	土地区画整理
97	環水・片瀬道路 第2～10次調査	垂水区大ノト町	神戸山麓道路調査 委員会	神崎 達 (仮文様)	250m <sup>2</sup> 250m <sup>2</sup>	8. 4. 4～8. 5. 31	古墳時代～近世墓落	市街地開拓
98	新方道路舟手西方地区	西区玉津町舟手 新方	浜名文化財協会	川吉 讀吉 (仮文様)	934m <sup>2</sup> 4,620m <sup>2</sup>	8. 11. 13～9. 3. 31	弥生時代～近世の墓落 小型傍製鏡	土地収用整理

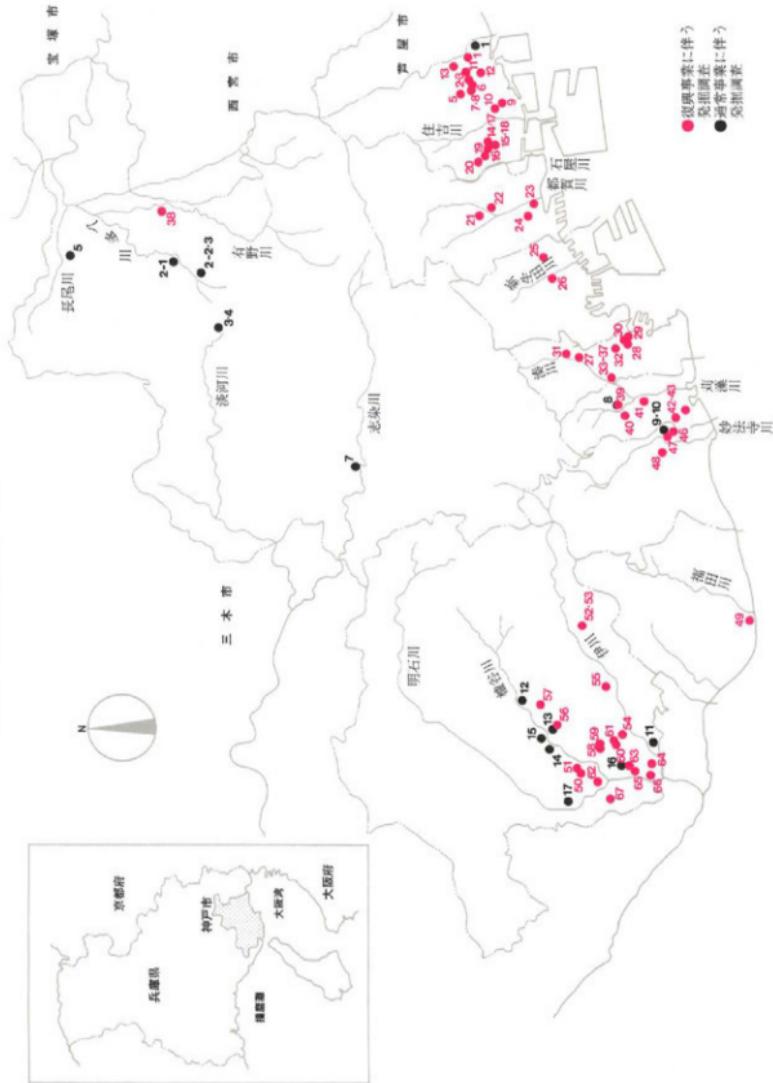
平成 8 年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（通常事業に伴う調査）(1)

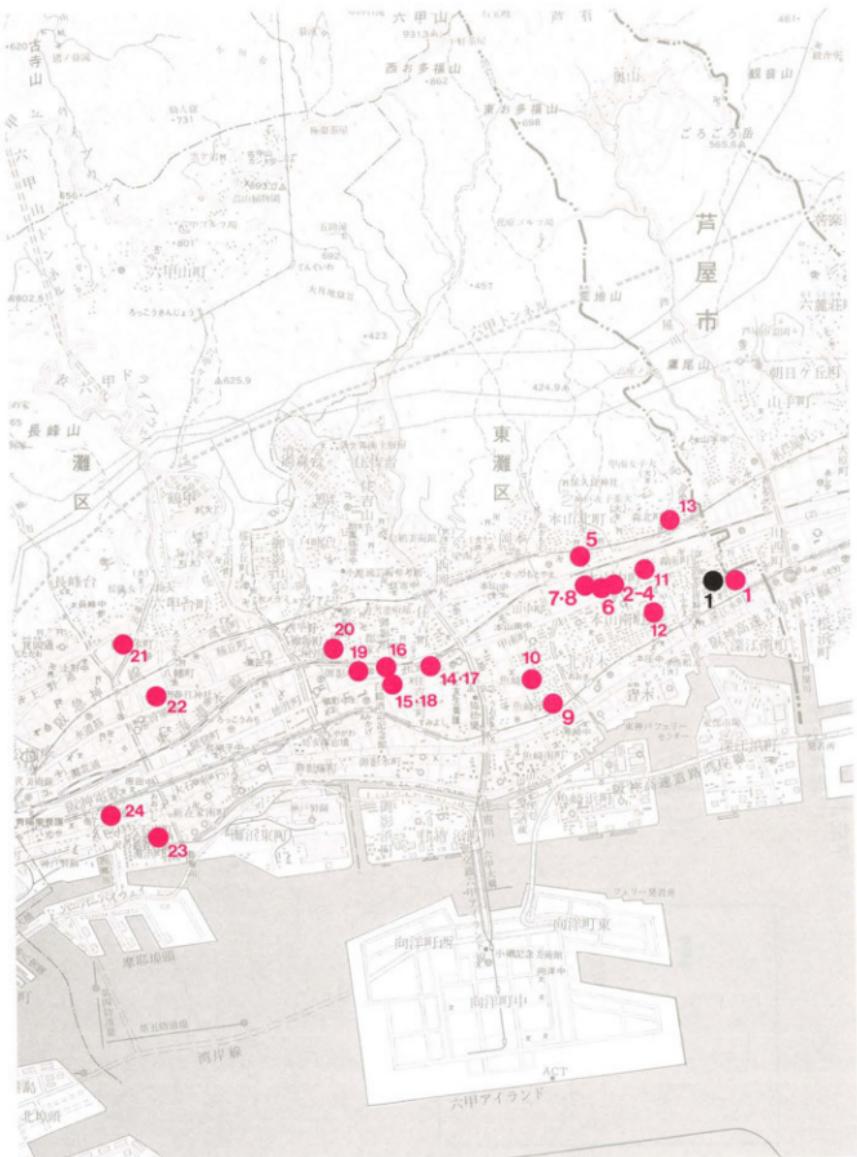
No	道 路 名	所 在 地	調査 申 体	調査担当者	調査面積 並調整面積	調査 期 間	調 査 内 容	調 査 原 因
1	小庄町連絡第5次調査	東福岡区深江北町 3丁目11-3	神戸市教育委員会	森木 康	100m <sup>2</sup> 320m <sup>2</sup>	8.8.7～8.8.30	中世の水田	幼稚園開設
2	二郎遺跡	北区有野町二郎	神戸市スポーツ・ツ 教育公社	井川 格	60m <sup>2</sup> 60m <sup>2</sup>	8.12.16～8.12.20	中世 上坑、渠（出土遺物なし）土器 施設器・上耕器 独立	汚水管工事
3	吉尾遺跡・羽柴屋跡	北区八多町吉尾 宇美施・羽柴	神戸市教育委員会	森木 康	2,075m <sup>2</sup> 2,075m <sup>2</sup>	8.5.13～8.7.23	中世13～14世紀の獨立柱建物 独立 土器群、柱根	施場整備
4	屏風遺跡	北区八多町屏風 字下辻613！ 他	神戸市教育委員会	井川 正俊 阿部 敦士	1,300m <sup>2</sup> 1,300m <sup>2</sup>	8.4.18～8.7.4	縄文・耕作地、江戸～幕末、健食一族 立派施物・上坑、渠、江戸～大分段塗 馬糞、瓦器（鐵器も）	田舎整備
5	屏風遺跡第11次調査	北区八多町屏風 字下辻613！ 他	神戸市教育委員会	阿部 敦士	250m <sup>2</sup> 250m <sup>2</sup>	8.9.4～8.9.17	中世 津伏落込込み1カ所 幸世の振 毛器・土器群 少量	巡回踏査
6	宝原遺跡	北区長尾町宝原	神戸市スポーツ・ツ 教育公社	井川 格	730m <sup>2</sup> 730m <sup>2</sup>	9.1.13～9.3.19	奈良～中世 中世の木組升戸 占満 (後)の虎、中世のピット、土坑、渠、 水田植付、平安(前)の虎	汚水管工事
7	名山城跡	北区長尾町上池 地区	神戸市スポーツ・ツ 教育公社	井川 正俊	120m <sup>2</sup> 120m <sup>2</sup>	9.3.7～9.3.27	中世末の山城	北神戸第2地区廃校
8	伊庭遺跡	北区浜河町伊庭 字上ノ原183地	神戸市教育委員会	西岡 巧次 阿部 敦士	1,610m <sup>2</sup> 1,610m <sup>2</sup>	9.1.20～9.3.28	中世(奈良末～平安初) 一引堀な遺構 は朱漆器、唐、土坑、ピット・上耕 器・須恵器・陶器	監視整備
9	佐難遺跡	北区浜河町佐難 字山道30番 地 主	神戸市教育委員会	阿部 敦士	460m <sup>2</sup> 460m <sup>2</sup>	8.4.8～8.5.2	古墳、中世 土坑、渠、柱穴、古墳 (如器) 中世 須恵器・土器器、陶器 移	監視整備
10	浜河試掘その1	北区浜河町本町	神戸市教育委員会	宜山 直人	244m <sup>2</sup> 244m <sup>2</sup>	8.5.7～8.5.13	遺構・遺物は検出されなかった	監視整備
11	浜河試掘その2	北区浜河町北側 尾	神戸市教育委員会	宜山 直人	400m <sup>2</sup> 400m <sup>2</sup>	8.4.1～8.4.23	須恵器、土器器	監視整備
12	浜河試掘その3	北区浜河町野瀬、 八多町西池尾	神戸市教育委員会	阿部 敦士	420m <sup>2</sup> 420m <sup>2</sup>	8.12.9～8.12.27	中世 土坑、ピット 須恵器、土器器	監視整備
13	尾上遺跡	北区大沢町牛大 川尾尾上	神戸市教育委員会	相原 宏	8m <sup>2</sup> 8m <sup>2</sup>	8.4.15	中世 瓦器群、土器群	下水路現場確認
14	田中住家宅	北区山田町坂本 字永納香坂	神戸市教育委員会	荒野 豊	300m <sup>2</sup> 300m <sup>2</sup>	9.1.30～9.3.4	近世 磚石、炉、地盤強化 上耕器、 瓦器、鉢器	占民家再建
15	長田社境内進塙 第8次調査	長田区長田町4 丁目1	神戸市教育委員会	森田 伸久 河原 敦士 阿部 功	267m <sup>2</sup> 267m <sup>2</sup>	8.10.2～8.10.31	中世の池？、水だまり、土坑、渠 須 恵器、上耕器、枕、肥料施、瓦器	校舎建設
16	浜河遺跡第15次調査	須磨区平田町3 丁目	神戸市教育委員会	山口 美正	1,100m <sup>2</sup> 1,100m <sup>2</sup>	8.4.1～8.4.14	弥生初期～中期 流路、渠 弘生土器	駅ビル建設
17	我町遺跡第23次調査	須磨区平田町3 丁目	神戸市スポーツ・ツ 教育公社	山口 美正	70m <sup>2</sup> 420m <sup>2</sup>	8.9.15～8.10.20	弥生、中世 井戸、落ち込み 須恵器、 上耕器、弘生土器	山下遺跡建設

平成 8 年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（通常事業に伴う調査）(2)

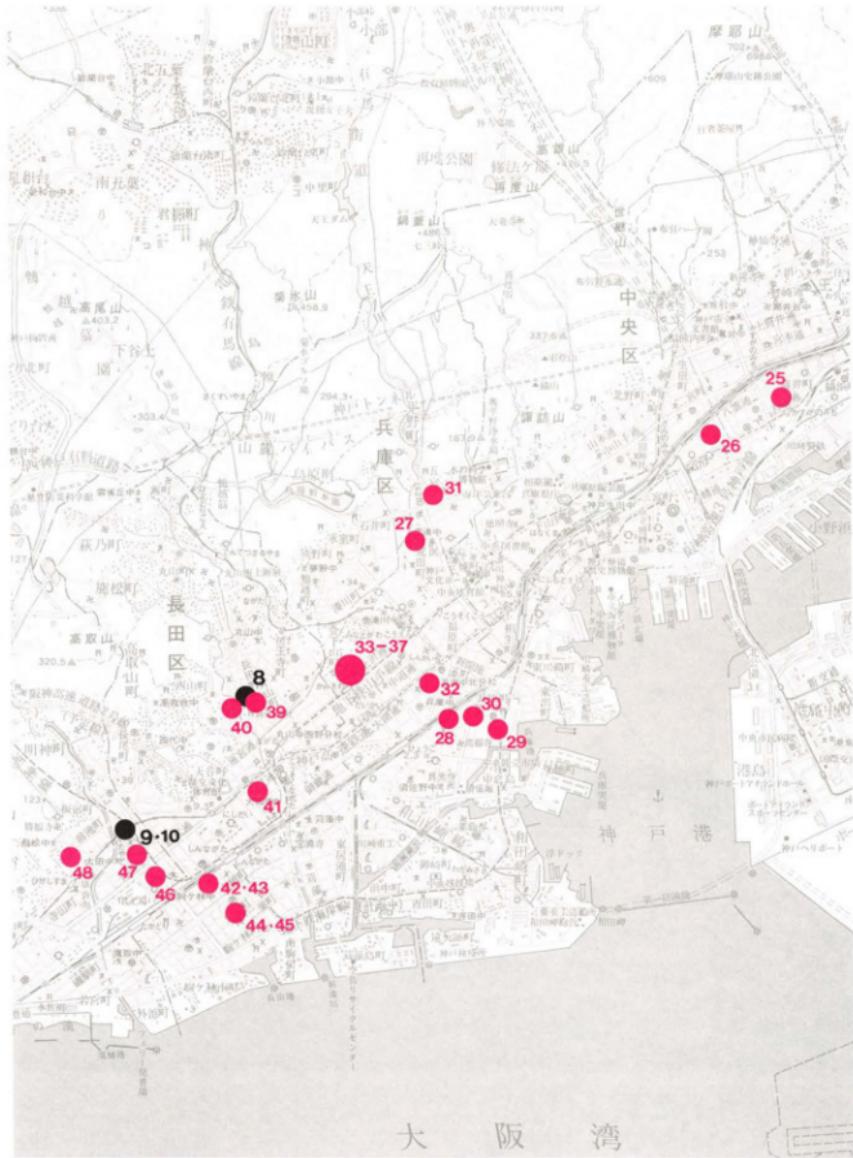
番	通 路 名	所 在 地	調査 単 体	調査担当者 延べ金額	調査面積	調 査 期 間	調査 内 容	調査 原 因
18	大手町塗坐跡 3 次調査 (試掘)	渋谷区大手町 5 丁目	神戸市教育委員会	須藤 宏 延べ金額	60m <sup>2</sup> 60m <sup>2</sup>	8. 7. 31～8. 8. 10	中世・近世 漢・柱穴 土器等、サヌ カイト・陶器等	道路建設
19	舞子浜道路	垂水区舞子公園	神戸市スポーツ 教育公社	浅谷 誠吾	160m <sup>2</sup> 160m <sup>2</sup>	9. 1. 20～9. 1. 31	遺構・遺物は検出されなかった	道路建設
20	寒風東路第 2 次調査	西区伊川谷町洞 和宇家屋敷	神戸市スポーツ 教育公社	黒田 康正 草薙秀 中村 大介	2,400m <sup>2</sup> 2,400m <sup>2</sup>	8. 7. 22～9. 3. 25	古墳後期 彩文柱ыш層 17、獨立柱建物 22、人形埴輪建物跡 2、土坑 8、溝 26、 ピット 多数 古墳後期	道路建設
21	長谷道路	西区塙谷町長谷	神戸市スポーツ 教育公社	阿部 功	643m <sup>2</sup> 643m <sup>2</sup>	9. 2. 4～9. 3. 31	備合室 代 1坑、漢、ピット 墓葬器 土器等	污水管布設
22	香木溝跡第 12 次調査	西区塙谷町菅野 字東下	神戸市スポーツ 教育公社	谷 正俊	410m <sup>2</sup> 410m <sup>2</sup>	8. 7. 11～8. 7. 24	弥生時代中層 上坑、ピット、鐵柵土 板、近後～近代井戸、土坑 土器等、 萬葉詩	道路建設
23	菅野道路	西区塙谷町松本	神戸市教育委員会	黒田 康正 中村 大介	1,118m <sup>2</sup> 1,118m <sup>2</sup>	8. 4. 10～8. 7. 17	弥生中層 楕円柱窓 5、古墳後期 挿 立柱建物 1、古代獨立柱建物 2、土坑、 漢、古代道路	道路整備
24	西神862地に境跡	西区塙谷町菅野	神戸市教育委員会	西岡 巧次 西岡 繁司 片岡 格	1,320m <sup>2</sup> 1,320m <sup>2</sup>	8. 4. 3～8. 8. 10	弥生中層・中間 楕円柱窓、土坑、漢、 独立柱建物 土器等、土器等	道路整備
25	高津浜岡溝跡第 5 次調査	西区大津河高津 橋南周辺	神戸市教育委員会	池田 敦	1,600m <sup>2</sup> 1,600m <sup>2</sup>	8. 10. 31～8. 12. 16	中世～近世井戸柱窓 3、雅羅 14坑、 墓、井戸、漢、ピット廐室大塗 (斜 坡)、弥生後期～古墳後期	造成地内進入道路地 盤
26	玉田浜中溝跡下野地区	西区平野町下野	神戸市教育委員会	口野 博史	1,230m <sup>2</sup> 2,540m <sup>2</sup>	8. 11. 18～9. 2. 6	遺跡遺構 (7 世紀中葉・水田跡 (弥 生前期・中期・後期) 水切跡、弥生土 器)	道路建設
27	梅・荒川付道路	中央区梅町 7 丁 目 5～2	兵庫県教育委員会	深江 美穂 藤原 寛實	396m <sup>2</sup> 1,188m <sup>2</sup>	9. 2. 4～9. 3. 25	奈良時代～江戸時代の集落柱穴、漢	神戸大学医学部 臨床研究施設
28	小畠道路	北区有野町二郎	兵庫県教育委員会	鈴木 敏二	50m <sup>2</sup> 50m <sup>2</sup>	8. 11. 5	中世の集落	荒場南 I
29	吉神862地点道路	西区塙谷町菅野 433地	兵庫県教育委員会	岡田 山下 堀田 重 木場 卓	340m <sup>2</sup> 340m <sup>2</sup>	8. 5. 7～8. 5. 15	古墳時代～中世の集落 柱穴、領主 館、土器等、唐前系茶付磁器 (近世)	国道 2 号線建設事業 (神戸西バイパス)
30	池の内森森沢	西区伊川谷町上 福字农山	兵庫県教育委員会	酒井 美惠 雁尾 重 石松 卓	391m <sup>2</sup> 391m <sup>2</sup>	8. 7. 10～8. 12. 16	古墳 4 基	国道 2 号線建設事業 (神戸西バイパス)
31	安山城跡	西区伊川谷町上 福字农山	兵庫県教育委員会	西口・瀬川 船形・石松	5,198m <sup>2</sup> 5,198m <sup>2</sup>	8. 7. 10～8. 12. 16	弥生時代中晩末の集落遺構・埋 立柱建物、漢・弥生時代後期・中世 の集落	国道 2 号線建設事業 (神戸西バイパス)
32	長坂道路	西区伊川谷町糀 坂	兵庫県教育委員会	岡田 草 菜川 淑子 水越 正臣	914m <sup>2</sup> 914m <sup>2</sup>	8. 5. 9～8. 7. 12	近世の集落 井戸、東石清等 中世 の集落 独立柱建物、漢・古墳時代 の土坑	国道 2 号線建設事業 (神戸西バイパス)
33	上島道路	西区伊川谷町上 島	兵庫県教育委員会	西田 章 菜川 淑子 水越 正臣	1,819m <sup>2</sup> 1,819m <sup>2</sup>	8. 6. 17～8. 11. 13	龍田寺時代後半の殿、古墳時代後期の獨 立柱建物、漢・弥生時代終末の洗跡	国道 2 号線建設事業 (神戸西バイパス)
34	草原城跡	北区浜河町草原	浜神文化財協会	鶴崎 直也	2,010m <sup>2</sup> 2,010m <sup>2</sup>	8. 12. 9～9. 3. 17	鎌倉時代～江戸時代 故郷開拓遺構、 墓跡、水田	草原丸周辺整備
35	春原城跡	北区浜河町草原	浜神文化財協会	岩崎 達也	1,450m <sup>2</sup> 1,450m <sup>2</sup>	9. 9. 6～9. 12. 16	鎌倉時代～江戸時代 清掃開拓遺構、 墓跡、水田	草原丸周辺整備

平成8年度 神戸市埋蔵文化財調査位置図  
(各遺跡の番号は掲載遺跡と一致)





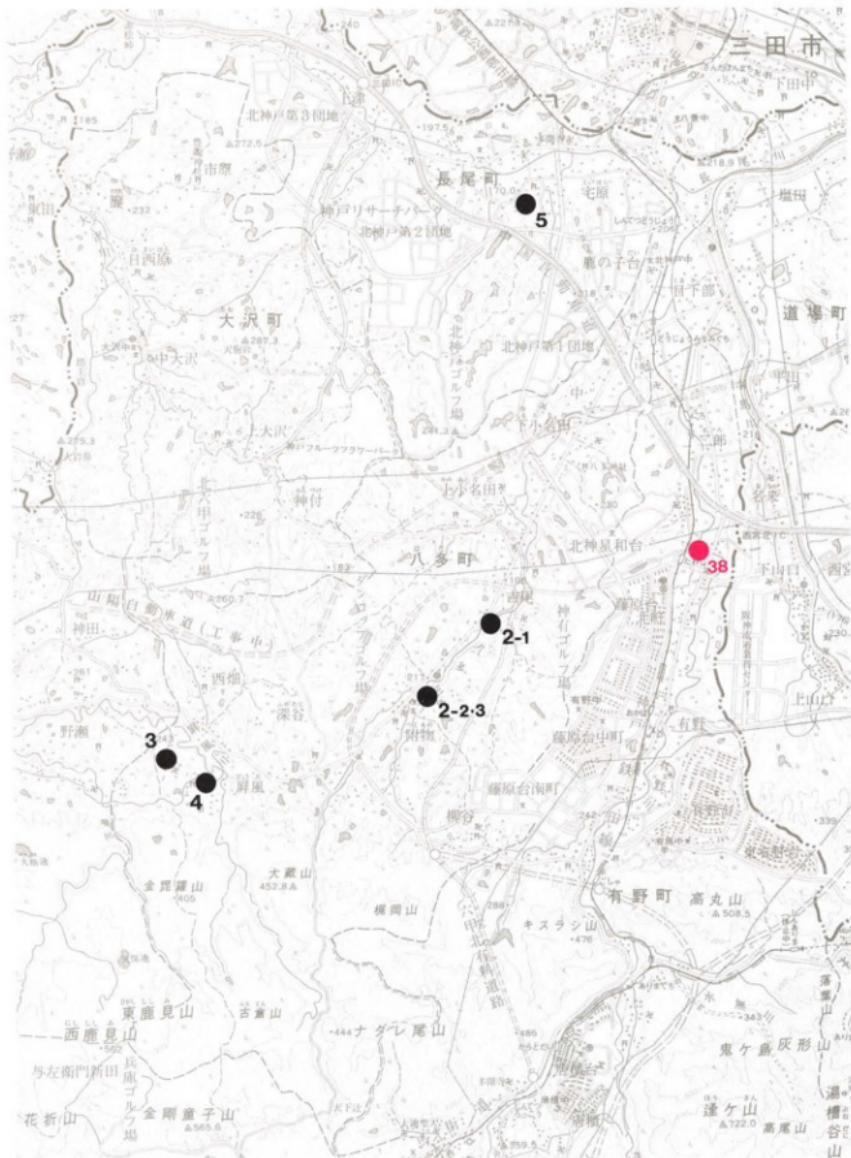
調査地点位置図1



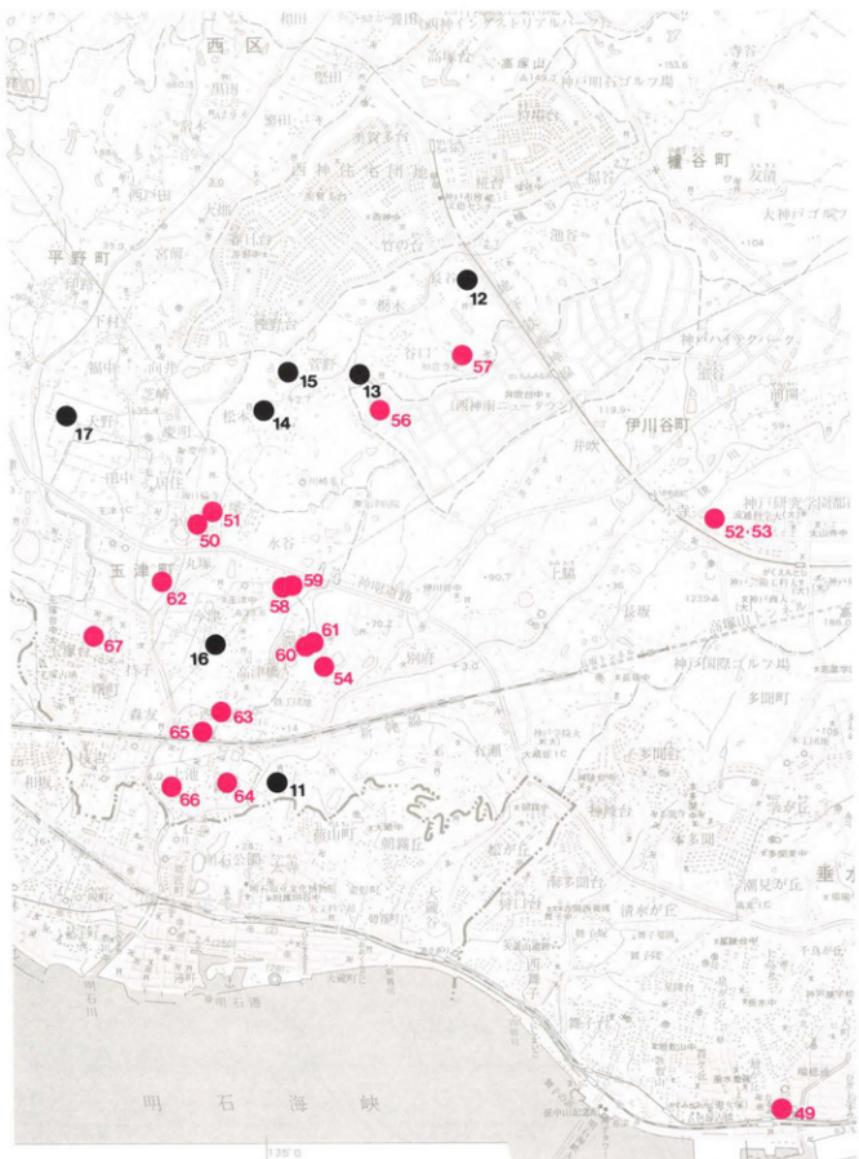
調査地点位置図 2



### 調査地点位置図 3



調査地点位置図 4



調査地点位置図 5

## II. 平成8年度の復興事業に伴う発掘調査

### 1. 深江北町遺跡 第8次調査

#### 1. はじめに

深江北町遺跡は、県営深江住宅建設に伴う試掘調査によって、昭和59年度にはじめて確認された遺跡である。その後の調査によって弥生時代後期から平安時代の集落遺跡であることが明らかになった。度重なる周辺の調査によって、弥生時代後期末から古墳時代初頭の円形周溝墓や土器棺墓、奈良時代から平安時代の銅製帶金具や銅鏡等の発見があった。

当遺跡は、六甲山南麓の芦屋川西岸に位置しており、標高2.0m～5.0mの海岸線と平行にのびる砂堆上及びその周辺にひろがる後背湿地上に立地している。現在のところ、深江北町1丁目から深江北町3丁目及び深江本町1丁目から深江本町2丁目にかけて所在しており、南北0.3km、東西0.7kmの範囲に分布していると考えられる。

今回の調査はマンション新築工事に伴うもので、工事影響範囲である185m<sup>2</sup>について、発掘調査を実施することとなった。



第1遺構面 地表下約80cm～1.1m（標高約3,400m～3,800m）で検出された遺構面である。黄灰色砂質土及び暗黄灰色砂質土をベースとしている。

平安時代後半頃の土坑2か所（SK01・02）・溝3条（SD01～03）・ピット87か所を検出した。

第1遺構面より下層においては、弥生時代～古墳時代頃の遺物は出土したが、いずれの地区においても、遺構面は確認できなかった。

各遺構内及び遺構面上面、包含層内により、28ℓコンテナ10箱分の弥生土器・須恵器・土師器・黒色土器・縄輪陶器の他、サヌカイトの石礫・剝片が出土している。

また、調査区4区北端の淡乳黄褐色砂質土内より、獸骨（おそらく馬の歯か？）が出土している。

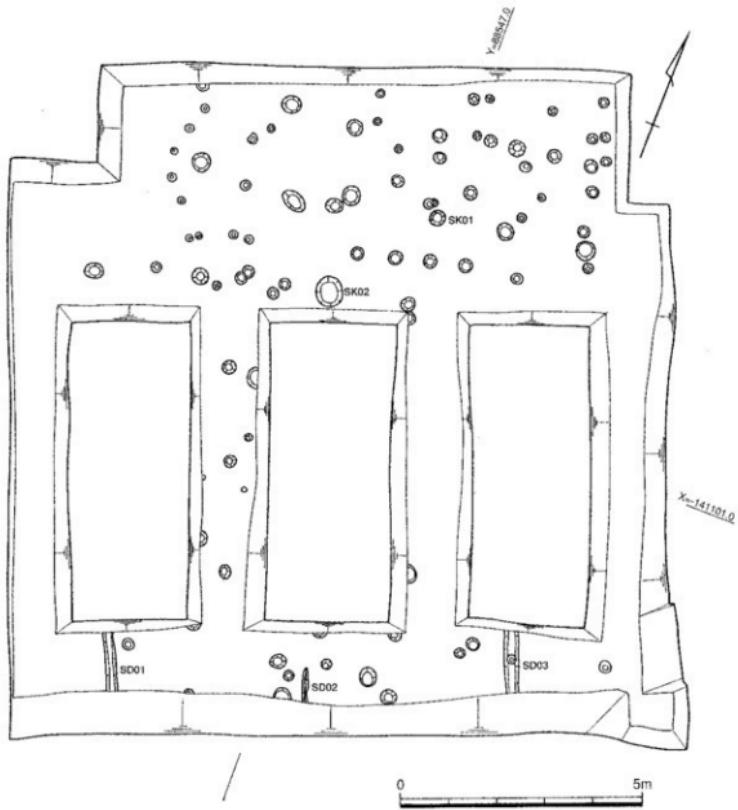


fig. 8 遺構平面図

**S K01** 1 A区～1 B区の中央付近で検出された梢円形の土坑である。南北70cm×東西60cm、深さ30cm～40cmを測る。

船底形の底面の上に直立した状態で、須恵器の双耳壺が埋納されていた。双耳壺は、口縁部は失われていたが、頸部より底部までは、ほぼ完存していた。

現在のところ、壺内の埋土の精査を実施していないため、詳細は不明であるが、出土状態等からみて、この双耳壺は、藏骨器である可能性が考えられる。

双耳壺の時期については、現在のところ、平安時代後半（10世紀頃）に比定されるため、S K01についても、ほぼ同時期のものと考えられる。

**S K02** 1 B区の南端で検出された梢円形の土坑である。南北80cm×東西60cm、深さ50cm～60cmを測る。埋土内より、須恵器壺・土師器・黒色土器等が出土している。

**S D01** 6 C区の中央付近で検出された南北方向にのびる溝状遺構である。北側及び南側とともに調査区外へのびているため、全長は不明である。現存長1.5m以上、深さ10cm～15cmを測る。埋土内より、須恵器・土師器が出土している。

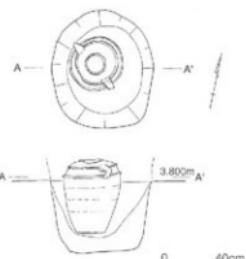


fig. 9 SK01 平面図・立面図



fig. 10 1A区～1B区溝構検出状況



fig. 11 4区溝構検出状況



fig. 12 SK01 須恵器双耳壺出土状況



fig. 13 SK02 遺物出土状況

- S D 02 6 B区の南側付近で検出された南北方向にのびる溝状遺構である。南側は調査区外へのびているが、北側は途中で途切れている。現存長0.9m以上、深さ5cm~10cmを測る。埋土内より、須恵器・土師器が出土している。
- S D 03 6 A区の中央付近で検出された南北方向にのびる溝状遺構である。北側及び南側ともに調査区外へのびているため、全長は不明である。現存長1.6m以上、深さ10cm~20cmを測る。埋土内より、遺物は出土しなかった。
- ピット ピットは、径20~50cm、深さ20~60cmである。調査区内では、部分的には、並ぶものもあるが、建物としては、まとまらなかった。
- 3.まとめ 今回の調査地は、兵庫県教育委員会が実施した深江北町遺跡第1次調査～第3次調査地よりも、芦屋市側で実施された津知遺跡第2地点、第4地点の方が、地理的にも近く、また、出土遺物や各遺構等の存続時期も類似していると考えられる。
- 津知遺跡は、現在までの発掘調査の成果より、当遺跡が官衙的な色彩が強く、芦屋駅家あるいは都衙の可能性が高いと推定する説もある。
- 今回の調査では、平安時代の集落跡の一部が検出され、通常では出土することが稀少である綠釉陶器をはじめ、黒色土器や瓦が出上している。
- これらの点から見ても、今回の調査が、当地域の平安時代の暮らしぶりを考える上において、注目すべき成果になる可能性も高い。

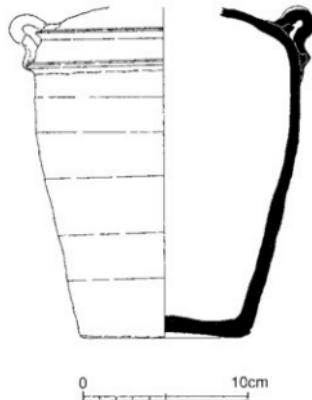


fig. 14 SK01 須恵器双耳壺実測図

## もとやま 2. 本山遺跡 第20次調査

### 1. はじめに

本山遺跡ではこれまでに19次にいたる調査が行われており、弥生時代前期から中期の流路や土坑が検出されている。そこからは、縄文晩期の土器や弥生時代前期から中期にかけての多数の土器や石製品、木製品が出土している。また、このほかに平成元年度の調査では弥生時代中期の銅鐸が出土していることは注目される。

平成7年1月17日に起きた阪神・淡路大震災では、神戸市東灘区本山地区一帯は甚大な被害を受けた。今回の調査は、地震によって被害を受けた小路市場の再建にかかる店舗兼共同住宅建設に伴った震災復興関連調査である。

建築工事予定範囲のうち西端の約230m<sup>2</sup>に関しては、平成7年度に行った試掘調査により遺構は存在しない事が判明しており、調査の対象より除外されている。

本山遺跡の旧地形は国道2号線を挟んで北側と南側では大きく異なり、北側では更新世段丘が現地表面から浅い位置で顕れる。南側では縄文海進時の海食崖があり、その南側には沖積地が広がる。今回の調査地点は、国道2号線の北側に位置する。



### 2. 調査の概要

#### 基本層序

今回の調査地における基本層序は上から、現代の盛土・淡灰色砂（旧耕土）・暗茶褐色砂混じりシルト（弥生時代前期・中期遺物包含層）・黒灰色砂混じりシルト（弥生時代前期・中期遺物包含層）・淡黄色シルト（第1遺構面）となる。それ以下に関しては調査区の西側2／3は粗砂礫層で遺物・遺構は存在しないが、東側1／3は淡灰褐色シルト（縄文時代中期遺物包含層）・灰褐色砂混じりシルト（縄文時代中期遺物包含層）・暗灰褐色シルト（第2遺構面）となる。但し、調査区の西から約1／5は暗茶褐色シルト層・黒褐色シルト層が存在せず、淡灰色砂（旧耕土）直下で第1遺構面となる。また、黒褐色シルト層の上面で後述する土器群が検出されていることから、同層上面で弥生時代中期の遺構面が存在する可能性が高いが、遺構の検出は困難であった。

### 第1遺構面

弥生時代前期  
土 坑

第1遺構面では、弥生時代中期の掘立柱建物址1棟、弥生時代中期の流路2条、弥生時代前期から中期の流路5条、弥生時代前期から中期の土坑19基、古墳時代前期の土坑1基、弥生時代中期の土器棺墓2基、弥生時代前期から中期のビット多数が検出された。

S K04~08・10の5基の土坑はいずれも直径1.2~1.4mの円形の土坑で、壁面は垂直に立ち上がり、中央にビットを持つものもある。埋土からは土器片のはかに獸骨も出土している。以上の点からこれらの土坑は貯蔵穴と考えられる。

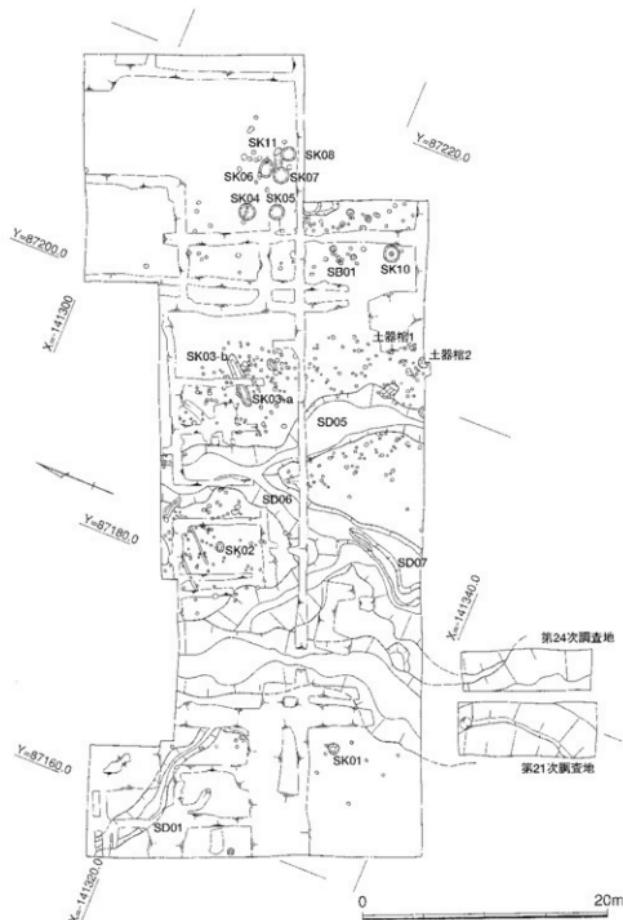


fig. 16 第1遺構面平面図

S K03-aは、長辺2.2m・短辺0.8m・深さ0.3m、S K03-bは、長辺2.5m・短辺0.8m・深さ0.45mの長方形の土坑である。この2つの土坑とともに、壁面が垂直に立ち上がること等から貯蔵穴と考えられる。遺物はそれぞれの土坑内から、土器類とともに鹿・猪等の哺乳類や鳥類・魚類等の、骨・歯や炭化米が多数出土している。またSK03-bからは、緑色凝灰岩製の管玉が1点出土している。また、この土坑から旧石器時代のチャート製のナイフ形石器も出土している。

S K11は長径3.0m、短径0.5m、深さ0.3mの長楕円形の土坑である。出土した土器は小片のため時期はあきらかではないが、SK07に切られていることから、弥生時代前期の遺構と考えられる。

この土坑から、長さ2.5cm、端部径0.6cm、軸径0.3cmの弓箭と考えられる骨製品と、端部に2段の肥厚部を持ち、そこに櫛齒状の紋様を施した、長さ3.1cm以上、端部径0.9cm、軸径0.6cmの笄の可能性がある骨製品が出土している。この土坑は弥生時代の土坑であるが、縄文時代の遺物包含層を切って作られていて、縄文土器もその埋土中に含んでおり、この骨製品は縄文時代の遺物である可能性もある。

## 流 路

S D06-07は弥生時代前期の流路であるが、その埋土から緩やかな流れであったと考えられる。S D07の最終埋没時には多量の礫と土器が投棄されていた。



fig. 18 第1塗構面全貌



fig. 19 土坑群検出状況（貯蔵穴群）



fig. 17 SK11 出土骨製品

弥生時代中期

掘立柱建物

S B01は1間×3間の掘立柱建物である。建物の規模は南北方向が1.6~1.8m、東西方向が3.6m、柱間は南北方向が1.5~1.7m、東西方向は1.0~1.2mを測る。西から二本目の柱が現代の搅乱によって失われている。柱穴掘形の直徑は25~35cm、柱痕の直径は20cmを測る。柱穴内の出土遺物から、弥生時代中期の建物と考えられる。

土器棺

土器棺1は壺に鉢で蓋をしたもので、横に寝かせた状態で埋められていた。土器棺2は壺の底部のみであるが、正位置で埋められていたことから、土器棺と考えられる。

土器棺墓は、以上の2基が確認だが、その付近から、壺や壺の大きい破片が出土しており、他に2基は存在していたようである。土器棺はすべて弥生時代中期のものである。

土坑

S K12は長径3.1m、短径約1.5m、深さ0.5mの楕円形の土坑である。拳大から人頭大の礫とともに壺等の土器類が投棄されていた。埋土中から緑色凝灰岩製の管玉が2点出土している。

流路

S D05北半の中央部からS D05南半にかけては弥生時代中期の流路である。この流路から多量の土器片が出土した。流路1も弥生時代中期の流路であるが、流れは急であったようで、砂堆によって埋まっている。その肩部からは多量の土器片とともに石包丁・太形蛤刃石斧片・石鎌等の石器類が出土している。

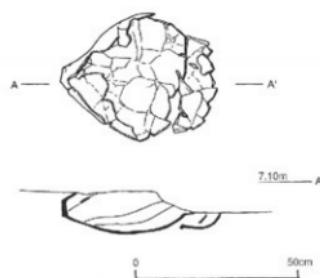


fig. 20 土器棺1平面図・断面図

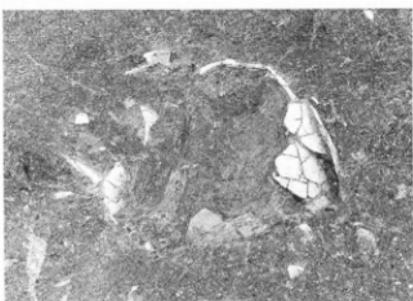


fig. 21 土器棺1検出状況



fig. 22 土器棺2検出状況



fig. 23 土器棺残片検出状況

- ピット** これらの主な遺構の他に、多数のピットが検出されたが、出土遺物が少なく時期の確定できるものはすくない。また、建物としてまとまるかどうかは検討中である。
- 古墳時代前期  
土坑** S K01は直径0.8m程の円形の土坑で、残存する深さは45cmを測る。断面の形状はすり鉢状を呈している。土坑の底から甕と小型丸底壺が出土している。古墳時代の遺構はこのSK01のみである。
- 第2遺構面** 第2遺構面で検出された遺構は、縄文時代中期の掘立柱建物址1棟、土坑5基、ピット多数である。調査区の東から1/3には第2遺構面は存在するが、それより西は河道となつており遺構面は存在しない。但し河道の最終堆積層である黄褐色シルト層において、土器溜まりが1か所存在する。

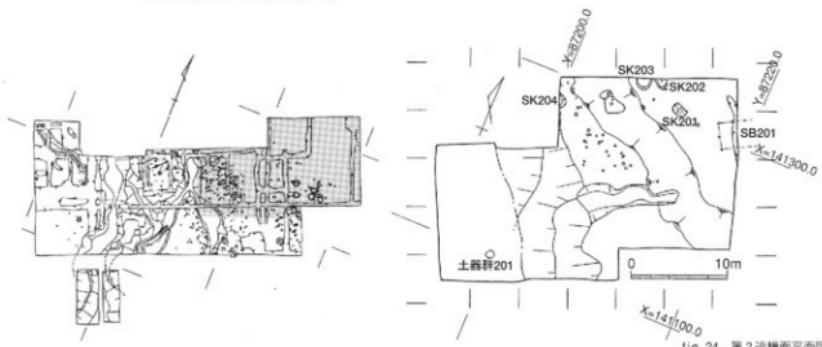


fig. 24 第2遺構面平面図

- 掘立柱建物** S B201は南北2間、東西1間以上の掘立柱建物である。東側は調査区外に延びているため、その規模は明らかではないが、同様の建物の例から2間×3間程度の規模のものと考えられる。柱間は、南北方向が3.0m、東西方向は1.6m以上を測り、南北方向の3本の柱列のうち、中央の1本が外側に出ており、なおかつ他の2本より深いことから、棟持柱と考えられ、南北方向が桁行きと思われる。柱穴掘形の直径は25cm、深さ20~40cm。柱痕の直径は20cmを測る。
- 土坑** S K202・SK203は、いずれも調査区外に延びているため、全形は明らかでない。
- S K202は短径1.7m、長径1.3m以上の楕円形の土坑で、残存する深さは45cmを測る。断面の形状は逆台形を呈している。
- S K203は短径1.2m、長径1.2m以上の楕円形の土坑で、残存する深さは25cmを測る。断面の形状は逆台形を呈している。



fig. 25 土器群201

- ピット ピットは多数検出され、柱痕が存在するものもあったが、柱穴群の中央を弥生時代前期以前の河道によって削られているため建物としてのまとまりは判明しなかった。
- 出土遺物 第2遺構面出土の遺物としては、遺物包含層と縄文時代の河道の肩部から出土したものがほとんどである。それらは、縄文時代中期前半の船元II～IV式の土器とサヌカイト製の石鎚などである。また同層中より、試掘調査時には縄文時代早期の押型紋上器である神宮寺式土器が、また今回の調査では、有舌尖頭器が出上している。河道最終堆積である黄褐色シルト層からは縄文時代中期後半の里木II式土器が、まとまって出土している。
- 3.まとめ 今回の調査は、これまで調査されてきた本山遺跡の東端にあたるが、多くの遺構が検出され、遺物も多数出土した。先ず、縄文時代早期と中期の遺物・遺構が見つかったことは特筆される。これまでの調査でも縄文時代中期の遺物は出土していたが、それらの遺物に伴う遺構がみつかったことで、当時の居住域が確認された。またこれまでには見つかっていなかった縄文時代早期の土器や、それを廻る旧石器時代の遺物も見つかっていることから、この時代より本山遺跡周辺では人が住みはじめと考えられ、貴重な発見となった。
- 弥生時代前期の遺構として、貯蔵穴群が見つかったが、これらの貯蔵穴は残りが悪く、非常に浅いことから、当時の生活面は削平されていると考えられる。貯蔵穴群が見つかったことで、堅穴住居址等の深い遺構は残っていないが、当時の居住域が想定される。
- 弥生時代中期の遺構として、土器棺群が検出されたことも重要である。今年度調査がおこなわれた、西隣の本山遺跡第22次調査地点において、この時期の堅穴住居が見つかっており、合わせて集落構成の一端がうかがえる。

fig. 26  
南上空からの調査地



### 3. 本山遺跡 第21次調査

#### 1. はじめに

本山遺跡は、六甲山南麓の要玄寺川西岸に位置しており、標高約6m～20mの扇状地の末端に立地している。現在の神戸市東灘区本山中町から本山南町にかけて、南北0.6km、東西0.6kmの範囲に分布していると考えられている。

周辺の遺跡としては、当遺跡の東方、200m～1.0kmにかけての要玄寺川東岸には、北側から、出口遺跡（弥生時代・中世の集落跡）・井戸田遺跡（弥生時代の集落跡）・本山中野遺跡（弥生時代の集落跡）・小路大町遺跡（弥生時代の遺物散布地）・北青木遺跡（弥生時代の集落跡）が存在している。

今回の調査地の隣接地である本山中町3丁目の第20次調査地では、平成8年4月より調査を実施しており弥生時代前期から中期にかけての遺構が検出されつつあった。



fig. 27  
調査地位置図  
1:2,500

#### 2. 調査の概要

今回の調査は、事務所兼個人住宅新築工事に伴うもので、調査に先立ち平成8年7月1日に試掘調査を実施したところ、弥生時代の遺物包含層が確認されたため、工事影響範囲である60mについて、発掘調査を実施することとなった。調査の結果、弥生時代中期頃の自然流路を検出した。

### 遺構と遺物

今回の調査区内では、第20次調査で検出された南北方向に流れる弥生時代中期の自然流路の一部を検出した。

自然流路は、西側の肩部のみ検出したため、全体の幅や深さは不明であるが、現況では、全長10.0m以上、幅1.6m～5.0m以上、深さ20cm～60cmを測る。

自然流路内及び遺物包含層より、弥生時代中期～後期頃の弥生土器・須恵器・土師器・サスカイト剝片等が28点・コンテナ10箱分出土している。

### 3.まとめ

今回の調査区は、狭小であり、また近・現代の搅乱が多かったため、第20次調査で検出された弥生時代中期の自然流路の一部しか検出できなかった。

しかしながら、自然流路内より、多量の弥生土器やサスカイト剝片等が出土しており、第20次調査の状況からも付近に居住域が存在した可能性が非常に高い。

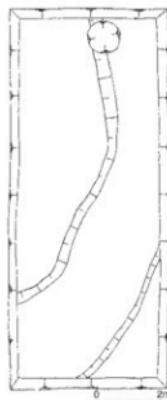


fig. 28 流路平面図

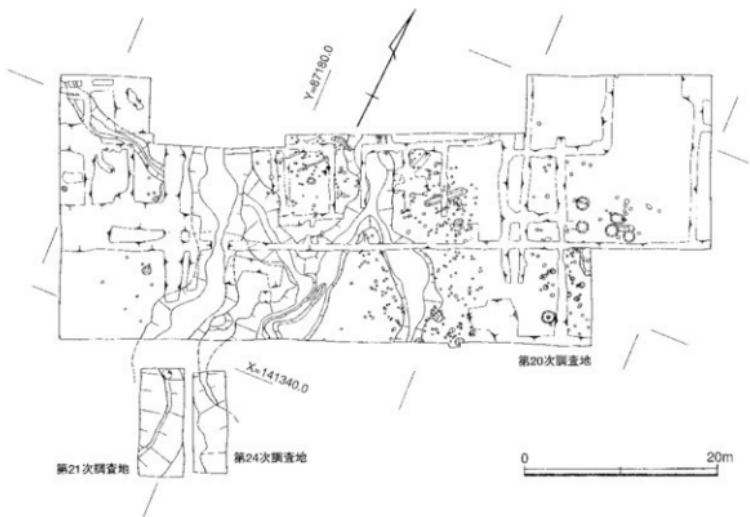


fig. 29 第20調査地との位置関係図

## 4. 本山遺跡 第22次調査

### 1. はじめに

阪神・淡路大震災によって当該地の家屋が倒壊したため住宅の再建が必要となり、共同住宅新築が計画された。これを受け、共同住宅建設に伴う開発行為事前審査願が神戸市教育委員会に提出された。計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地である本山遺跡の範囲内にあることから、平成8年3月27日に試掘調査を実施した。試掘調査では弥生時代の遺物を含む包含層が確認され、遺跡が存在することが明らかになった。試掘の結果に基づき、共同住宅建設によって破壊される部分に限り発掘調査を行うことになった。



fig. 30  
調査地位置図  
1:2,500

### 位置と環境

東灘周辺の地形は北から、六甲山の連なる山地・丘陵地、河岸段丘面、縄文海進以後に形成された平野部の3つに大別できる。本山遺跡は段丘面と平野部の境界付近に広がっている。今回の調査地は遺跡の南東部であり、縄文前期の海進によって形成された波食崖の北側、段丘末端上である。調査地区の標高は現況で8.1~8.9mである。

東灘区周辺の六甲山山麓は、桜ヶ丘遺跡をはじめ多数の青銅器が出土することで著名であり、弥生時代中期から後期に至る高地性集落や段丘上の集落が多く存在しているが、遺跡の大半は現在の国道2号線より北側に密集している。本山遺跡においても平成2年度に行われた第12次調査では小形銅鐸1口が検出されている。また、多数のピットや石器を投棄したとみられる河川跡とともに、弥生時代前期~中期を中心とする遺物が出土した。西側隣接地の調査では、掘立柱建物2棟などが検出され、東側隣接地では多量のサスカイト製石器に加え、縄文時代早期の押型紋土器が出土した。

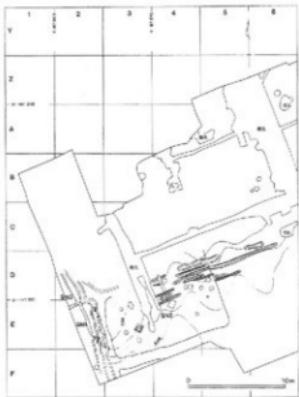


fig. 31 第1遺構面平図

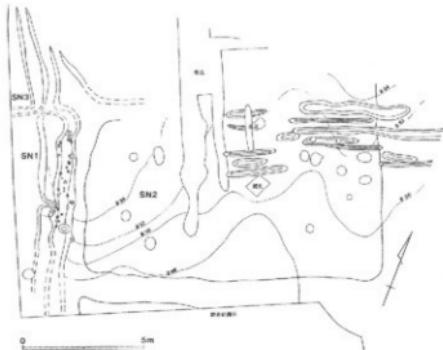


fig. 32 第1遺構面 水田平面図

**2. 調査の概要** 調査範囲内は建物基礎によって激しく擾乱されていた。遺構面はこれらの擾乱層によって相当部分が破壊されていると予測されたが、擾乱層下の近世あるいは近代の水田層によってよく保存されていた。遺構面は、調査範囲内南西部の表土下25cm程度のⅡ層上面に近世あるいは近代の水田層をもつ第1遺構面、北側で表土下10cm程度、南側で表土下40cm程度のⅣ層上面に弥生時代前期から中期の第2遺構面が検出された。

**第1遺構面** 第1遺構面は、シルト質細砂からなるⅡ層上面に確認した。検出された遺構は、正方位を基本とした水田跡3筆以上である。南北の大畦畔中央には小規模な用水路が認められ、水口も確認できた。水掛けりは北東から南西であった。水田土壤のうち耕作土と床上であるオレンジ斑駁層を構成するⅡ・Ⅲ層が市場建設によって削平されていたため、水田跡の分布は調査範囲南西側に限られていたが、畦畔の連続性・下層の土壤化痕跡・鉄跡と思われる耕作痕の存在からみて調査範囲全体に広がっていたと考えられる。

水田耕作土からは近世後期から近代に至る磁器少量を得ることができた。また、水路下層で中世のかわらけが検出できた。床上には弥生時代を中心とした遺物が多量に包含されており、遺構の年代は、層位的にみて耕作土出土遺物の年代と大きく食い違うことはないと思われる。

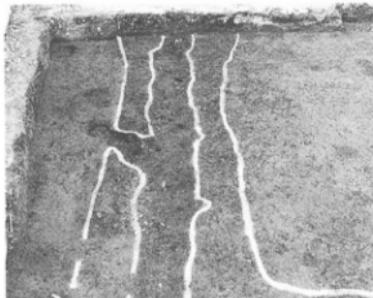


fig. 33 第1遺構面 大畦畔

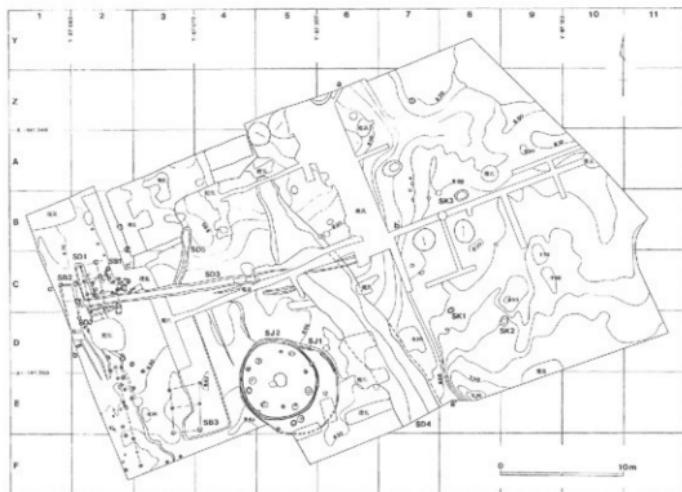


fig. 33 第2遺構面平面図

### 第2遺構面

第2遺構面は、縄文海進以後に形成されたと思われる黒色細砂質シルトのIV層上に確認した。検出できた遺構は、弥生時代前期の溝1条、弥生時代中期の竪穴住居2軒、弥生時代中期の溝2条、平安時代の溝1条、時期不明の掘立柱建物3棟、土坑3基、ピット群1カ所、近世から近代の溝1条である。

### 弥生前期の溝

弥生時代前期の溝（SD4）は調査範囲中央付近を南北に貫いていた。北側では震災前の建物建築によって削平されていたが、連続することは確実である。緩やかな立ち上がりで、流水の形跡はなかった。覆土は3層に分かれるが、最上層から弥生時代中期に属する多量の土器・石器の細片が、無遺物層をはさんで底面付近から弥生時代前期に属する完形または、大形の上器片が出土した。弥生前期の遺物にはミニチュアの壺形土器があった。出土遺物から弥生時代前期の遺構と判断した。



fig. 35 第2遺構面 第3掘立柱建物



fig. 36 第2遺構面 第4号溝

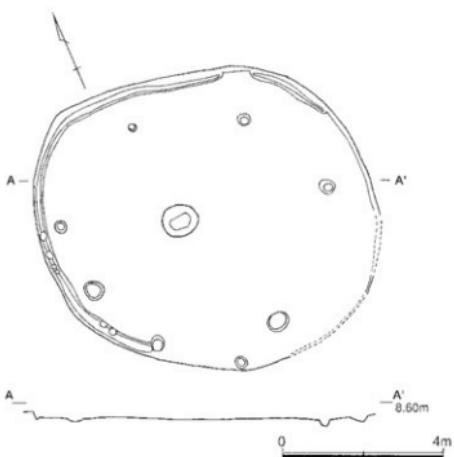


fig. 37  
第1号住居 平面図・断面図

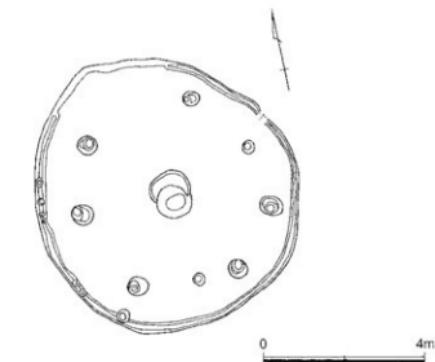


fig. 38  
第2号住居 平面図

**堅穴住居** 弥生時代中期の堅穴住居は、小型で円形の住居を拡張したもので、廃絶前後とも火を受けた痕跡があった。先立つ住居（S J 2）は6本柱で中央に炉跡をもち、壁溝はほぼ全周していた。出土遺物は、弥生時代中期に属する少量の土器片に限られた。拡張後の住居跡（S J 1）はやや歪んだ楕円形で、7本柱、先立つ住居の炉跡を継承したため、炉跡は中央より西によっていた。壁溝は西側に認められた。出土遺物は火を受けた時点で床面付近にあつた完形土器と覆上中に一定のまとまりをもって遺留された土器片・石器類に分けられる。リットル入りコンテナに15箱程度の遺物が出土した。不明鉄製品2点も含まれている。



fig. 39 第1住居遺物出土状況



fig. 40 第1・第2号住居

**弥生中期の溝跡** 弥生時代中期の溝跡には、調査範囲北西端を南北にしるもの（SD 1）と、調査範囲中央やや西を南北にしるもの（SD 5）があった。流水の痕跡はなかった。性格は不明である。少量の土器片が得られた。

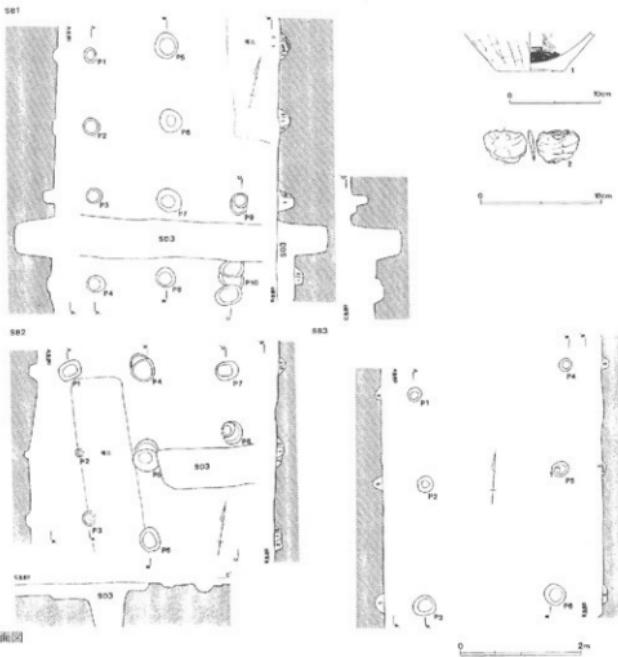


fig. 41  
掘立柱建物 平面図・断面図  
及び出土遺物

**平安時代の溝跡** 平安時代の溝跡（SD3）は調査範囲西側中央やや北側でみつかった。検出できたのは底部付近の一部のみで全容は削平のため不明である。少量の土器片が得られた。

**掘立柱建物跡** 時期不明の掘立柱建物跡（SB1・2・3）は、調査範囲西側でみつかった。2間×3間、もしくは2間×2間、1間×2間で柱間は1.3m程度であった。

**ピット群** 時期不明のピット群は30基からなる。ほぼ南北に通る1列以外には明確な配列を確認することはできなかった。杭列・構列・解等をともなう柱列と考えられる。

他に時期不明の土坑3基がみつかったが、性格は不明である。出土遺物はなかった。

**近世の溝跡** なお、近世から近代に属する溝跡（SD3）は、上層が削平されていたため、第2遭構面で検出されたものである。方位に沿ったもので断面長方形の整った溝であった。調査範囲西側でとまっており、水流の痕跡はなかった。少量の磁器片が得られた。性格は不明である。なお、遺物の総出土量は28リットル入りコンテナで30箱分である。

**3.まとめ** 今回の調査では、本山遺跡ではじめて明確な住居跡を確認した。拡張前後とも廃絶にあたって火を受けていることから、住居の廃絶にともなう問題提起となろう。廃絶後の住居跡に遺留された遺物は単位をなしており、検討を要するだろう。遺物の一括性には問題があるが、本山遺跡の調査の進展にともなって、集落内での行動パターン復元に意義ある成果が得られたといえる。

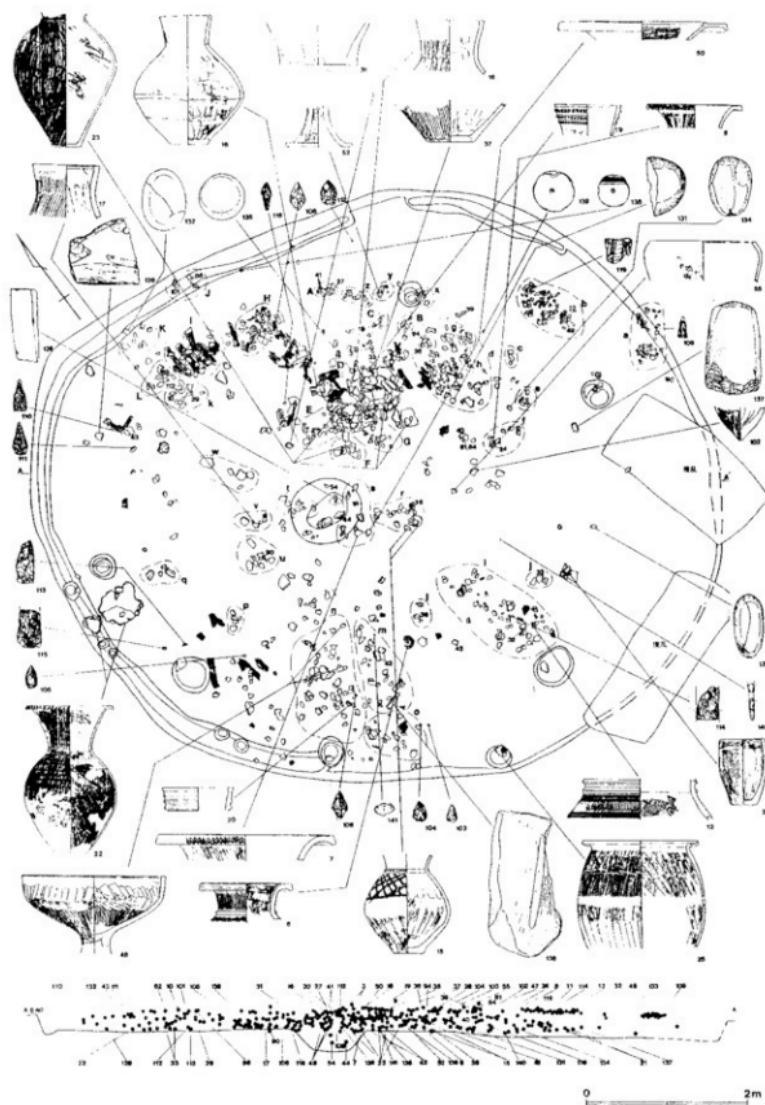


fig.42 第1号住居遺物出土状況

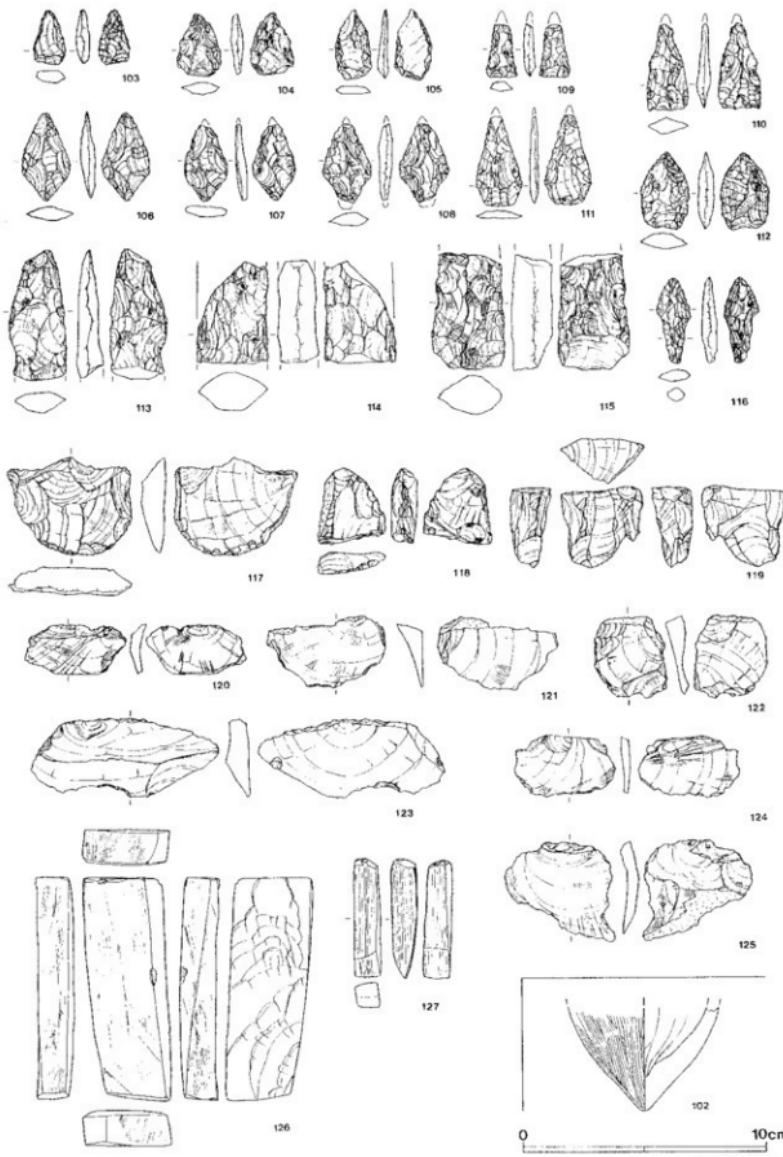


fig.43 第1号住居遺物実測図

## 5. 本山遺跡 第23次調査

## 1. はじめに

今回の調査地は、周知の本山遺跡の最北端に位置し、六甲山南麓の金鳥山から派生した丘陵の裾部にある南東方向の緩斜面地であり、標高約22mを測る。調査は、共同住宅建設に伴うもので、工事影響部分約280m<sup>2</sup>について調査を実施した。



fig. 44  
調查地位置圖  
1:2,500

## 2. 調査の概要

基本層序は、盛土・耕上・旧耕上層・中世の遺物を含む暗灰色砂質土層・繩紋時代中期・晩期の土器を含む黒灰色～黒褐色礫混じりシルト層・そして繩紋時代の遺構面である茶褐色礫混じり砂質土層となる。両側は擾乱が著しく、ほとんど遺構が存在しなかった。

第1课时

調査区北側の黄茶褐色礫混じり砂質土層面で古墳時代の流路、また東側では近世の溝、調査区中央部の第2邊構面の遺物包含層となる黒灰色～黒褐色礫混じりシルト層面で詳細時期は不明であるが、土坑、溝が検出されている。

S X01 調査区東側で検出された南北方向に流れる溝である。溝の東側の肩が調査区外になるため全体規模については判らないが、検出幅約4m、最深部80cmを測る。出土遺物は、古墳時代後期の須恵器、中世の須恵器・土器類、近世の陶磁器が出土している。

S X02 調査区北側で検出された土石流路である。幅60cm、深さ30cmを測り、北西から南東方向に流れ、S X01によって切られている。遺物は、人頭大の石に混じって古墳時代後期の須恵器・土師器が多量に出土した。

S K03 椰柵区中央部で検出された長さ80cm、幅55cm、深さ5cmを測る浅い窪み状の椿円形の土坑である。遺物は出土していない。

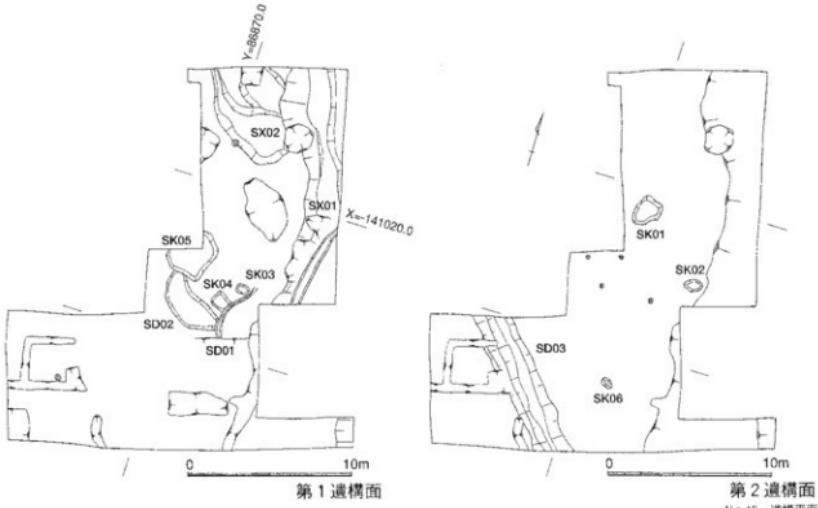
S K04 S D01に切られ検出された検出長さ 1 m、幅 1 m、深さ 15 cm を測る方形の土坑である。

S K05 調査区中央部で検出された長さ3m、幅2.5m、深さ10cm測る比較的浅い不定形の窪み状遺構である。遺物は出土していない。

- 第2遺構面** 繩紋時代中期・後期の土器を含む黒灰～黒褐色疊混じりシルト層の遺物包含層の下層が茶褐色疊混じり砂質土層の第2遺構面となる。調査区北側は、遺物包含層は後世の削平を受け、中世の遺物を含む暗灰色砂質土層の下層で遺構面となった。
- S K01** 調査区北側で検出された長さ1.6m、幅1.5m、深さ20cmを測る不定形の土坑である。遺構内の埋土は粘質の黒褐色シルト層で、出土遺物は、繩紋土器が出上している。
- S K02** 調査区中央部で検出された長さ1.1m、幅75cm、深さ10cmを測る楕円形の土坑である。出土遺物は、数点の繩紋土器とサスカイト片が一点が出土している。
- S K06** 調査区南側で検出された長さ70cm、幅50cm、深さ15cmを測る楕円形の土坑である。出土遺物は、数点の繩紋土器が出上している。
- S D03** 調査区の南西部で検出された溝である。幅約2.3m、深さ50cmを測り、北西から南東方向に流れている。溝の上層の黒褐色シルト層からは繩紋時代中期の土器が出上している。
- ピット** 4基検出されたが、いずれも径20～30cm、深さ10cmを測るが出土遺物はなく、建物としてもまとまらない。

**3.まとめ** 当調査区南側で行われた平成5年度の調査では、弥生時代中期後半の掘立柱建物3棟、弥生時代中期以前の竪穴住居址1棟が確認されていることからこの時期に属する遺構が確認されると考えられたが、同時期の遺構は多く中世の遺物に混じって少量の弥生土器が出土したのみであった。

しかし、この調査では出土していなかった繩紋時代中期（船元II式）の土器と晩期（突帯紋期）の土器が出土し、これらの土器に混じって石鐵十数点・サスカイト片が出土している。これらの遺物からこの付近にその時代の集落の存在が想定される。今後、この地域を考える上で重要な資料になると思われる。



## もとやま 6. 本山遺跡 第24次調査

## 1. はじめに

本山遺跡は六甲山南麓の緩斜面地に位置する遺跡である。周辺には比較的大きな河川は存在しないが、水源から河口まで数km程度の小河川は六甲山南麓には数多く存在し、本遺跡もそれらの複合扇状地上に立地している。現在までに23回の発掘調査が実施された。とりわけ第12次調査では弥生時代中期の集落周辺の低湿地から、銅鐸や祭器と推定される石器類が出土したことが注目されている。

今回、当該地に震災復興による個人住宅の建築計画された。折しも今年度、北側（第20次調査）と西側（第21次調査）両隣接地では同じく震災復興に関わる発掘調査が実施されていたが、その調査成果から建築計画では弥生時代の遺構面を損壊することが明らかであった。したがって工事によって埋蔵文化財が影響を受ける範囲について、発掘調査を実施することとなった。調査区は敷地周囲を除くほぼ全城で、東西約4m、南北約11mの範囲である。調査地点の標高はおよそ7mである。



## 2. 調査の概要

## 層 序

近現代の整地土・擾乱の下で黒茶色砂礫混じりシルトの遺物包含層を確認した。遺物の大半が弥生土器であるが、わずかに古墳時代の須恵器を含んでいた。包含層の下で弥生時代中期の流路と、弥生時代前期の溝を各1条検出し、さらにその下層は地山と続く。地山は場所によって淡青灰色砂礫、黒色砂礫混じりシルト、淡緑青色シルト、暗灰色砂礫と変化する。黒色砂礫混じりシルトは有機物を多量に含むが、遺物は全く含まれていなかった。

## 流 路

北東部分を除き、調査区のほぼ全域を占める流路である。流路の肩の線は北西から南東へと続くが、流路は調査区外西側へ続いており、長さ、幅ともに今回の調査区のみでは計測できない。深さは最も深い部分で約80cmである。底面には起伏があり、調査区の中央が浅く、南・東・西の三方へ傾斜する。埋土は上から暗茶褐色疊混じり砂質土、灰黒色砂混じりシルト、暗茶褐色砂疊、暗茶褐色シルト混じり砂疊と続くが、東側の肩の付近には、隣接する弥生時代前期の溝を浸蝕して堆積した黒茶色砂質土、茶黒色疊混じりシルトがあった。遺物は大量の弥生時代中期の上器の他、石鎚、石錐、不定形刃器等の石器とサヌカイトの剥片が出土した。北側隣接地で実施した第20次調査で検出された「流路1」の続きの部分である。(本文24・25頁参照)

## 溝

調査区の北東部分で検出した、北西から南東へと流れる溝である。南側は弥生時代中期の流路で削られていたが、溝自身は調査区外東側へ続いており、長さ、幅ともに今回の調査区のみでは計測できない。深さは最も深い部分で約20cmである。

埋土は上から茶黒色疊混じりシルト、黒色シルト、灰黒色シルト混じり砂疊と続く。遺物は弥生時代前期と思われる上器の他、石鎚、石剣、石斧等の石器とサヌカイトの剥片が出土した。これも北側隣接地の第20次調査の、「溝S D07」の続きの部分である。

## 3.まとめ

今回の発掘調査では遺構の分布上、流路と溝を各1条検出したに過ぎない。しかし、周囲の調査では各種の遺構を確認し、遺物も多量に出土しているため、調査地点周辺が本山遺跡の中心地であることは明白である。

現在までの調査で、国道2号線の直下に縄文海進時に形成された海蝕崖が埋没していることが推定されている。

海蝕崖の北側は弥生時代以降の土の堆積が少なく、今回も地表面下約30cmで弥生時代の遺構面となっている。後世の耕作や開発等により遺跡の遺存状態が概して悪いが、今後近隣で土木工事等が計画される場合、地表面のすぐ下で遺構・遺物が確認される状況を想定しておく必要がある。

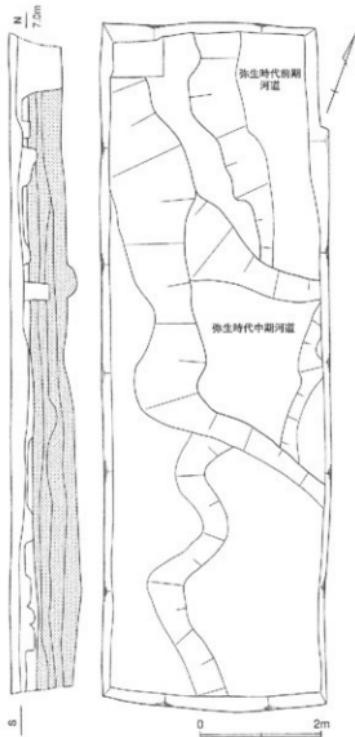


Fig.47 調査区平面図・断面図  
(トーンは河道埋土)

## もとやま 7. 本山遺跡 第25次調査

### 1. はじめに

本山遺跡は神戸市東部、六甲山南麓の平野部に位置する。東の芦屋川、西の住吉川に挟まれる複合扇状地で、当地には水源から河口まで約2kmの小河川要玄寺川が流れる。

この遺跡は昭和57年に市街地の再開発にともなってはじめて確認され、これまで24次にわたる調査が行われた。調査の結果、純文時代の土器、弥生時代中期の集落、中世の集落・耕作地などが確認されている。



fig. 48  
調査地位置図  
1:2,500

### 2. 調査の概要

今回は、個人住宅建設に伴う発掘調査で、工事影響範囲約30m<sup>2</sup>について実施した。調査は、計画建物の基礎予定部分に2本のトレンチを設定した。

#### 層序

現表土・旧表土（1層・2層）の下層、3層（黒色砂質粘土）上面で径2～5cmの不整円形の足跡状の痕跡が多数確認された。断ち割りによってその断面を観察したところ、貝等の生痕であることが確認された。

3a層の最上位には弥生土器・土師器・須恵器が含まれるが、それ以下には全く遺物が含まれない。遺構は3b層上面にて検出した。

3c層は黄褐色の砂質シルトであり、それ以下は砂と砂質シルトあるいは砂質粘土の互層となる。

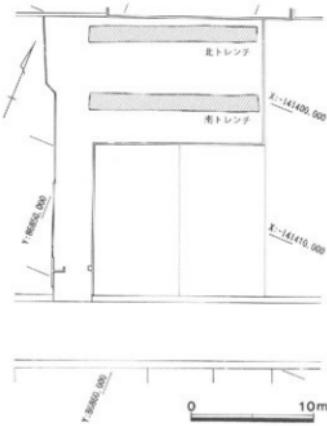


fig. 49 調査区位置図

## 遺構

第1トレンチで柱穴10基（S P01～10）、第2トレンチで柱穴13基（S P11～23）・溝状遺構1条（S D01）が検出された。S P02・S P06・S P14・S P23から土師器・須恵器が出土している。S D01からの遺物の出土はなかった。

## 3.まとめ

本山遺跡の範囲内には縄文時代の海進時に形成された波蝕崖が埋没しており、これが現在の国道2号線とほぼ重なっている。この波蝕崖の北は遺跡の基盤層が固い大阪層群であるが、その南は六甲山系から供給された風化した花崗岩起源の砂が基盤層となっている。そして北では土の堆積が多く、後世の土地利用等により遺跡の遺存状況が概して悪いのに対して、南では後の土の堆積が多く、遺跡が良好な状態で遺存している。

当遺跡は波蝕崖よりも北に位置し、遺物包含層の遺存状況が悪く、遺物包含層は水田耕土である2層直下にごくわずかに残されていたにすぎない。水田造成にともない、遺物包含層のほとんどはカットされたと考えられる。そのため今回の調査で出土した遺物は少量であったが3a層から中世の須恵器・土師器および弥生土器が出土しており、從前から本山遺跡において確認されているこれら時期の遺跡範囲がこの地点にまでひろがっていることを検証できた。

柱穴については調査面積の狭さもあり、建物としてのまとまりを確認できるものはなかった。ただし、S P09・S P10は同一の掘立柱建物の一部である可能性がある。

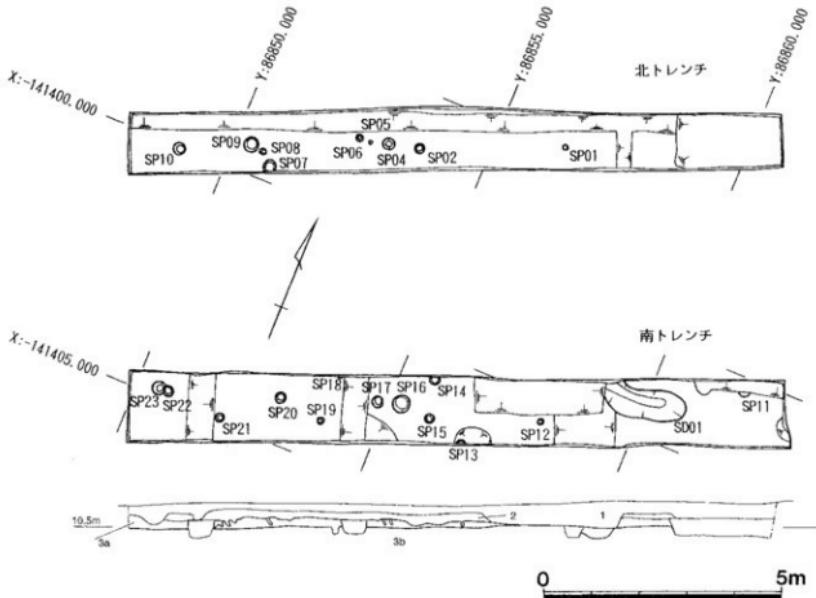


Fig. 50 遺構面平面図・断面図

## 1. はじめに

芦原川と住吉川に挟まれた複合扇状地に立地する本山遺跡は、これまで20数次にわたる調査が行われ、弥生時代中期の集落・中世の集落などが確認されている。特に、第12次調査において弥生時代中期の集落縁辺の湿地と推測される地点で、銅鋒や祭器と推定される石器類の出土したことが注目される。

今回は、住宅建築工事で埋蔵文化財に影響を及ぼす基礎部分について、工事影響深度まで調査を行った。

fig. 51  
調査地位図  
1:2,500



## 2. 調査の概要

調査は、設計建物の基礎予定部分にトレチを配置した。記録作業や土器取り上げ等の便宜上、調査区をそれぞれ1~5トレチと呼称する。

調査地の基本土層は、上層から盛土・旧耕土・旧床土・黒褐色粘性砂質土（遺物包含層）・褐灰色砂質土（地山）である。

## 1 トレチ

北側の東西方向のトレチである。西側は埋設管のため搅乱されており、遺物包含層は部分的にしか存在しなかった。中央部分では地山は礫層となる。

東端で土坑を1基検出した。90cm以上×80cm以上、深さは約24cmであるが、ほとんどが調査区外のため、正確な規模は不明である。土師器小皿片や陶器片などの中世遺物が出土した。

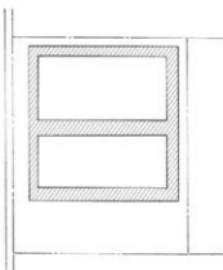


fig. 52 調査区位置図 1:300

- 2 レンチ** 中央の東西方向のレンチである。遺物包含層が薄く存在するが、遺構は全く確認できなかった。このレンチでも、中央部分の地山は礫層である。
- 3 レンチ** 南側の東西方向のレンチである。4・5 レンチで確認した段差の下段部にあたる。上部はほとんどが搅乱・盛土で、下端は旧耕土と思われる灰色粘性砂質土である。工事影響深度の関係上、この層の途中で掘削は終了している。一部で下層の状況を確認したが、次の上層で褐灰色砂質土を検出しており、遺物包含層は存在しなかった。
- 4 レンチ** 西側の南北方向のレンチである。中央で東西方向の溝を検出した。幅は35cm、深さ14cmで、埋土は黒褐色粘性砂質土である。遺物は出土しなかった。レンチの南端で近世以降の段差を確認した。耕作地造成に関連すると思われる石組が存在する。
- 5 レンチ** 東側の南北方向のレンチである。比較的良好な遺物包含層が存在した。中央部分の地山は礫層である。南端では、4 レンチと同様、段差と石組を確認した。
- 3.まとめ** 本山跡のこれまでの調査結果と同様、国道2号線より北に位置する当調査地では、遺物包含層の遺存状況が良好でなかった。特に調査区南側は、近世以降の耕作地造成に伴う段差が認められ、遺物包含層と遺構面がカットされている状況であった。
- 遺物は、遺構・遺物包含層および盛土から、上師器小皿・須恵器鉢・瓦器・陶器などが出土している。また、サヌカイト製石錠・サヌカイト片・弥生上器なども、中世遺物に混入した状況で出土している。

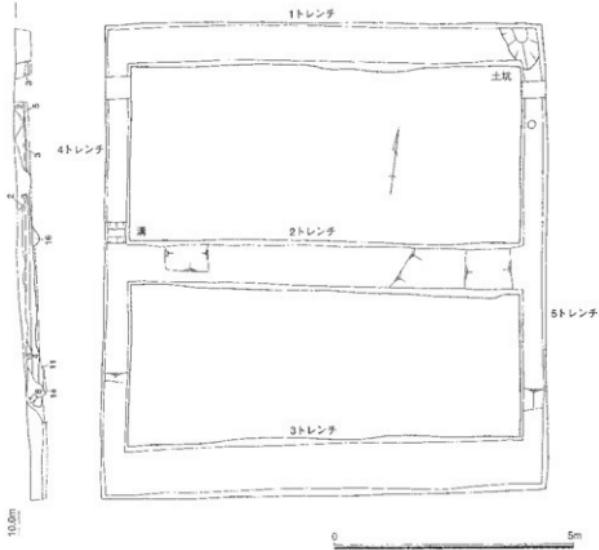


fig.53 調査区平面図・断面図

うおざきなかまち  
9. 魚崎中町遺跡 第3次調査

## 1. はじめに

阪神・淡路大震災によって当該地の家屋が倒壊したため住宅の再建が必要となり、共同住宅新築が計画された。計画は周知の埋蔵文化財包蔵地である魚崎中町遺跡の範囲内にあることから、平成8年4月11日に試掘調査を実施した。試掘調査では歴史時代の遺物を含む包含層、弥生時代末から古墳時代初頭の遺物を含む包含層および溝状遺構が確認され、遺跡が存在することが明らかになった。この結果に基づき、共同住宅建設によって破壊される部分に限り発掘調査を行うことになった。



## 位置と環境

東灘区周辺の地形は北から、六甲山の連なる山地・丘陵地、河岸段丘面、網文海進以後に形成された平野部の3つに大別できる。魚崎中町遺跡は住吉川左岸の扇状地末端付近にあたる平野部に立地する。調査地区的標高は現況で2.5~2.8mである。

東灘区周辺の六甲山南麓には弥生時代中期から後期に至る高地性集落や段丘上の集落が多く存在しているが、遺跡の大半は現在の国道2号線の北側に密集している。魚崎中町遺跡周辺には、地形的な制約から砂堆上の集落等のほか、後背湿地に広がる水田跡の存在が推定された。すでに2次にわたる調査が行われており、平成2年度の第2次調査で中世に属する掘立柱建物1棟が検出されている。

## 2. 調査の概要

調査範囲は南側が阪神・淡路大震災によって倒壊した建物・駐車場の基礎、および盛土・産業廃棄物の投棄によって激しく攪乱されていた。遺構はこれらの攪乱によって相当部分が破壊されていると予測されたが、攪乱層下の近世あるいは近代の水田層、および平安時代から中世にかけての層厚80cm程度の洪水砂によってよく保存されていた。

遺構面は、表土下50cm程度のV層上面に平安時代の第1遺構面、表土下60cmのVI層上面に古墳時代末から奈良時代前半の第2遺構面、表土下70cm程度のⅦ層上面に弥生時代末から古墳時代初頭の第3遺構面が検出された。

### 第1遺構面

第1遺構面では、現在の地割り方向に沿った耕作痕が検出できた。鋤による痕跡と考えられるが、水田耕作にともなうものであるか、畑作にともなうものであるかについては明確ではない。若干の須恵器片と土師器片のほか、帶金具（丸柄裏金具）・古錢等が検出された。

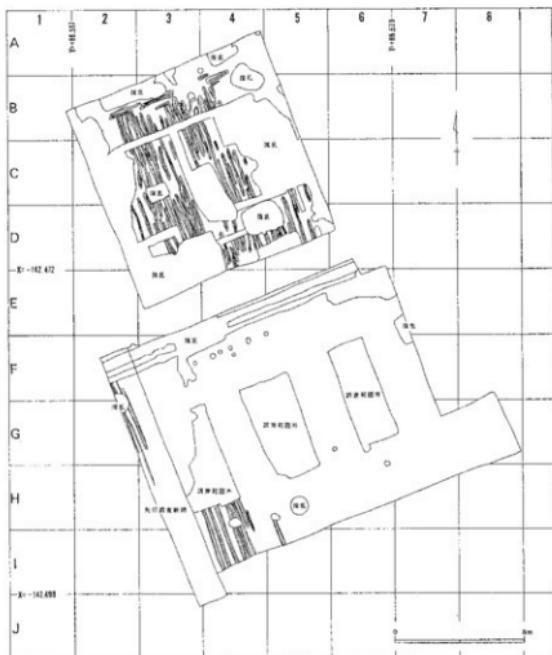


fig.55 第1遺構面 平面図

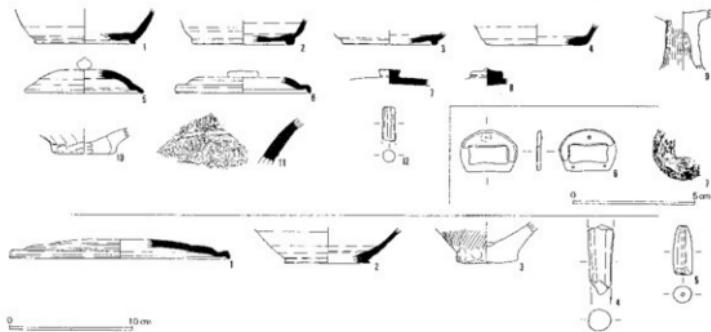


fig.56 出土遺物実測図（上段1～12：水田跡 中・下段1～7：その他）

**第2遺構面** 第2遺構面以下は、Ⅲ層洪水以前の旧地形に沿った遺構配置が認められた。標高は調査範囲北西がもっとも高く2.3m付近に位置し、もっとも低い南東側では2.1m程度で、約20cmの高低差があった。第2遺構面を形成する土壤は、西側では主に細砂から中砂であったが、東側および南側では粘性の高いシルト質粗砂であった。

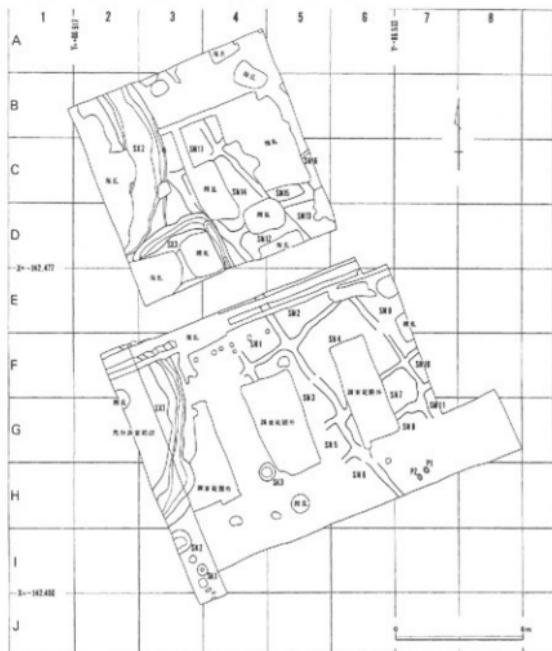


fig.57 第2・3遺構面 平面図

**水田跡** 落ち込み部分上面にはシルト質粗砂が均一に堆積しており、この層を耕作土とする水田が営まれていた。

検出された水田は、規模のわかるもので17筆であった。砂堆積にも畔群が続いており、水田域が広がるのは確実である。

水田面からは古墳時代末から奈良時代にあたる須恵器・土師器が少量出土した。

遺構の時期は、層位的な状況からみて、出土遺物の年代と大きな差はないと思われる。



fig.58 南側部分水田

**第3遺構面** 第3遺構面は、弥生時代末から古墳時代初頭の遺物包含層を上面に含む細砂質シルト上に確認できた。標高は北西側で第2遺構面とはほぼ同じ2.3mであったが、南東側では1.9mであった。検出できた遺構は、円形周溝墓とみられる溝跡2条と、方形周溝墓1基、壺棺2基を含む土坑3基、ピット3基である。

**周溝墓** 円形周溝墓の規模は周溝内径で約14m、方形周溝墓の規模は方台部一辺約4m程度であった。出土遺物は、円形周溝墓とみられる溝跡から破砕した土師器片が得られた。第1・2号周溝墓は、出土土器からみて庄内期の所産と思われる。第3号周溝墓からは庄内期から布留式期にあたる壺形土器口縁部などが出土した。



fig.59 第1号周溝墓

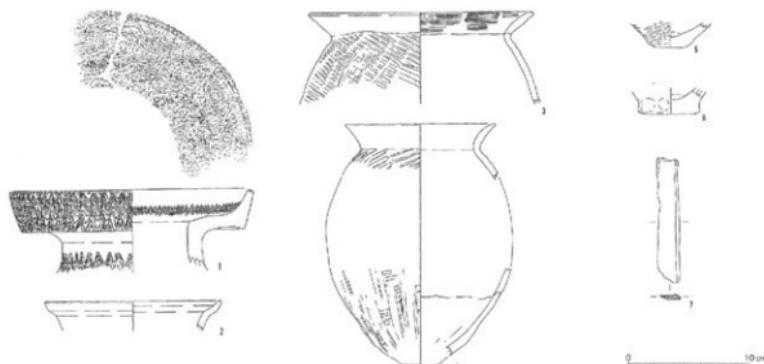


fig.60 第1号周溝墓 出土遺物実測図



fig.61 第3号墳表面全景（右端が第2号周溝墓、手前が第3号周溝墓）



fig.62 第3号周溝墓

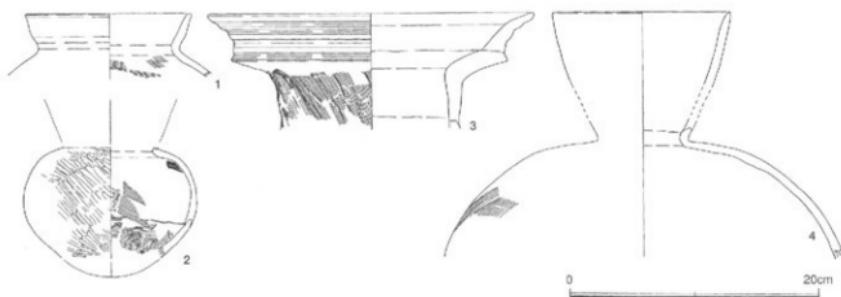


fig.63 第2・3号周溝出土物実測図（1・2：第2号周溝墓 3・4：第3号周溝墓）

**壺 棺** 壺棺を出土した土坑は2基あるが、比較的遺存状態がよい第3号土坑からは、庄内期の範疇に入る複合口縁をもつ大形の壺形土器が得られた。

第3遺構面下の上層は一部に粘土層を挟み、また色調に変化があるものの、一般に均質できわめて淘汰のよい砂層が約2.0m以上まで続く。表土下2.2m程度では砂層中から流木を検出することができた。下層には泥炭層の存在が予測でき、文化層が存在する可能性は認められないため、第3遺構面をもって調査を終了した。出土した遺物は28リットル入りコンテナで7箱分であった。

### 3.まとめ

今回の調査では、後背湿地を中心に經營されたと考えられてきた水田城が、奈良時代以後、砂堆上にも展開していたことを示す成果が得られた。また、畿内でも周溝墓が多いことで知られる東灘区に一例を加えることになった。周囲には土器棺墓がみられ、周辺遺跡の特徴と一致するが、同一群内に方形周溝墓が存在する例はこれまでになく、注目すべき事例となった。

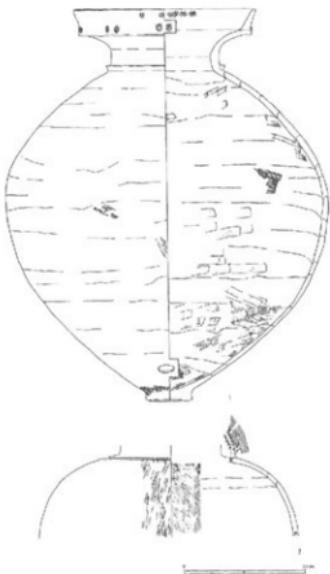


fig.64 第3号土坑出土遺物実測図



fig.65 第3号土坑発掘状況



fig.66 第3号土坑発掘状況

## うおざきなかまち 10. 魚崎中町遺跡 第4次調査

### 1. はじめに

魚崎中町遺跡では、これまでに3次にわたる発掘調査が実施されている。11世紀代の掘立柱建物が検出された第2次調査や、弥生時代終末期から古墳時代初頭の円形周溝墓や方形周溝墓、壺棺墓が検出された第3次調査は、いずれも魚崎中町内で実施されており、魚崎北町においては今回が初めての調査となる。

今回は共同住宅建設に伴うもので、工事影響範囲について発掘調査を実施した。当調査地は、昭和63年度に試掘調査を実施しており、現地表下75cm～120cmにおいて中世の遺物包含層が検出されている。



### 2. 調査の概要

調査区を半分ずつ2回に分けて実施することとし、東半部より調査を開始した。東半部は建設する建物の柱及び梁部分の限られた部分について調査を実施した。

#### 東半部

東半部は特に盛土が厚く、東端部では1mを測る。また、搅乱部分も多く存在した。盛土の下層には、洪水砂や旧耕土・床土層の間層をはさみ、現地表下約1.4mより標高の低いところで検出した淡褐色～暗灰色細砂層、黒灰細砂混じりシルト～粘土層、黒色シルト～粘土層から中世の上器、木製品が少量出土している。



fig. 68 調査区東半部断面図

なお、建設建物の影響深度を考慮し、東西方向の3本の調査区（北トレンチ・中央トレンチ・南トレンチと呼称）については遺物包含層の下層の明灰色中砂層上面まで掘削・調査し、南北方向の調査区については黒灰細砂混じりシルト～粘土層上面まで調査を終了している。自然地形の落ちを部分的に検出したが、他に明確な遺構は検出されなかった。

東半部で出土した遺物は少量で出土土層も洪水等による自然堆積土層と考えられる。また、遺構も検出されず、調査開始当初に想定した埋蔵文化財の拡がりについても確認されなかった。以上の状況を考慮し、西半部については調査範囲を縮小して調査を実施した。

**西半部** 西半部は、北トレンチ（幅約3.2m）、南トレンチ（幅2.8m）のトレンチを設定して調査を実施した。基本層序は東半部とほぼ同一であるが、盛土については西に行くに従って薄くなっている。溝状や土坑状の窪みなどを検出したが、内部よりの出土遺物はなく、上層の堆積時に削られた際に生じた自然地形と考えられる。なお、西半部については影響深度に到達していなかったため、北トレンチ内で部分的に断ち割りを行ったが砂層及び砂礫層が厚く堆積しており、埋蔵文化財も検出されなかった。

### 3. まとめ

今回の発掘調査及びこれまでの試掘調査の結果から判断すると、遺跡の中心地は魚崎中町あたりにあり、魚崎北町までは延びないものと考えられる。

魚崎中町遺跡は、住吉川左岸の扇状地末端付近の平野部に位置するが、その中心は南側の砂堆上（魚崎中町1丁目・2丁目周辺）に存在するものと考えられ、これまでの調査において、中世及び弥生時代終末期から古墳時代初頭の集落が確認されている。砂堆の周辺部には、湿地及び旧河川の氾濫原が広がっていたものと考えられる。

第3次調査地では、奈良時代以降に砂堆周辺部の湿地を利用し水田が営まれていたが、当調査地においてはその痕跡は認められず、旧河川の氾濫原と考えられる自然堆積層を検出したに過ぎなかった。

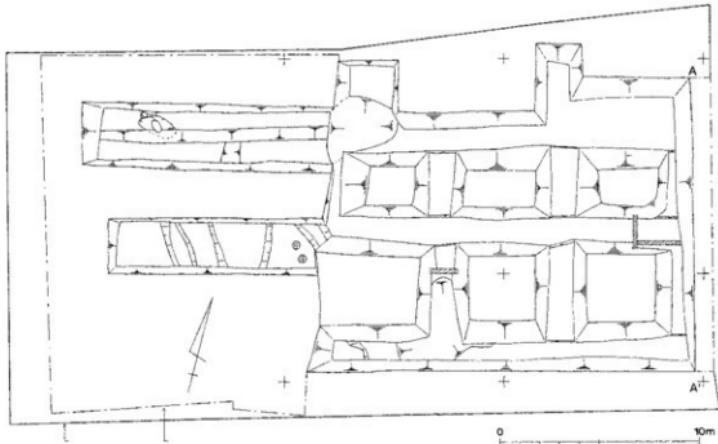


fig.69 調査区平面図

## 11. 井戸田遺跡 第2次調査

### 1. はじめに

井戸田遺跡は神戸市の東部、六甲山南麓にひろがる扇状地の末端部に位置し、過去の調査から、弥生時代から中世の複合遺跡であることが明らかになっている。今回は、震災によって被害を受けた市立本山第三小学校の校舎建替工事に伴う発掘調査である。



fig. 70  
調査地位図図  
1:2,500

### 2. 調査の概要

遺構面は4面確認されたが、時期的には第1遺構面～第3遺構面まではほとんど差がみられず、いずれも弥生時代後期後半に比定される。第4遺構面については不明である。

#### 基本層序

第1遺構面を覆う洪沢砂の上層に、古墳時代の遺物包含層が調査区域のほぼ中央部に存在し、そのさらに上層に中世の遺物を含む旧耕土が存在する。

#### 第1遺構面

調査区域のほぼ中央部でのみ確認された水田面であるが、遺存が非常に悪く、稲の切株痕は確認できたが、畦畔が全く確認されなかった。

#### 第2遺構面

調査区の南東部あたりで水田畦畔の一部が確認されたが、全体的に遺存が非常に悪い。



fig. 71 第2遺構面 水田畦畔



fig. 72 第3遺構面

**第3遺構面** 自然流路と水田畦畔が確認された。水田畦畔については、調査区の南東部あたりで残存している程度で、流路や洪水砂によって削平を受けており、全体的に遺存が悪い。

自然流路は、流路1が調査区内を蛇行しながら北から南へ流れしており、検出面での規模は幅約2~3m、深さ約40~90cmを測る。流路2は水田畦畔を切るように流れているが、流路1との関係は不明である。流路5~7は、調査区西半で検出された。切り合いの状況から流路5は、流路6、7よりも新しいと考えられる。流路5は、調査区内を蛇行し、北から南へ流れている。検出面での規模は、幅約3~4m、深さ約0.7~1mを測る。

**第4遺構面** 第3遺構面の流路によって大半が削平を受けており、調査区域のほぼ中央部(流路1-aの北側あたり)でのみ遺存している遺構面である。

小規模な溝が1条と数カ所のピットが検出された程度で、遺構内からの遺物はなく、時期は不明である。

**出土遺物** 大半が第3遺構面で検出された流路1・1-a・1-b・5からの出土である。

流路の遺物は縄文時代晚期後半~弥生時代後期後半のものがあるが、弥生時代後期後半のものが多い。上器以外には、本製品や種子類などが流路1・1-aより出土している。

古墳時代の遺物包含層からは、6世紀代の遺物が中心で、中世の遺物を含む旧耕土層からは、青磁・白磁などの中国製陶磁器片の他、奈良~平安時代のものと考えられる綠釉陶器片も出土している。

**3.まとめ** 今回の調査では、弥生時代後期後半の自然流路が確認され、多くの遺物が出土した。また、遺存度が悪いが、水田面と考えられる層位面も確認され、同時期において生産領域として利用されていたことが窺える。これは近隣地域に集落が存在することを示唆するもので、今後において、井戸・田遺跡の拡がりや性格を知る上で、大きな成果であったと言える。

また、流路からは縄文時代晚期後半、弥生時代前・中期の遺物も確認されており、周辺に同時期の集落が存在する可能性が非常に高いと考えられる。

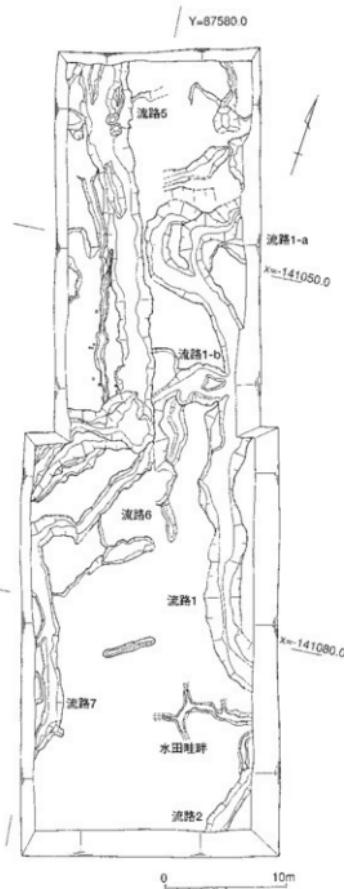


fig. 73 第3遺構面平面図

## 12. 小路大町遺跡 第2次調査

### 1. はじめに

小路大町遺跡は、六甲山の南麓、芦屋川と住吉川の中間を南流する高橋川の左岸、砂堆上に立地する遺跡で、阪神深江駅の北西500mに位置する。

昭和61年、県営住宅改築に際して、兵庫県教育委員会による本遺跡の発掘調査が実施され、その結果、砂堆を形成すると思われる海成砂層の上面およびその後に形成された後背湿地で、6世紀から18世紀にかけての水田、水路などの遺構が検出された。また、近接する北青木遺跡、深江北町遺跡、本庄町遺跡は、弥生時代前期から近世にかけての、砂堆に関連する複合遺跡である。

今回の調査地は、神戸市教育委員会が平成5年度に市営住宅建設に伴って実施した、北青木遺跡第3次調査地の北に隣接し、標高が2.4～2.5mほどで緩やかに海側に傾斜し、高橋川が南から南東に流路を屈曲させる地点に位置する。



### 2. 調査の概要

調査は、確認調査の結果に基づき、表土と昭和13年の阪神大水害の洪水層（1層）、旧耕土層（2層）を重機で掘削した後、人力により遺構、遺物の検出作業を行った。

調査地の基本層序は、旧耕土、床土の下に、近世後半の陶磁器を含むオリーブ褐色粘質土（3層）、14世紀の中国青磁や瓦器を含む暗褐色粘質土（4層）の2層の水田土壌が堆積する。



fig. 75 遺構平面図

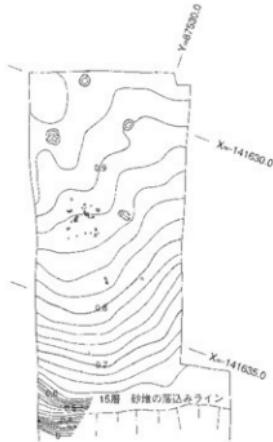


fig. 76 15層上面の地形及び縄文土器出土状況

**河川跡** その下位には調査区の南半部を東北東の方向に流れ、平安時代から中世にかけて埋没した河川跡を最終段階とする数時期に及ぶ流路・河川跡（5・6層）があり、3本のクスギ材の杭列を検出している。出土遺物には、ローリングをあまり受けていない弥生土器（II～III様式）がある。

**水田** この北側には7世紀代の須恵器を伴う暗褐色粘土（7層）の水田域が展開し、幅40cm、方向N4° - Eの畔壁を1条検出し、多数の足跡も確認された。プラント・オパール分析の結果でも、高いイネの検出個数を得ている。

さらに6世紀以降の須恵器壺蓋を含む黒色粘土（8層）、弥生土器や古墳時代前期の土師器を含む流路を検出した黒褐色粘土（9層）となる。

層中に砂層をはさみ、オリーブ褐色ないし灰白色粘土の10～14層は若干の縄文土器を含み、南側に傾斜し、河川跡最下層へ連なる。

オリーブ褐色ないし灰白色の中砂層（15層）は海成の砂堆で、標高90cm前後の15層上面で縄文時代後期末の深鉢を出土している。

**3.まとめ** 今回の調査の結果、調査地は、砂堆とこれを切る河川跡、これらを覆う洪水堆積層の様相を呈している。検出した遺構も古墳時代から中世にかけての水田や流路で、湿地を背景とした土地利用をしている。

縄文時代の遺構も砂堆上面で検出し、遺跡の中核をなす居住域が近くに存在する可能性が高く、今後の調査成果に期待したい。

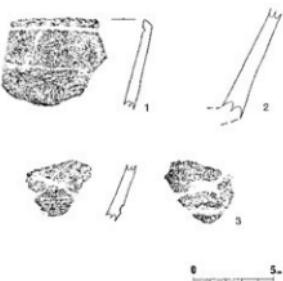


fig. 77 15層上面出土縄文土器実測図

## もりきたまち 13. 森北町遺跡 第17次調査

### 1. はじめに

森北町遺跡は、六甲山南麓の丘陵裾部と、その南側に広がる扇状地に位置する（標高約32m～16m）。当遺跡はすでに16次にわたる発掘調査と20数回にわたる試掘調査が行われ、南北約0.3km、東西約0.7kmの範囲に分布する縄文時代から近世にいたる複合遺跡として周知されている。

今回、住宅建設工事の計画により、試掘調査を行った結果、地表下約1.7mに弥生時代の遺構面（小穴を検出）が確認された。協議の結果、住宅建設に伴う工事によって遺構面に影響が生じる部分、約55m<sup>2</sup>について発掘調査を実施することになった。なお、今回の発掘調査は、震災特例措置の摘要を受けて実施した。



fig. 74  
調査地位置図  
1:2,500

### 2. 調査の概要

当調査地は、丘陵部の先端部（標高約26m）に位置しており、遺構面は北側からの流出土に厚く覆われ、調査区の大半は遺物包含層が流出していた。調査区の南端で厚さ約5cm程度の弥生土器やサヌカイト石錐及び洞片を含む遺物包含層が確認された。遺物の出土量が少なく詳細な時期は不明であるが弥生時代中期の遺物包含層の可能性がある。周辺（北側）に弥生時代中期の遺構が存在することが窺える。

検出遺構 この遺物包含層の上面で、東西に伸びる溝と考えられる遺構が1条検出された。溝の南北は、調査区外にあたり、道路及び阪急電鉄の軌道の状況からすでに削平されているものと考えられる。

検出された北半の状況から、溝の規模は、推定復原幅約3.4 m(現存幅約1.7 m)、深さ約0.8 mの断面「V」字状の溝であったと考えられる。出土遺物は、溝の中層から上層にかけて弥生時代後期から末期の土器片が14枚コンテナ1箱分程度が出土した。

この溝は、調査区の南端を全長8mにわたり検出しており、南北に伸びる尾根先端部を切断するように東西に掘削されている。現状では、調査範囲に制限があることと、周辺での調査事例が少なく、尾根縁部を巡る溝なのかは明らかではない。

また、事前の試掘調査の結果から、この溝の北側に小穴が1基確認されており、遺構は北側の緩斜面地にも抜がるものと考えられる。

### 3.まとめ

今回の調査では、調査面積も狭かったが、弥生時代後期から末期の溝が検出された。周辺の調査事例からも当時期には、中核的な集落であったことが明らかになりつつある。今回の調査においてもその一端を窺い知ることのできる資料の発見となった。



fig. 79 溝検出状況

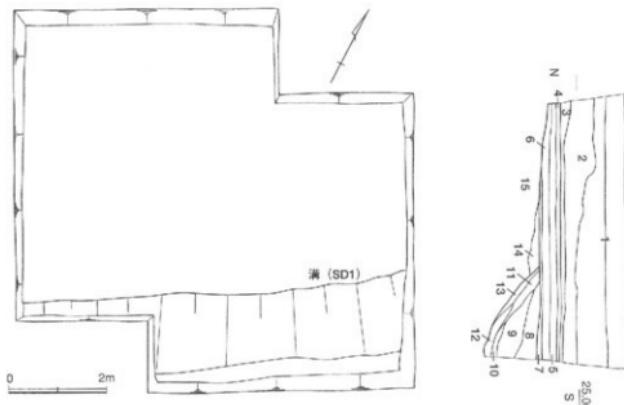


fig. 80  
調査区  
平面図・断面図

- |           |                    |               |                    |
|-----------|--------------------|---------------|--------------------|
| 1. 盛土     | 5. 暗灰色砂質土(牛世遺物包含層) | 9. 黒褐色礫歩じり砂質土 | 13. 暗褐色砂質土         |
| 2. 稲作土    | 6. 茶灰色砂質土          | 10. 暗灰褐色砂質土   | 14. 灰褐色土(サヌカイト片含む) |
| 3. 濡ぬれ灰色土 | 7. 茶褐色土(弥生時代遺物包含層) | 11. 暗褐色砂質土    | 15. 黄灰褐色土(地山)      |
| 4. 雪褐色土   | 8. 黒褐色砂質土          | 12. 暗褐色土      |                    |

## すみよしみやまち 14. 住吉宮町遺跡 第19次調査

### 1. はじめに

住吉宮町遺跡は、六甲山麓から南流する住吉川や芦屋川によって形成された標高約20mの複合扇状地末端部に立地し、弥生時代中期から近世に至る複合遺跡である。

昭和60年、共同住宅建設工事中の不時発見によって遺跡の存在が知られる所となり、現在まで18次にわたり調査が実施されている。今回の調査地点より約150m東の地点では、住吉東古墳を中心とした古墳群や、奈良時代の掘立柱建物群が発見されている。また、北側のJR住吉駅での工事にかかる調査では、多数の古墳や方形周溝墓が検出されている。

本調査は、阪神・淡路大震災からの復興に関連し、当該地において共同住宅兼店舗の建設が計画されたことに伴う埋蔵文化財発掘調査である。調査は、建設工事のため遺構が破壊される部分に限り実施した。



### 2. 調査の概要

基本層序については、現代の盛土層の下に4層の遺物包含層（地表面下1.4~1.6mまで）があり、その下には遺物、遺構の認められない層が続いている。現地表面下の4.7mより下層は、人頭大の甕を多数含む砂層となっている。遺物包含層は、上層より順に中世後期～近世、平安時代～中世前期、古墳時代中・後期、弥生時代後期のものとみられる。

今回の調査では、各時期の遺物包含層の下面において、計4面の遺構面を検出した。それぞれ第1～第4遺構面とする。

#### 第1遺構面

検出した遺構は、掘立柱建物2棟・柱穴列1条・井戸1基・石組遺構1基・土坑7基などである。遺物包含層からは、須恵器皿・壺・高壺・蓋・臺や土師器皿・羽釜・壠・陶器皿・蓋・擂り鉢などが出土している。中世後期から近世にかけてのものと考えられる。

#### 掘立柱建物

調査区中央で3間×4間のもの1棟、調査区東側で2間×1間以上のもの1棟を検出した。柱穴より出土した遺物は、いずれも細片であるため、その時期比定は困難である。遺構面の時期から、いずれも中世後期から近世末期にかけてのものと思われる。一部の柱穴には、建築時に用いたと思われる石が残っていた。

#### 柱穴列

調査区中央で、3間×4間の掘立柱建物と重なって検出した。全長は約8m、柱穴が約1.3~6m間隔で5個並ぶ。方向は東北東にとり、東側は調査区外へ続く可能性がある。

#### 井 戸

1号井戸は、長径2.59m、短径2.19mを測る掘形内に、径約1.5mの円形に石を組んだものである。石組の北側では外側より粘土で補修されていた。時期は、陶磁器を中心とする出土遺物より近世後期から近代にかけてと考えられる。

#### 石組遺構

長径1.52m、短径1.22m、深さ0.47mの隅丸長方形の掘形内に、人頭大の花崗岩を長方形に2段に組み上げている。石組の内法は、長辺0.84m、短辺0.66mであり、内壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がるよう揃えられていた。周囲にピットは認められない。埋土中より肥前系陶磁器が出土しており、時期は18世紀後半から19世紀前半と推定される。

#### 土 坑

規模、形状は様々であるが、深さ0.1~0.2m程度で、浅い。時期決定の困難なものが多いが、6号土坑からは備前鉢小片が出土しており、15世紀から16世紀のものと思われる。



fig. 82 第1遺構面 平面図



fig. 83 第1遺構面 全景



fig. 84 第1遺構面 石組遺構

## 第2遺構面

検出した遺構は、掘立柱建物1棟、柱穴列1条、土坑8基などがある。また、遺構面上に地震によると考えられる亀裂を確認した。遺物では、多数の須恵器片に混じり、土師器皿・高杯・土錘・黒色土器などが出土している。これらの出土遺物から平安時代から中世前期といった時期が考えられる。

## 掘立柱建物

規模は南北区3間×東西2間で、調査区中央付近で検出した。面積は約20m<sup>2</sup>になり、主軸の方向は東南にとる。柱穴からの出土遺物は細片がほとんどであるため、時期の決定は困難である。柱穴の形状などから平安時代のものと考えられる。

## 柱穴列

調査区の東側において、柱穴が約1.6m間隔で並び、西北西の方向へ11.8m続いている。掘立柱建物のすぐ東側に位置しており、掘立柱建物にともなう構の可能性もある。

## 土坑

土坑は長径1~2.1m、短径0.6~1.4m、深さ0.1~0.4mを測り、いずれも出土遺物は僅かである。9世紀から10世紀と思われる黒色土器A類が出土している8号土坑を始めとして、土坑内に人為的に石が据えられていることなどから、墓壙と推定されるものもある。



fig. 85 第2遺構面 平面図



fig. 86 第2遺構面 全景



fig. 87 掘立柱建物

第3遺構面 出土した遺構は、古墳3基（円墳1基・方墳2基）、溝1条、土坑1基である。

古 墳 3基の古墳はいずれについても、墳丘盛り土が後世の削平を受けていたためか、埋葬施設を確認できなかった。

1号墳 1号墳は調査区東側に位置する円墳である。南北長は6.4m、東西長は2.4m以上を測る。墳丘西側から南側にかけて最大幅1.5m、深さ0.2mの周溝がめぐる。南側周溝は3号墳の北側周溝を切っており、1号墳は3号墳より新しいと考えられる。西側周溝より5世紀末から6世紀初頭の須恵器壺身・蓋がまとまって出土した。

小石郭 1号墳墳丘内より後世に設けられたと考えられる小石郭1基が検出された。掘形の規模は長径87cm以上、短径101cm、小石郭部分の外寸は長さ55cm以上、幅73cm、高さ37cmを測る。大小の花崗岩を用いやや雜に組み合わせて造られており、蓋石及び封土はに認められなかった。小石郭・掘形内の出土遺物は少量かつ細片であり、詳細な時期は不明である。

2号墳 2号墳は調査区中央に位置し、南北長は6.4m、東西長は4.8m以上の方墳である。擾乱により損なわれている西側を除き、3方に最大幅1.7m、深さ最大0.8mの周溝がめぐる。墳丘内より鉄刀1本及び鉄鏃が多数置かれていた。



fig. 88 第3遺構面 平面図



fig. 89 第3遺構面 全景



fig. 90 2号墳 全景

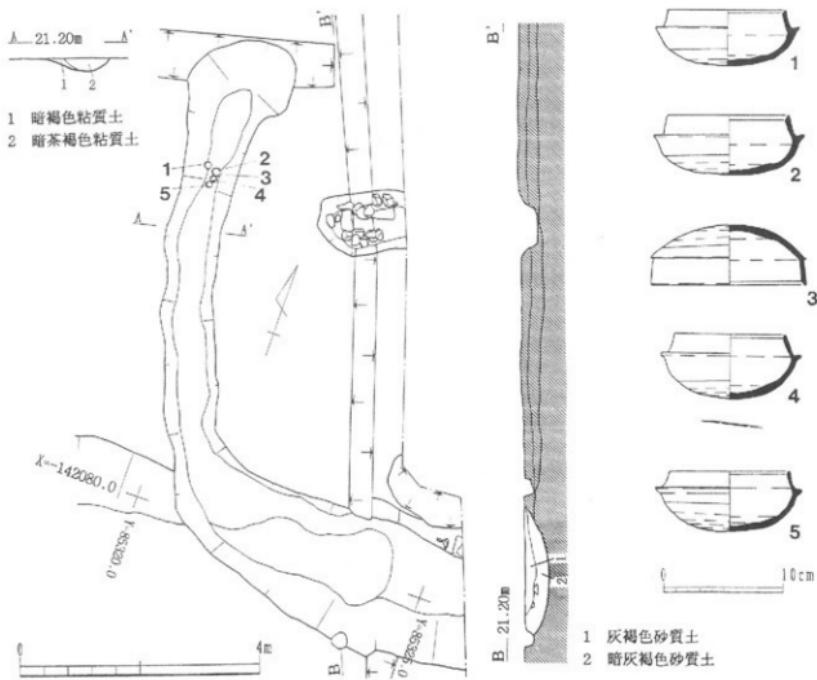


fig. 91 1号坑平面図・断面図及び出土遺物

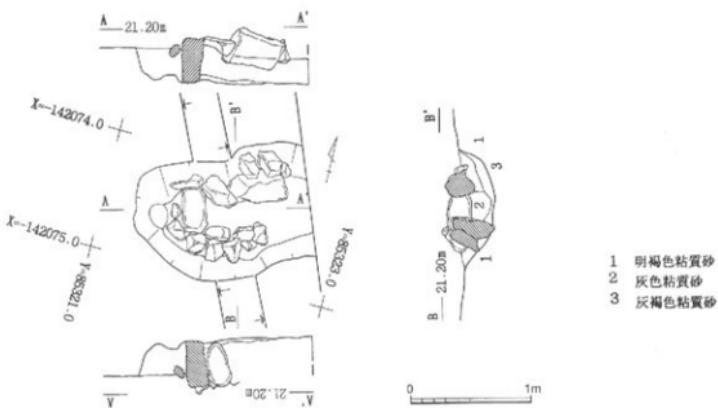


fig. 92 小石郭平面図・断面図

- 3号墳** 調査区南側に位置する方墳で、南北長は7.1m以上、東西長は10.7m以上である。墳丘北側から西側にかけて最大幅4.2m、深さ0.4mの周溝がめぐる。北側周溝より1号墳とはほぼ同時期の須恵器有蓋高壺・甕、円筒埴輪が出土した。
- 溝** 1号溝は調査区東側に位置し、全長7.0m以上、最大幅1.8m、深さ0.2mである。東北端は調査区外へ続いており、西南端は2号墳周溝により切られている。遺物は須恵器・土師器の細片が多い。
- 土 坑** 16号土坑は調査区北側に位置し、長径1.7m、短径1.1mの楕円形と推定され、深さ0.3mを測る。5世紀後半の須恵器甕が倒立した状態で出土した。



fig. 93 3号墳 北側周溝 遺物出土状況



fig. 94 3号墳 北側周溝内出土須恵器

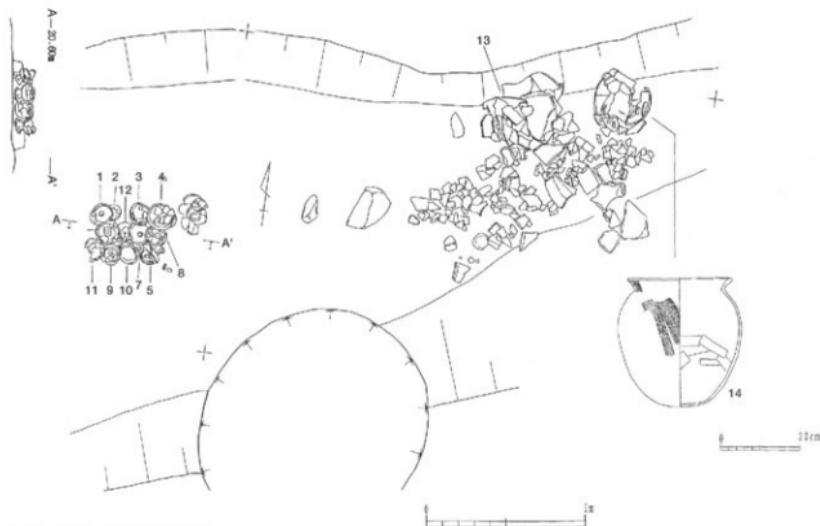


fig. 95 3号墳 周溝遺物出土状況図

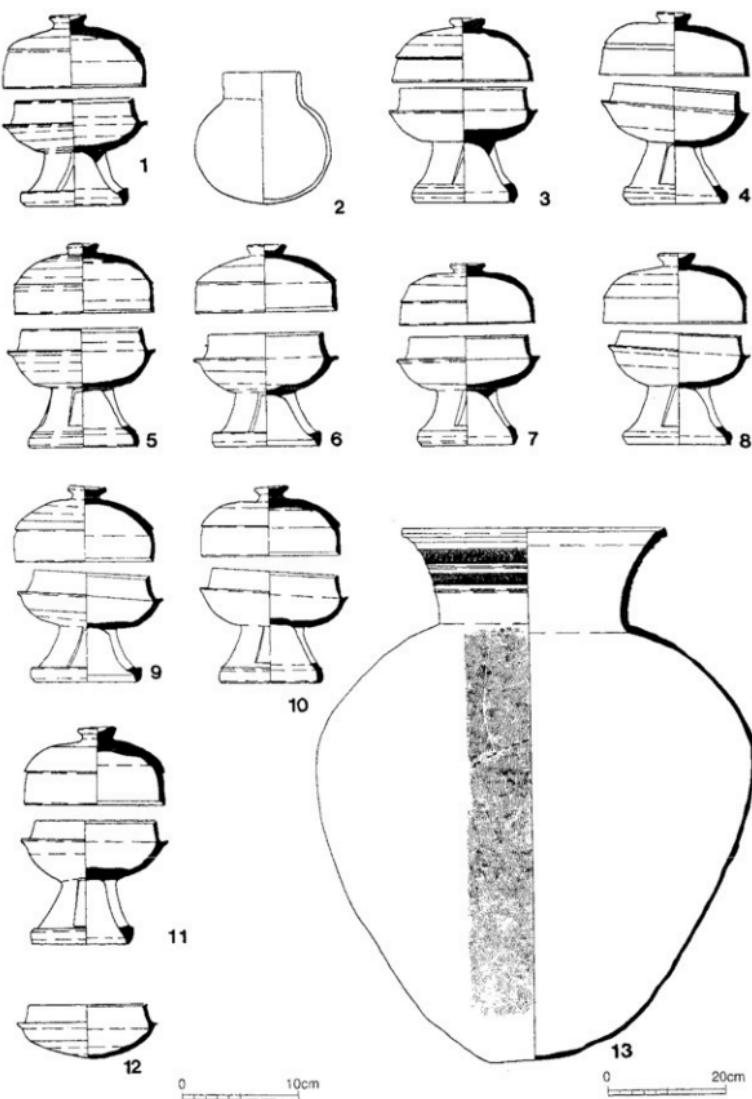


fig. 96 3号墳周溝出土遺物実測図

#### 第4遺構面

検出した遺構は溝跡1条、土坑1基である。また、弥生時代後期後半の土器集中地點が3ヶ所確認され、土器に混じって拳大の石が多数観察された。その構成は壺・鉢・高坏などであり、総量でコンテナ10箱以上になる。

#### 溝

2号溝は調査区北側に位置し、全長15.4m以上、最大幅2.8m、深さ0.4mである。南北の両端は擾乱によって切られている。堆積土中より、拳大の石に混じって弥生時代後期後半の土器が大量に出土した。

#### 土 坑

17号土坑は調査区南側に位置し、長径4.1m、短径1.7mの長楕円形を成し、深さ0.4mである。弥生時代後期の壺形土器が1個体出土した。

#### 3.まとめ

これまで当遺跡内では古墳時代後期の群集墳が多数発見されている。今次調査地点においても確認されたことにより、この時期の墓域の様相を明らかにしてゆく上で、新たな資料が得られたといえる。

また、大量に出土した弥生時代後期後半の土器の検討は、周辺の同時期の集落との関わりとあわせ、今後の課題であろう。



fig. 97 第4遺構面 平面図



fig. 98 V型溝出土状況図

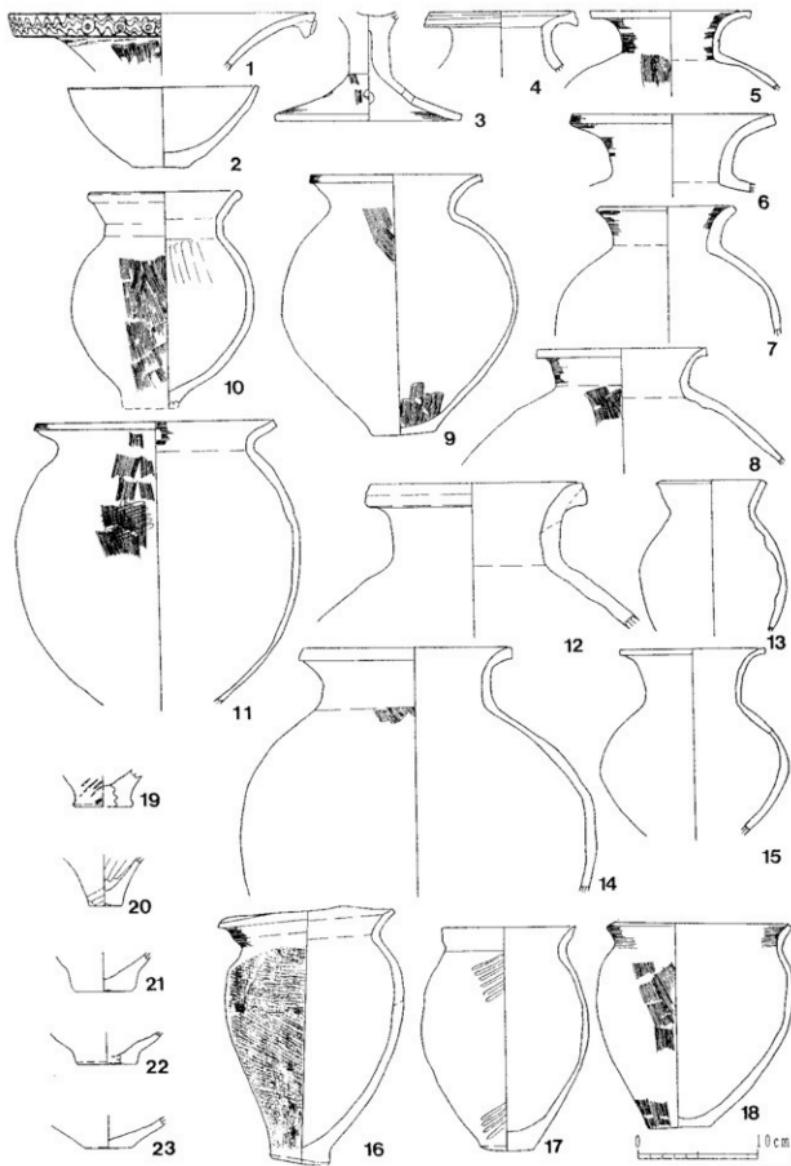


fig. 99 V層出土遺物実測図

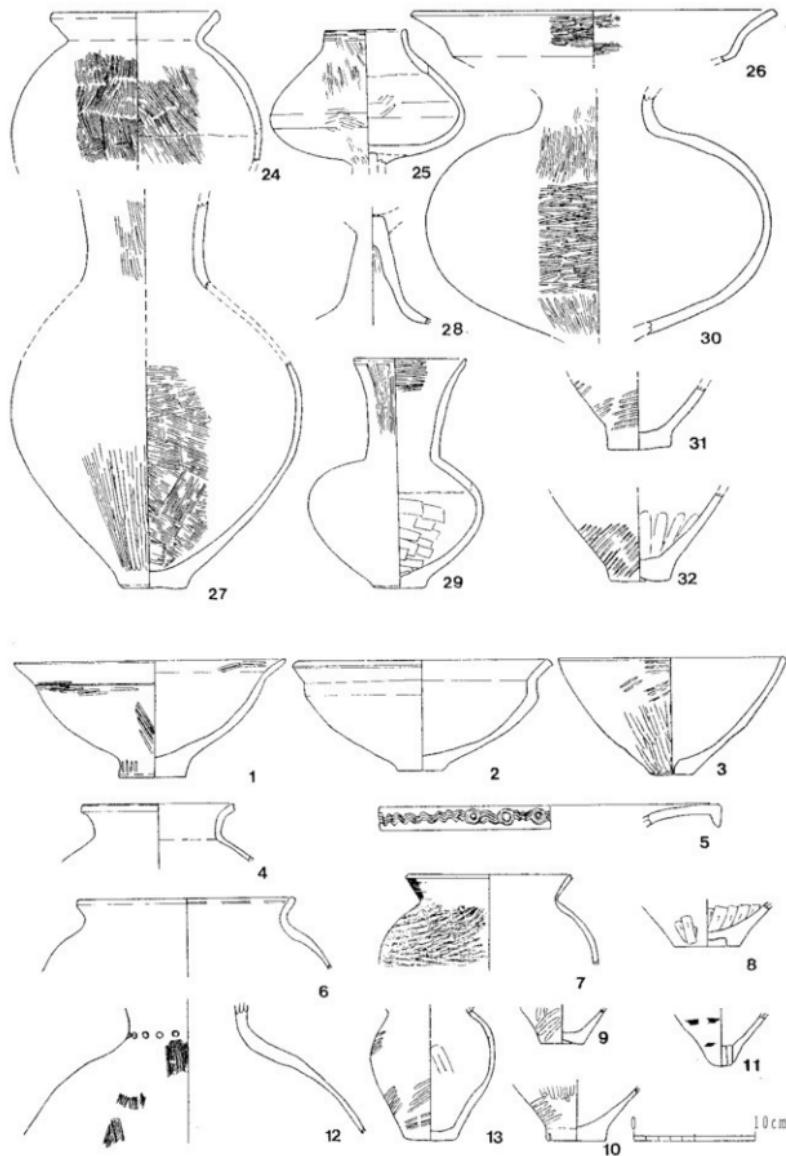


Fig. 100 V层出土遗物实测图

## すみよしみやまち 15. 住吉宮町遺跡 第20次調査

### 1. はじめに

今回の調査は阪神・淡路人震災の復興に伴う開発により、住吉宮町遺跡の範囲内において共同住宅（マンション）の建設が計画されたため、おこなわれたものである。平成8年4月12日に実施した試掘調査の結果、古墳時代等の遺構・遺物が確認されたため、共同住宅の建築予定範囲内で発掘調査をおこなった。今回の調査地は標高14～15m前後に位置し、これまでの調査地で最も南側にあたる。

住吉宮町遺跡は、住吉川と石屋川により形成された標高20m前後の扇状地に立地する。これまで19次にわたる調査がおこなわれ、弥生時代～近世の複合集落遺跡であることが判明している。中でも、古墳時代後期には、多くの堅穴住居や古墳がみつかっており、隣接する郡家遺跡とともに、古墳時代から奈良時代にかけての代表的な集落遺跡である。



### 2. 調査の概要

第1層 (fig. 102-3.5) は、近世の耕作土層及び近代以降の盛土層・表土層からなる。この地区は明治に入り、水田から宅地に変遷しており、調査区内の所々において、宅地化に伴う盛土や煉瓦作りの浄化槽さらに瓦や陶器等を廃棄した土坑等がみられた。

第2層 (fig. 102-6～9) は、黄灰色～暗灰色の砂質土層からなる中世～近世の堆積土である。一部に畦畔状の高まりが認められたが、明瞭に耕作土と判断できなかった。

第3層 (fig. 102-13～16) は、淡褐色～茶褐色の砂質土層である。鉄分およびマンガンの集積が目立つ中世～近世の耕作土層である。

第4層 (fig. 102-17～19) は、暗茶褐色～茶褐色の砂質土である。マンガンが目立つ。奈良時代～平安時代の遺物包含層である。

第5層 (fig. 102-21～25) は、黄灰色系の砂質土（粗砂）と青灰色系の砂質土の互層の堆積状況を示す。旧河道1の上層に相当する飛鳥時代～奈良時代の堆積層である。

第6層 (fig. 102-26) は、調査区のほぼ全面を覆う粗粒砂を主体とする黄灰色系の砂質土層である。遺構の切り合いの状況から6世紀末～7世紀初頭を下限とする。

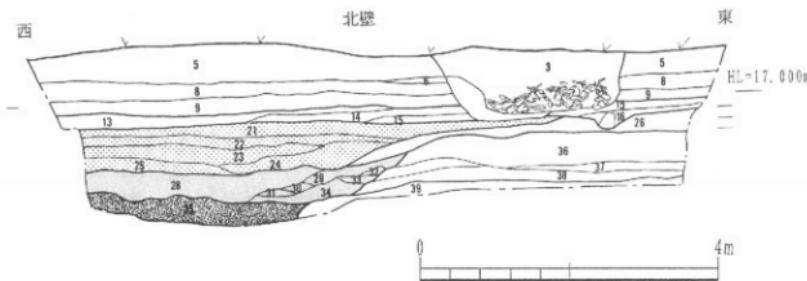


fig. 102 土層断面図（トーンは旧河道1堆積土）

第7層 (fig. 102-28)、黒灰色粘質土（シルト）である。旧河道1の中層に相当し、植物遺体等の有機質が多く含まれるところから、流れの遅い湿地状の堆積をしていたものと考えられる。また、この層の上面にて何らかの生痕と思われる不定形な窪みが多く見られた。また、この層の下部において、5世紀～6世紀の土器や木製品が多数出土した。

第8層 (fig. 102-35) は、灰褐色砂質土（粗砂）、黒灰色粘質土、疊層の互層状態である。5世紀～6世紀の土器を多数出土した。旧河道1の下層に相当する。

第9層 (fig. 102-36) は、黒色砂質土層である。古墳時代前期の土器が出土している。

第10層 (fig. 102-37, 38) は、暗灰色～黒灰色の砂質土層である。無遺物層である。

第11層 (fig. 102-39) は、淡緑灰色の砂質土層である。この調査区全体の基盤となっている無遺物層である。この層は、中砂～細砂を主体とし、間に鉄分の集積層や微砂を主体とする砂質上層を挟み、層厚は 1m 以上を測る。

古墳時代中期から近世におよぶ遺構群が計3面にわたり検出された。



fig. 103 第1遺構面 全景



fig. 104 第2遺構面 全景

第1遺構面 第3層までを除去したのち、第4層上面で溝、溝状遺構、杭列、土坑等を検出した。

溝1・3 北東～南西方向へ伸びる溝である。幅0.2～0.3m、深さ0.2～0.3mを測る。断面はU～V字形、底面はともに凹凸に富む。埋土は、淡灰色砂質土（粗砂）層である。溝1の北端部には0.1～0.2m大の角礫が充填されていた。その上面には、鉄分やマンガンが目立つ耕作上に相当する層が覆うところから、暗渠排水的な遺構が考えられる。

溝2 北西から南東方向に直線的にのびる溝である。最大幅1.2m、検出長5.0m、深さ0.3～0.4mを測り、底面は南西側がやや深くなる逆台形状を呈する。埋土中からは人頭大の角礫が数点出土している。

杭列1・2 南端部と東端部において、東西方向と南北方向の杭列を検出した。前者は、検出長8.0m、後者は、検出長1.6mである。ともに長さ0.1～0.2mの丸杭や丸杭を半蔵した杭を使用している。

土坑1～9 計8基の土坑を検出した。土坑4・5を除き、不整形なものがほとんどである。埋土はブロックを多く含む粘質土を主体とするものや灰色の砂質土からなるものまで様々である。土坑4・5は、ともに平面は方形で暗灰色の埋土を呈する。土坑5は、長方形の掘削内から方形の木枠を検出した。木枠は内法で東西0.4m、南北0.9mを測る。

第2遺構面 第4層を除去したのち、旧河道、石組遺構、土坑等を第6層上面にて検出した。

(飛鳥～奈良時代) 旧河道1は、調査区の西半分を南北方向に流れ、検出長23m、最大幅4.6mを測る自然旧河道1-a 河道である。埋土は大きく3層に分かれ、上層は飛鳥～奈良時代に、中・下層は、古墳時代の中期～後期に相当する。河道の中央部にかけて、多数の木製品（橋や建築部材および杭材）や転用硯等が出土している。

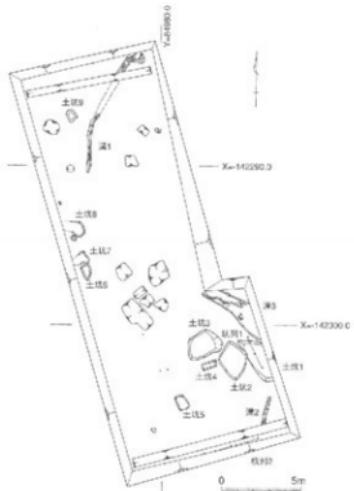


fig. 105 第1遺構面 平面図



fig. 106 第2遺構面 平面図 (トーンは木器集中部)